●癩豫防ニ關スル法令施行手續（明治四十二年五月訓令甲第二九五號）

第一條　明治四十年（七月）內務省令第十九號癩豫防ニ關スル件施行規則第二條ニ依ル患者又ハ其同伴者同居者ノ一時救護ヲ爲シタル旨ヲ其家族又ハ扶養義務者ニ通知ヲナストキハ被救護者ノ狀況ヲ詳記シ且引取ヲナスヘキ期限ヲ指定スヘシ

第二條　患者ヲ療養所ニ送致スヘキ指示ヲ受ケタル警察官署又ハ市町村長ニ之ヲ囑託スルコトヲ得前項ノ通知ハ家族又ハ扶養義務者ノ所在地警察官署又ハ市町村長ハ直ニ送致ノ手續ヲナシ同所ニ直送スヘシ

第三條　患者ヲ送致スルトキハ別紙樣式ノ送致書ヲ調製シ同時ニ送附スヘシ

療養所ニ送致セシ費用ハ明細仕譯書ヲ製シ所長ニ請求スヘシ

前項ノ費用ハ患者ノ食費、消毒藥價、寢具費、船車馬賃其他ノ諸費ニシテ食費ハ一日金拾五錢以內其他ハ實費ヲ給ス

第四條　患者及其同伴者同居者ノ一時救護ニ要スル費用ハ左ノ標準ニ據ルヘシ

一　藥價一日分金拾錢以內

一　診察料一回金貳拾錢以內

一　診斷書料一通金貳拾錢以內

一　食料一日金拾五錢以內

一　看護人又ハ番人給（一時救護所迄送致費共）一日金參拾錢以內

一　小屋掛料及借家料（寢具損料共）一日金參拾五錢以內

一　土葬火葬及墓標廣告料消毒藥價人夫賃共一式金五圓以內

前項費用ノ外救護上特ニ要スル費用ハ其狀況ヲ詳具シ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第五條　一時救護ニ要シタル費用ニシテ被救護者又ハ扶養義務者ヨリ辨償ヲ得サルトキハ其費用ノ明細仕譯書ヲ調製スヘシ辨償ヲ受クルコト能ハサル證憑書類ヲ添ヘ市ハ直接、町村ハ所轄郡役所ヲ經テ知事ニ其辨償ヲ求ムヘシ

警察官署ニ於テ前項ノ費用ノ辨償ヲ得サルトキハ其計算書ヲ調製シ知事ニ報告スヘシ

第六條　警察官署ニ於テ明治四十二年（五月）縣令第二十號（癩患者屆出方ニ關スル件）ニ依ル屆書ヲ受理シタルトキハ直ニ現場ニ臨檢シ成ルヘク人目ヲ惹カサル方法ヲ以テ消毒其他豫防法ヲ指示シ其實行ヲ監視シテ之カ遺漏ナキヲ期スヘシ

前項ノ屆書ハ其餘白ニ左ノ事項ヲ記入シ速ニ當廳ニ進達スヘシ

一　受理シタル年月日時

二　病況

三　扶養義務者又ハ其他ノ救護者ノ住所姓名及患者ノ續柄

四　其他必要ナル事項

第七條　患者ノ家又ハ其病毒ニ汚染シタル家ニ對シテハ左ノ各號ニ依リ消毒其他豫防方法ヲ指示スヘシ

一　患者ノ居室ハ可成別ニ之ヲ定メ他ノ家人等ト雜居セサルコト

二　患者ノ衣類寢具其他日用器具等ハ特ニ專用ノモノヲ備ヘ他ト混同セサル樣注意スルコト

三　患者ノ常用衣類敷布寢具等ハ時々消毒ヲ行フコト

四　患者ノ居室ハ淸潔ヲ保持スルコト

五　患者ノ居室ニハ消毒藥ヲ容レタル唾壺ヲ備フルコト

六　病毒ニ汚染シタル繃帶手巾等ハ消毒ヲ行ヒ患家ノ紙屑襤褸類ハ燒却スルコト

七　患者ノ外出ハ成ルヘク避ケシメ又理髮店、公衆浴場、料理店、飮食店、劇場、寄席、乘合ノ船車等公衆ノ出入スル場所ニ立入ラサルコト

八　患者ハ成ルヘク他トノ交通ヲ避ケシメ又理髮ニ從事セサルコト

九　患者ハ牛乳ノ搾取、飮食物、飮食器具（金屬陶器類ヲ除ク）玩具ノ調製又ハ其販賣其他病毒傳播ノ虞アル業ニ從事セサルコト

十　患者ノ住居シタル家屋ハ消毒ヲ行ヒタル後ニアラサレハ他ニ使用貸與又ハ授與セサルコト

十一　患者ノ使用シタル衣類、寢具、器具ハ勿論家人ノ常用衣類等病毒ニ汚染シ又ハ汚染ノ疑アル物件ハ消毒ヲ行ヒタル後ニアラサレハ他ニ使用、授與、移轉又ハ遺棄セサルコト

十二　患者ノ一時滯留シタル場合ニ於ケルモ其占居シタル室竝ニ其使用シタル衣類、寢具、器具等ニ對シテモ亦前二號ヲ適用スルコト

十三　看護等ノ爲メ常ニ患者ニ近接シ又ハ病毒汚染物件ヲ取扱フ者又ハ常ニ手指ノ消毒ニ注意シ又成ルヘク上被ヲ著用シ時々之ヲ消毒スルコト

十四　患者ノ死體ハ消毒ヲ行ヒタル後成ルヘク之ヲ火葬スルコト

十五　消毒方法ハ明治三十年內務省令第十三號ノ規定ニ準シ施行スルコト

患者送致ノ爲メ使用シタル車輛其他ノ器具ハ警察官署ニ於テ便宜之ヲ消毒スヘシ

第八條　警察官署ニ於テハ患者根帳ヲ備ヘ患者ノ屆出ヲ受ケタルトキ其本籍、住所、族稱、職業、姓名、生年月日、病名及診定年月日其他必要ナル事項ヲ登載スヘシ但轉歸屆ヲ受ケタルトキハ其旨記入スヘシ

第九條　患者他署管內ヘ移轉シタルトキハ其根帳寫ニ第六條第二項第二號乃至第四號ノ事項ヲ附記シ速ニ移轉地警察官署ニ通知シ同時ニ其旨ヲ知事ニ報告スヘシ

前項ノ通知ヲ受ケタル警察官署ハ本手續ノ定ムル所ニ依リ相當處置ヲ爲スヘシ

第十條　警察官署ニ於テ明治四十年（七月）內務省令第十九號明治四十年法律第十一號施行規則第六條第二項ニ該當スル患者アリタルトキハ其事由ヲ詳記シ直ニ知事ニ報告スヘシ

第十一條　療養所ヘ送致ノ途中宿泊ヲ要スル患者アルトキハ最寄町村ニ於テ相當ノ便宜ヲ與フヘシ但警察官署ニ於テ一時救護中ノ患者ニ於ケル亦同シ

別紙樣式

年　月　日

九州癩療養所御中

何警察官署（市町村役場）印

癩患者送致書

氏名		身分	何誰
本籍地	何府縣何郡市何町村何番地又ハ無籍若ハ本籍不明	生年月日	
住所	何府縣何郡市何町村何番地又ハ一定ノ居所ヲ有セス徘徊ス		

●癩療養所取締ヲ植木分署ヘ屬セシムルノ件（明治四十二年七月訓令甲第三六號）

自今九州療養所ノ取締ヲ山鹿警察署植木分署ニ屬セシメ候條其旨心得ラル可シ

●癩療養所歲入歲出其他出納ニ關シテハ熊本縣會計ニ關スル諸規程ヲ準用スルノ件（明治四十年十一月達甲第一六號）

九州癩療養所歲入歲出及物品ノ出納其他旅費額諸給與額竝支給方法等ハ總テ熊本縣會計規則及會計ニ關スル諸規程ヲ準用ス

●癩療養所救護費徵收免除規程（明治四十二年十月達甲第二六號）

第一條　新ニ患者ヲ收容シタルトキハ療養所長ハ速カニ患者竝ニ其扶養義務者ノ身元ヲ取調ヘ別紙樣式ニ依リ證憑書類ヲ添付シ救護費（送致費ヲ含ム）ノ全部又ハ一部ノ徵收又ハ免除ヲ具申スヘシ

前項證憑書類ハ處分後療養所ヘ送附スヘシ

第二條　救護費ノ全部又ハ一部ヲ免除シタル者ト雖所長ハ時々患者竝扶養義務者ノ身元ヲ取調ヘ辨償ノ資力アリト認ムルトキハ前條ニ依リ具申スヘシ

第三條　徵收又ハ償還ヲ受クヘキ救護費ハ左ノ區別ニ依リ送致費ヲ除クノ外收容日數ニ應シ計算スヘシ但シ一日ニ滿タサル日ト雖仍ホ一日ニ計算ス

一食費　一日金十三錢
一藥冶費　一日金五錢
一送致費　實費額

第四條　救護費徵收ヲ免除シタル者ニシテ他ノ療養所設置區域内道府縣ニ本籍ヲ有スル者ナルトキハ其費用ハ每月末日迄ノ分ヲ計算シ當該療養所ヘ償還ノ請求ヲ爲スヘシ

發見地及年月日			明治何年何月何日何郡市何町村
一時救護地			明治何年月日ヨリ何年月日迄何方
所持金品			著衣何々所持金何程所持品何々何程何々
扶養義務者ノ住所氏名			何府縣何郡市何町村何番地　何誰
扶養義務ヲ履行スルコト能ハサル理由			資力ナク且扶養義務者ナシ、資力ナシ、扶養義務者アルモ其義務ヲ履行スルコト能ハサル者ナルコト何市町村長證明書ノ通リ
病歷	既往症		
	現症		明治何年何月何日午前後何時
療養所ヘ向ケ出發セシ日時			
備考			

第五條　患者死亡シ其遺留ノ金錢又ハ有價證券ヲ以テ若ハ遺留物件ヲ賣却シ救護費ニ充テントスルトキハ其金額、額面、物件ノ種類竝ニ見積價格ヲ記シ具申スヘシ

附　則

本規程制定前ニ收容シタル患者ノ救護費ハ本規程ニ準シ具申又ハ請求スヘシ

救護費（免除／徵收）具申書

收容年月日	族籍 氏名 年齢
本籍	
住所	
一時救護地	
送致者	
取調ヲ爲シタル官公署	
患者ノ資産	
扶養義務者ノ住所氏名年齢	
扶養義務者ノ資産	不動産　動産
患者ト義務者トノ續柄	患者ノ戸主又ハ祖父母父母子孫等　扶養義務者ノ職業
證憑書類	別紙何々何通
意見	救護費「全部」又ハ「何程」「徵收」「免除」或ハ送致費全部又ハ「何程ノ内何程」徵收
備考	

右身元調査ノ結果前前項ノ通リニ候救護費「全部」又ハ一時徵收又ハ免除相成度此段具申候也

年　月　日　　　所　長　名

知事宛

●トラホーム豫防ニ關スル件（明治四十年六月訓令第三〇號）

「トラホーム」ハ一種ノ觸接性傳染病ニシテ其病毒ハ甲ヨリ乙ニ或ハ物體ヲ介シテ間接ニ傳染シ該病毒ニ感染シタル人若クハ汚染セル物體トノ關係多キヲ加フレハ其感染ニ好機ヲ與フルコト從ツテ大ナルモノナリ最近ノ調査ニ依レハ本縣縣立學校生徒四千七百四十五名ニ對スル患者數千百五名高等尋常小學徒生校十三萬二千八百七名ニ對スル患者數四萬二百九十三名ニシテ工場職工三千八百二十七名ニ對スル患者數五百四十名ノ多キヲ見ルニ至リ實ニ寒心ニ堪

エサルナリ今ニ於テ極力之レカ豫防ノ法ヲ講セサレハ如何ナル慘狀ヲ釀スヤモ測リ難シ故ニ左記事項ヲ施行シ以テ豫防ノ實效ヲ期スヘシ

一　郡市役所ニ於テハ毎年一回「トラホーム」豫防講習會ヲ開キ學校醫ハ勿論郡市內開業醫ヲ勸誘出席セシメ該病ノ診斷及治療事項ヲ講習セシムルコト

二　通俗衛生談話會ヲ開催シ「トラホーム」豫防ニ關スル談話ヲナシ一般ノ注意ヲ喚起スルコト

三　郡市町村立學校ニ於テハ左記事項ヲ施行スルコト

（イ）物品貸借使用ノ禁止ヲ勵行スルコト

（ロ）患者ニ一定ノ徽章ヲ付スルコト

（ハ）教室ニ於テハ患者ヲ別席セシメ可成隔離ノ方法ヲ取ルコト

（ニ）校內適宜ノ場所ニ活栓付淸水容器ヲ備ヘ生徒カ遊戲等ヲ爲ス前後ニ必ス手ヲ洗滌セシムルコト

（ホ）便所ノ手洗水ハ可成活栓付ノ容器ヲ用ヒ又普通ノ手洗鉢ヲ用フルトキハ患者用ヲ區別スルコト

（ヘ）生徒昇校ノ際ハ必ス淸潔ナル手拭ヲ携帶セシムルコト

（ト）出入口ノ引手及梯ノ手摺其他手ヲ觸ルヘキ器物ハ日々消毒藥又ハ淸水ヲ以テ拭淨スルコト

（チ）生徒ノ共用ニ係ル器具ハ患者用ノモノヲ區別シ不得止共用スルトキハ相當消毒ヲ行フコト

（リ）敎室及遊戲場ハ拭掃及撒水ヲ爲シ塵埃ノ飛散ヲ防クコト

（ヌ）職員ノ視器檢查ヲ行ヒ「トラホーム」疾患アルトキハ相當ノ注意ヲ爲スコト

（ル）生徒ニハ淸潔ヲ保ツノ必要ト衛生ノ主旨ヲ敎示シテ習慣性ヲ養成スルコト

（ヲ）時々父兄談話會ヲ開キ「トラホーム」豫防ニ關スル談話ヲ爲スコト

（ワ）學校醫ノ設ケナキ所ハ便宜學校醫ノ資格アル醫師ニ囑託シテ豫防治療ヲ爲サシムルコト

四　郡市町村立學校ニ於テハ各其寄宿舍ニ對シ左記事項施行シ警察署分署ニ於テハ工場ノ寄宿舍ニ對シ左記事項ヲ施行セシムルコト

（カ）生徒ニ對シ三ケ月ニ一回視器檢查ヲ行フコト

（イ）已ニ入舍セルモノ及入舍セントスルモノハ視器ノ檢查ヲ行ヒ「トラホーム」患者ナルトキハ健康者ト區別シ分泌等ノ傳染ノ危險著明ナルモノハ入舍ヲ禁スルコト

（ロ）洗面盥、手拭、寢具ハ凡テ各自ノ專有トシ共同使用ヲ禁スルコト

（ハ）患者所用ノ器具（洗面盥、手拭等）ハ日々日光ニ曝露乾燥スルコト

（ニ）室內ハ時々掃除シ窓戶ヲ開放シテ乾燥セシメ淸潔ヲ保ツコト

（ホ）便所ノ手洗水ハ踏出龍吐口又ハ活栓付容器ヲ用ヒ手拭ノ共用ヲ禁スルコト

（ヘ）患者ハ一定ノ方法ヲ設ケ治療スルコト

（ト）浴槽ハ患者用ノモノト區別スルカ又ハ健康者ヲ先ニシ患者ヲ後ニスルカ混同ヲ避クルコト

（チ）工場ノ寄宿舍ニシテ囑託醫ナキトキハ便宜囑託シテ豫防及治療ヲ爲スコト

五　警察署分署ニ於テハ左記事項ヲ施行セシムルコト

（イ）宿屋、貸座敷ノ寢具ハ白色ノ襟及敷布ヲ用ヒシメ時々交換、洗濯又ハ日光ニ曝露セシムル等常ニ清潔ヲ保タシメ又宿屋、貸座敷、料理屋、飲食店、待合茶屋等ノ浴場及洗面所ニハ左ノ掲示ヲ爲サシメ便所ノ手拭共用ヲ禁セシムルコト

（浴場掲示）

トラホーム感染スル虞アリ湯桶ハ洗ツテ御使下サレタシ

（洗面所掲示）

トラホーム感染スル虞アリ洗面盥ハ洗ツテ御使下サレタシ

（ロ）溫泉場、湯屋ニ於テハ浴客ノ使用スル湯桶ヲ時々日光ニ曝露乾燥セシメ手拭ヲ貸與セシメス左ノ掲示ヲ爲サシムルコト

トラホーム感染スル虞アリ手拭ハ御貸不申湯桶ハ洗ツテ御使下サレタシ

（ハ）神社佛閣ニ於ケル手洗鉢ノ手拭ヲ掲ケシメサルコト

●傳染病月報進達ノ件

（明治三十四年二月警達甲第四號）

其署所轄内ニ於テ傳染病患者發生シタルトキハ終熄ニ至ルマテ爾今每月發病及ヒ轉歸等ヲ調査シ別紙雛形ニ據リ製表シ翌月三日迄必ス進達セラルヘシ

傳染病月報（何月分）　何警察署何分署

村名	姓名	病名	發病月日	轉歸月日 全治	轉歸月日 變症死亡

●獸疫毒人體ニ感染セシトキノ取扱方ノ件

（明治二十年十月訓令第一〇一號）

獸疫（炭疽熱）毒人體ニ感染シタルモノノ諸排泄物ハ頗ル危險ノ虞アルヲ以テ嚴重ノ消毒法ヲ施行シ患者ハ發疹窒扶斯病及痘瘡病ニ準據シ取扱フヘシ

●流行性腦脊髓膜炎患者屆出方ノ件

（明治三十六年十一月縣令第九一號）

一　醫師流行性腦脊髓膜炎若クハ其疑アル患者ヲ診斷シ又ハ其死體ヲ檢案シタルトキハ十二時間以内ニ患者若クハ死體所在地ノ警察官吏又ハ市町村長ニ屆出ヘシ

項ヲ記載スヘシ

患者ノ住所氏名年齡

病名

發病月日

診斷ノ月日時（但死後ノ檢案若クハ再診後ニ於テ流行性腦脊髓膜炎若クハ其疑アルモノト診定セシトキハ其月日時）

但轉歸ノ場合ハ其旨屆出ヘシ

二　劇シキ頭痛、頂部ノ疼痛、强直、搐搦、痙攣、癱瘓、失神等流行性腦脊髓膜炎ニ疑ハシキ症候ヲ呈スル患者アル家ニ於テハ速カニ醫師ノ診斷ヲ受ケ又ハ戸主首長若クハ之ニ代ルヘキ者ヨリ直ニ警察官吏又ハ市町村長ニ屆出ヘシ

三　患者ハ成ルヘク他ノ健康者ヨリ隔離シ患者ノ鼻汁、唾液、咯痰、襯衣、手巾、衣服竝ニ患者ノ飮食器具其他患者ノ居住シタル室及病毒汚染ノ疑アル物件ハ當該吏員ノ指示ニ從ヒ消毒方法ヲ施行スヘシ

本令第一項第二項ニ違背シ又ハ第三項ノ指示ニ從ハサル者ハ拘留又ハ科料ニ處ス

本令ハ發布ノ日ヨリ施行ス

●流行性腦脊髓膜炎屆出ニ對スル取扱方ノ件

（明治三十六年十一月訓令甲第六七號）

一　警察官吏又ハ市町村長ニ於テ流行性腦脊髓膜炎若クハ其ノ疑アル者ノ屆出ヲ受ケ又ハ之ヲ認知シタルトキハ互ニ通報シ直ニ現場ニ臨ミ健康者隔離或ハ消毒方法等相當處置シ所轄警察官署ニ於テハ左記甲號樣式ノ報告書ヲ警察部ニ送付スヘシ其轉歸ノ場合ニ於テハ報告方乙號樣式ニ依ルヘシ又市町村長ハ醫師ノ屆書ヲ市ハ直ニ町村長ハ郡役所ヲ經テ速ニ當廳ヘ進達スヘシ

二　醫師二人以上診斷ヲ異ニスルカ又ハ醫師ノ診斷ニ疑ヒアルトキハ市町村長ハ市町村醫ヲシテ檢診セシムヘシ

甲號樣式

甲第　號　明治　年　月　日

署　名

乙號樣式

乙第　號　明治　年　月　日

署　名

腦脊髓膜炎患者報告						
族籍氏名	年齡	村大字	系統	主治醫	備考	
						職業
						發病

腦脊髓膜炎患者轉	
全治月日	氏名

歸報告

死亡月日

第八章　檢疫

●船舶檢疫施行心得

（明治三十二年十一月訓令乙第二四五號）

船舶檢疫施行心得左ノ通リ相定メ候條傳染病豫防法竝ニ船舶檢疫規則ニ據ルノ外本心得ニ依リ施行スヘシ

船舶檢疫施行心得

一檢疫掛（檢疫ニ從事スル檢疫委員及巡査ヲ云フ）乘客ニ對シテハ叮嚀懇切ヲ旨トシ苟モ麁暴等ノ擧動アラサル樣深ク注意スヘシ

一船舶檢疫ハ嚴密且ツ敏速ニ執行シ乘客船員等ニ不便ヲ與ヘサル樣注意スヘシ

一檢疫スヘキ船舶入港スルトキハ船長又ハ事務員ヲシテ船內便宜ノ場所ニ乘客船員ヲ集メシメ檢疫ヲナスヘシ

一乘客ニシテ血色ヲ失ヒ又ハ甚シク倦怠ノ狀ヲ呈スルモノアラハ懇切ニ其容體ヲ問ヒ聊タリトモ不審ノアル者ハ檢診スヘシ若シペスト其他ノ傳染病ナルカ若クハ其疑アルトキハ病者ハ勿論同室シタル者及其他病毒汚染シタルモノト認ムル者ハ相當ノ手續ヲ爲スヘシ此場合ニ於テハ病毒散逸セサル樣注意スヘシ

一發熱其他異狀アル者ニ對シ充分檢診ヲ爲シ傳染病ノ疑ナキトキハ直ニ上陸又ハ進航ヲ許シ其注意方ヲ進行目的地ノ船舶檢疫所若クハ行先地ノ警察官署又ハ市町村長ニ通知スヘシ

一船舶ニ於テペスト病又ハ其疑アル患者ヲ發見シタルトキハ左ノ事項ヲ檢問シ速ニ檢疫委員ニ報告シ尙必要ト認ムルトキハ關係アル警察官署若クハ市町村長ニ通知スヘシ

一身分職業族籍住所氏名年齡

一發病ノ月日時

一乘船前ハ執レノ地ニ幾日間滯在シ又ハ何日執レノ地ヲ經過セシヤ

一何月何日執レノ地ニ於テ始メテ違和ヲ感シタルヤ

一違和ヲ感シタル二三日前ヨリ飮食起臥ヲ共ニシタル者アリヤ現ニ同船セルヤ又幾人ナルヤ

一患者ハ他ノ船室ニ往來シ又ハ室ヲ移シタルコトナキヤ

一患者ノ看護ニ從事シタルモノ又ハ同行者ナキヤ

一病毒汚染シタル物品又ハ其疑アル物品ヲ所持セルヤ又是等ノモノヲ投棄シタルコトハナキヤ及其場所

一發病原因系統ニ關スル事項

一其他必要ト認ムル事項

一船舶ニ於テハ概ネ左ノ場所ニ於テ器具藥品ヲ使用供給セシムヘシ

一船舶及船具淸潔消毒

一船員ニ要スル消毒

一船舶ニ於テ賣買スル飮食物又ハ不熟ノ果物等ニハ特ニ注意スヘシ

一檢疫所及船舶ニ係ル狀況ノ報告又ハ勤務上ニ關スル意見ハ檢疫事務所長副長（檢疫所所在地ニ事務所長副長アルトキハ警察署分署長）ヲ經檢疫委員部ニ提出スヘシ

但至要ヲ要スル場合ハ直ニ檢疫委員部ニ直達シ事務所長副長ヘハ事後通報スルモ妨ナシ

一檢疫所ニアル委員ハ書類ノ管理及報告其他物品保管ノ責ニ任ス

一檢疫所ニ關スル物品ノ請求又ハ購求其他金錢支出ニ係ルコトハ總テ現金前渡ヲ受ケタル委員ノ判決ヲ受クヘシ

●汽車檢疫心得

（明治三十五年八月訓令乙第二一五號）

汽車檢疫施行心得左ノ通リ相定メ候條傳染病豫防法竝ニ汽車檢疫規則ニ據ルノ外本心得ニ依リ施行スヘシ

汽車檢疫心得

一檢疫ノ爲メ每列車ニ乘車スル檢疫係員ハ檢疫委員ノ醫師竝ニ檢疫委員一名以上ヲ以テ一列車ノ係員トス

一乘客檢問ノ際ハ先有病地ヲ發シ又ハ經過シ來リタルヤ否ヲ問フヘシ

但重ニ注意ヲ要スヘキハ三等旅客ニ對シテハ必要ニ應シ檢問スルコト（以下同シ）

一有病地ヲ發シ又ハ經過シタル貨物積込ノ有無ヲ問フヲ要ス

一檢疫係員ハ（檢疫ニ從事スル檢疫委員及巡査）乘客ニ對シ叮嚀懇切ヲ旨トシ苟モ傲暴傲慢等ノ擧動アラサル樣深ク注意スヘシ

一檢疫係員各列車內ヲ視察スル爲メ通過スルトキハ一室每ニ乘客ニ對シ其來意ヲ告ケ置クヲ要ス假令ハ「本職ハ檢疫ノ爲メ乘車シ居ルヲ以テ時々列車內ヲ經過スル故豫メ此旨ヲ了知アリタシ」「若シ發病者アル時ハ其何病タルヲ問ハス直チニ告知アランコトヲ望ム」ト陳シ置クノ類ナリ

一乘客ニシテ血色ヲ失ヘルカ又ハ睡眠ヲ貪リ或ハ其甚敷倦怠ノ狀ヲ呈スルモノアラハ懇切ニ其容體ヲ問ヒ聊カタリトモ不審アルモノハ檢診スヘシ

一疾病ノ狀アルモノハ充分注意檢診ヲ行フハ勿論トス雖トモ場合ニヨリ下車セシメ檢診スルモ差支ヘナシ若シ虎列拉病ノ疑アルトキハ病者ハ勿論同室シタルモノハ相當ノ手續ヲ爲スヘシ此場合ニ於テハ病毒散蔓セサル樣特ニ注意スヘシ

一汽車中ニ於テ虎列拉ノ疑ヒアル者アルトキハ左ノ事項ヲ檢問シ速ニ檢疫委員長ニ報告シ尙必要ト認メタルトキハ關係警察官署又ハ市町村長ニ通知スヘシ

一　身分職業住所氏名年齡

一　發病ノ月日時

乘車前就レノ地ニ幾日間滯在シ又ハ何日就レノ地ヲ經過セシヤ

何日ヨリ何地ニ於テ違和ヲ感セシヤ

就レノ地ニ於テ吐又ハ瀉ヲ爲シタルヤ

違和ヲ感シタル五日前ニ飮食起臥ヲ共ニシタル人ナルヤ

他ノ車室ニ往來シ又ハ室ヲ移シタルコトナキヤ

看護ニ從事シタル者又ハ同行者ハナキヤ

病毒汚染セル物品又ハ其疑アルヤ或ハ投棄シタル物品ハナキヤ及其場所

同車中殊ニ密接シ來リタル者ノ住所氏名年齡

一鐵道會社ヨリハ概ネ左ノ場合ニ於テ器具藥品ヲ使用供給セシムヘシ

列車内ノ清潔消毒
停車場内ノ清潔消毒
鐵道係員ニ要スル消毒

一汽車檢疫ハ可成嚴密且敏速ニ執行シ發車時間ニ差支ヘサル樣注意スヘシ

一疾病ノ狀アル者ヲ發見シ充分ノ檢診ヲ爲シ異狀ナキトキハ直ニ進行セシメ其注意方ヲ次驛ノ汽車檢疫所ニ通報シ檢疫所ナキ場合ハ其行先地ノ警察官署又ハ市町村長ニ通知スヘシ

一各府縣虎列拉有病地ヨリ來リタル乘客（虎列拉病ナキ地方ヨリ有病地ヲ經過シタルモ其地ニ宿泊セサル者ヲ除ク）及列車内ニ虎列拉患者發生セシトキ其患者ニ密接シ病毒感染ノ虞アル者ハ住所氏名年齡ヲ聽取シ各其本人行先地ノ警察官署ニ通報スヘシ

一停車場ニ於テ賣買スル飲食物又ハ不熟ノ果物等ニハ特ニ注意スヘシ

一檢疫係員ハ鐵道係員常ニ氣脈ヲ通シ可成閒滯ニ所置スルヲ要ス

一檢疫所及汽車檢疫ニ關スル狀況報告又ハ勤務上ニ關スル意見等ハ檢疫事務所長副所長（檢疫所所在地ニ所長副所長アラサル地ハ警察分署長）ヲ經テ檢疫委員部ニ提出スヘシ
但至急ヲ要スル場合ハ直ニ檢疫委員部ニ直達シ事務所長副所長ヘハ事務報告スルモ妨ケナシ

一檢疫所ニアル委員ハ書類ノ管理及報告其他物品保管ノ責ニ任ス

一各檢疫所ニ關スル物品ノ請求又ハ購求其他金錢支出ニ係ル事ハ總テ現金前渡ヲ受ケタル委員ノ決判ヲ受クヘシ

●汽車船舶檢疫委員ノ徽章ニ關スル件（明治三十二年十一月告示第三六八號）

本縣汽車船舶檢疫ニ從事スル檢疫委員ハ左腕ニ「檢」ト朱書セル白布ヲ纏ヒ記章トス

第九章　種痘

●種痘施行ニ付注意ノ件（明治四十三年四月達甲第六號）

市町村種痘事務整理ニ關シ今回別冊ノ通リ郡市長ヘ通牒ヲ發シタリ惟フニ種痘ノ施行ニ就テハ豫メ種痘ヲ行フ必要アル者ヲ調査シ遺漏ナキヲ期スルハ最モ肝要ノ義ナルカ人口多數ナル市街地ニ於テハ豫メ寄留等ヲ怠ル者尠カラス是等ニ對シテハ各戸ニ付調査スルノ外ナキヲ以テ警察官吏ニ於テ戸口調査施行ノ際此點ニ注意セシメ則チ種痘定期ニ在ル地等無屆ヲ發見シタルトキハ市町村長ニ通報セシメ又市町村長ニ於テ種痘期日ヲ指定シタル場合ハ同シク警察官吏ヲシテ特ニ種痘法第十四條ノ調査ヲ勵行セシムル等適當ノ補助ヲ爲サシメ相待チテ之カ實效ヲ擧クルコトニ注意努力セラルヘシ

第十章　墓地及埋火葬

●墓地及埋葬取締細則（明治十八年二月甲第七號布達）

第一條　墓地ハ從前許可セラレタル場所ニ限ルヘシ但止ムヲ得サル事情アリテ之ヲ取廣メ又ハ新設スル場合ハ此限ニアラス

第二條　墓地ヲ新設スルハ國道縣道河川ニ沿ハス人家ヲ隔ツルコト凡六十間以上ニシテ土地

高燥飲用水ニ障ナキ地ヲ選ムヘシ

第三條　火葬場ハ人家及人民輻輳ノ地ヲ隔ツル百二十間以上ニシテ風上ニ位セサル地ヲ選ミ火爐煙筒ヲ備ヘ臭煙ヲ防クノ裝置ヲナシ且周圍塀墻ヲ設クヘシ

第四條　墓地ヲ取廣メ又ハ之ヲ新設シ及ヒ火葬場ヲ設置セントスルトキハ（第一號書式ニ倣ヒ）郡市役所及ヒ所轄警察署ヲ經テ縣廳ニ出願スヘシ但傳染病埋葬地ノ新設ハ本條及ヒ明治十三年本縣甲第三十三號布達ニ準據スヘシ

第五條　墓地ハ種族宗旨ヲ別タス其町村ニ本籍ヲ有シ若クハ其町村ニ於テ死シタルモノハ何人ニテモ之ヲ葬ムルコトヲ得但死刑ニ處セラレタル者ハ墓地ノ一偶ヲ區劃シテ其内ニ埋葬スヘシ

第六條　墓地ノ周圍ニハ樹木ヲ栽ユヘシ墓地ノ内ニハ一丈以上ノ樹木塀墻ヲ存スヘカラス但從前ヨリ現存スル者ハ此限ニ在ラス

第七條　墓地ハ清潔ヲ旨トシ掃除ヲ怠ルヘカラス

第八條　既設ノ墓地及ヒ火葬場ト雖モ道路ノ更正又ハ健康上害アリト認ムルトキハ變更ヲ命シ又ハ埋火葬ヲ禁スルコトアルヘシ

第九條　壙穴ノ深サハ六尺以上タルヘシ若シ土地ニヨリ六尺ニ至リ難キモノ及ヒ火葬ノ遺骨ヲ埋藏スルモノハ格別トス

第十條　死屍ヲ埋葬又ハ火葬セント欲スル者ハ（第二號書式ニ倣ヒ）左ノ諸項ニ據リ市町村長認許ノ證ヲ乞フヘシ

病死ニ係ルモノハ主治醫ノ診斷書ヲ差出スヘシ

醫師ノ治療ヲ受クルノ猶豫ナクシテ死亡シタルモノハ醫師ノ檢案書ヲ差出スヘシ

妊娠四个月以上ノ死胎ニ係ルトキハ醫師若クハ產婆ノ死產證ヲ差出スヘシ

變死ニ係ルトキハ立會醫師ノ檢案書ニ檢視官ノ檢印ヲ乞ヒ之ヲ差出スヘシ

囚徒ノ屍死ヲ引取リタルトキハ監獄醫ノ死亡證書寫ニ司獄官ノ檢印ヲ乞ヒ之ヲ差出スヘシ

本縣ノ者他府縣ヘ寄留又ハ旅行中死亡シタル死屍ヲ引取リタルトキハ該地ノ市町村長又ハ相當官署ノ交付書ヲ差出スヘシ

第十一條　市町村長ハ前條ノ願書及ヒ證書ヲ領收スルニアラサレハ埋火葬ノ認許證ヲ與フヘカラス

第十二條　火葬ハ成ルヘク日沒後之ヲ行フヘシ

第十三條　火葬シタル遺骨ヲ埋藏スルハ更ニ認許證ヲ乞フニ及ハス

第十四條　改葬セント欲スル者ハ死者ノ病名竝ニ死亡ノ年月日改葬スヘキ墓地等ヲ詳記シ衛生委員市町村長連署（第二號書式ニ倣ヒ）所轄ノ警察署又ハ分署ニ出願スヘシ

第十五條　誌銘傳贊等ノ文ヲ刻スル碑標ヲ建設セントスル者ハ其草稿及ヒ建設スヘキ場所等ヲ詳記シ市町村長連署所轄警察署ニ出願スヘシ但シ墓地外ト雖トモ本文ニ準ス尤モ死者ノ姓名族籍官位勳爵法號及ヒ生死ノ年月日建立者ノ姓名ヲ記スルニ止マル墓標ハ此ノ限ニアラス

第十六條　墓地火葬場ニハ必ス管理者ヲ置キ其住所姓名ハ所轄警察署又ハ分署及ヒ市役所町村役場ニ屆置クヘシ

第十七條　管理者ハ其町村内適當ノ者ヲ選擧シ其費用ハ該市町村共同又ハ墓地所有者ヨリ適

宜支辨スヘシ但寺院住職者ヲ以テ管理者ト爲スモ妨ケナシ

第十八條　管理者ハ葬主ヨリ領收シタル市町村長ノ認許證ヲ編纂シ毎三个月所轄警察署ノ檢閲ヲ受ケテ之ヲ市役所町村役場ヘ差出スヘシ

第十九條　管理者ハ墓地ノ繪圖及墓籍ヲ調製シ置クヘシ

第二十條　管理者ハ必ス埋火葬ニ立會諸般ノ取締ヲ爲スヘシ

第二十一條　管理者ハ月一回以上必ス墓地火葬場ヲ巡視シ不潔ナキ樣注意スヘシ

第二十二條　此細則ニ違背シタル者ハ違輕罪ニ處セラルヘシ

第一號書式

墓地新設又ハ取廣メ若クハ火葬場設置願

何郡市何町村字何番地

一山　林（又ハ原野畑カ）般別何畝步（持主何某又ハ官有地第何種）

私共儀何何ノ事情（可成詳記スルヲ要ス）有之（墓地新設）又ハ（取廣メ）若クハ（火葬場設置）仕度候條御檢査ノ上御許可被成下度別紙構造法（構造法ヲ添ルハ火葬場設置ニ限ル）繪圖面（構造法圖面共明細ニ記スルヲ要ス）相添地主一同連署此段奉願候也

何郡市何町村人民總代（總代ハ二名以上ヲ立ルヲ要ス）　何之　誰印

何　之　誰印

何部市何町村何番地族籍地主　何之　誰印

年　月　日

知事宛

前書願出候ニ付奥書進達候也

衛生委員　何之　誰印

市町村長　何之　誰印

何郡長　何之　誰印

第二號書式

認許證願

何郡市何町村番地族籍身分職業（既婚未婚ノ別既婚者ハ其配偶ノ有無）　何之　誰印　年齡

右ハ別紙醫師診斷書又ハ何何之通何年何月何日何時死去候ニ付何月何日何時何處墓地又ハ火葬場ニ於テ火葬又ハ火葬仕度候間認許證御下附被下度此段相願候也

年　月　日　何之　誰印

何郡市何町村長何之誰殿

第三號書式

改葬願

右ハ何年何月何日死去何處墓地ヘ埋葬致置候處今般何處墓地ヘ改葬仕度候間何卒御許可被下度此段奉願候也

故何之誰

肩書前ニ同シ

年　月　日

何警察署長又ハ分署長何某殿

願主　何之誰印
衛生委員　何之誰印
市町村長　何之誰印

●墓地及埋葬取扱手續　（明治十八年一月　廳第一九號）

第一條　墓地ヲ取廣メ又ハ之ヲ新設シ及ヒ火葬場ヲ設置セントシテ願書差出シタルトキハ該取締細則ニ準據シ檢査ヲナシ檢査濟ノ證ヲ添付シ差出スヘシ

第二條　改葬ヲ出願シタル者アルトキハ改葬ヲ爲スヘキ理由ヲ取調ヘタル上ニテ允許スヘシ

第三條　墓地ノ內外ヲ論セス誌銘傳贊等ノ文ヲ刻スル碑表及ヒ碑標ヲ建設セントシテ出願ヾタルトキハ其草稿相添ヘ警部長ヘ稟議ノ上允許スヘシ

第四條　該取締細則第三條ニ風上ニ位セサル者トアルハ該地ノ恆風ヲ云フ但恆風トハ譬ヘハ熊本市ノ如キハ南風ヲ以テ恆風トスルノ類ナリ

第五條　墓地又ハ火葬場新設竝取廣メ出願ノ際ハ遂檢査其意見書ニハ國道縣道人家或ハ耕作路及ヒ河川耕地迄ノ距離凡ソ何程ト記スヘシ

第六條　山林原野等無之シテ耕地ニ設置セントスルトキハ其理由等詳細記スヘシ

第七條　墓地及埋葬取締細則第十八條中認許書ノ檢閱ハ分署ニ於テ爲スモ妨ナシ

●墓地ニ係ル願伺取扱ノ件　（明治十八年二月　第一四四號）

自今墓地ニ係カル願伺書ヲ受付ケタル節ハ原地種地目等相違無キ哉否調査ヲ遂ケ民有地ニ屬スル分ハ（除租）（賦租）官民地ハ拂下願共取束所轄警察署ヘ差出スヘシ此旨相達候事

●墓地火葬場新設及取廣メニ警察官臨檢ノ件　（明治十八年四月　規第二二號）

墓地火葬場新設又ハ取廣メ願出タルトキハ可成警部ノ內ヲシテ臨檢セシムヘシ若シ差支アルトキハ巡査中ヨリ適當ノ者ヲ選ヒ檢査セシムヘシ此旨相達候事

●墓地火葬場取締ニ關スル件　（明治三十五年三月　訓令甲第三一號）

近來墳墓ヲ發掘シテ人骨ヲ蒐集シテ製藥者又ハ賣藥商等ニ販賣スル者有之趣管下未タ之カ採拾若ハ蒐集セシ者アルヲ發見セサルモ現ニ人骨賣買セシ藥店有之右ハ容易ナラサル事體ニ付將來墓地及火葬場管理者ノ監督ヲ嚴重ナラシムルハ勿論常ニ墓地及火葬場ノ取締ヲ周密ナラシメ若シ違法ノ者アルトキハ假借ナク處分セラルヘシ

●熊本市內墓地ニ埋葬禁止ノ件　（明治十九年四月　甲第四四號布達）

熊本市內ノ義ハ明治七年七月無號達ヲ以テ飽田郡室園村地內立田山外八箇所ニ確定セシ墓地ノ外市內ノ墓地ニハ自今埋葬スルヲ禁ス但夫婦ノ內一人前死シ後死者合葬ノ情願アル者ハ其事情ヲ具シ警察署ヘ願出ヘシ尤モ火葬ノ遺骨ヲ改葬スルハ此限ニ在ラス

參照
無號明治七年七月
第六編　衛生　第十章　墓地及埋火葬

熊本墓地ノ儀人家稠密ノ場所ニシテ身體健康ノ害有之候ニ付追埋葬差止ノ儀相達置候通ニ付自今左之通

一龍田山墓地　二千百六坪八合
一富尾山墓地　千八百十八坪
一花岡山墓地　千六百九十八坪
一同　墓地　二千四百六十二坪一合
一往生院境内墓地　凡五百坪程
但境内東手人家相接居候箇所ハ區界相立埋葬見合可申候
一上河原墓地　四千三百十三坪五合
外ニ增地
畑一段四畝歩　飽田郡宇留毛村懸
内一段二畝十八歩　同郡竹部村懸
一畝十一歩
一綱塚墓地　六百七十坪九合
外ニ增地
畑九畝三歩　飽田郡竹部村懸
一妙永寺院内墓地　凡千九百八十三坪一合
外ニ增地
畑一段四畝二十七歩　飽田郡横手村妙永寺元院内
一井出ノ口墓地　千三百九坪三合
外ニ增地
畑九畝三歩　託麻郡本庄村懸

右ハ當縣本年第百二十四號布達ノ通ニ付右九箇所自今熊本墓地ニ致確定往往埋葬不苦候條增地丈ノ畑地ハ早早買入除稅方可願出右外從來ノ墓地ハ當九月以來埋葬令禁止候條心得違無之樣末末迄觸示地所割渡方可取計此旨布達候事但高麗門外長國寺境內存置云云申立之趣有之候得共同所ハ人家間近且壘地モ無之候間埋葬差止可申事
二伸地所買入候上ハ新墓地耕地ノ區界判然致候樣目印標木建置可申事

●師團管理ノ墓地ニ係ル改葬ノ件（明治二十五年三月告示第三二號）

師團管理ノ墓地ニ埋葬シタル死屍改葬願書ハ其師團長ニ宛願人所在地ノ郡市役所ヲ經テ差出スヘシ

●上河原墓地埋葬禁止ノ件（明治二十二年七月縣令第四二號）

飽田郡黑髮村字上河原傳染病者死屍埋葬地ハ衞生上危害アリト認ムルニヨリ自今埋葬ヲ禁示ス

●官軍墓地及修繕掃除方ノ件（明治十六年六月內第四號）

官軍墓地修繕及掃除ノ儀ニ付テハ屢々郡役所ヘ達或ハ兵事課ヨリ致照會候趣モ有之候得共猶掃除不行屆或ハ石碑ノ轉倒毀損等數十日ヲ經過スルモ修繕ノ申立不致箇所モ有之趣ニ相聞ヘ候條以後ハ墓地所ノ警察署ヨリモ時々該墓地ヘ出張シ若シ不行屆ノ儀有之トキハ直チニ該郡役所ヘ通知シ當廳ヘモ其趣屆出ツヘク樣取計此旨內達候事

官軍墓地所
玉名郡木葉町字高月(木葉村)
同郡南關町字城ヶ原
同郡肥猪町字十時(大原村)
山鹿郡山鹿町字宥明堂(鹿本郡)
菊池郡隈府町字月見殿
同郡明德村字上市原(川上村)
同郡横手村字花岡山
宇土郡永尾村字河添(松合村)
同郡手横村字馬渡(太田郷村)
同郡陣内村字城山(水俣村)
同郡同所字字蘇浦
同郡高瀬町字北屋敷
同郡岩村字河井浦(神尾村)
同郡轟村字多尾山(菱形村)
飽託郡龍田村字小峰
同郡同村字寄鶴
同郡上代村字北浦(城山村)
八代郡八代町字若宮
葦北郡花岡村峰崎(佐敷町)
天草郡牛深町字加世浦

第十一章 獸醫

●獸醫蹄鐵工取締規則

(明治四十一年五月 縣令第二二號)

第一條 獸醫及蹄鐵工開業シタルトキハ左ノ事項ヲ記シ五日以内ニ知事ニ届出ヘシ其ノ届出事項ニ變更アリタルトキ亦同シ
一 開業年月日
二 開業地
三 本籍(寄留者ハ其ノ寄留地トモ)
四 族稱、氏名、生年月日及免狀寫

第二條 獸醫及蹄鐵工出張所ヲ設ケタルトキハ左ノ事項ヲ記シ十日以内ニ知事ニ届出ヘシ其ノ届出事項ニ變更アリタルトキ亦同シ
一 出張所ノ位置
二 出張定日
三 代理者ヲ置クトキハ其ノ都度本籍、族稱、氏名、生年月日及免狀寫

第三條 獸醫及蹄鐵工ハ何等ノ名義ヲ以テスルモ免狀ヲ有セサルモノヲシテ其ノ事務ニ從事セシムルコトヲ得ス

第四條 獸醫ハ藥價、往診料、診察科及手術料蹄鐵工ハ裝鐵料、剪蹄料及剔毛料ヲ住宅又ハ作業場ノ見易キ場所ニ掲示スヘシ

第五條 獸醫ハ自ラ診察又ハ檢案ヲ爲ササルモノニ對シ診斷書、檢案書、死亡書、處方箋又ハ藥劑等ヲ與フルコトヲ得ス

第六條 獸醫ハ第一號樣式ノ病畜診斷簿ヲ製シ診察セシ獸畜毎ニ明記スヘシ
蹄鐵工ハ第二號樣式ノ帳簿ヲ製シ裝鐵、剪蹄若クハ剔毛セシ都度明記スヘシ

第七條 獸醫及蹄鐵工ハ當該官吏ニ於テ前條帳簿ノ檢閲ヲ要スルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第八條 獸醫ハ獸疫豫防法ニ規定セル獸疫以外ノ傳染病及流行病ヲ診斷シ蔓延ノ兆アリト認メタルトキハ其ノ病名、原因、症候、轉歸及其ノ狀況ヲ直ニ知事ニ報告スヘシ

第九條 獸醫ハ毎年其ノ診斷治療シタル病畜數ヲ第三號樣式ニ依リ蹄鐵工ハ其ノ裝鐵、剪蹄剔毛セシ獸畜數ヲ第四號樣式ニ依リ調製シ翌年一月末日限リ郡市役所ヲ經テ知事ニ届出ヘシ

第十條　獸醫及蹄鐵工ハ縣ノ區域ニ依リ獸醫會及蹄鐵工組合ヲ組織シ開業スル者ハ必ス加入スヘシ但郡市若ハ郡市以上ノ區域ニ依リ支部ヲ設クルコトヲ得

前項ノ場合ニ於テハ左ノ各號ニ依リ規約ヲ設ケ知事ノ認可ヲ受クヘシ

一　目的
二　名稱、區域及事務所ノ位置
三　加入及脫退ニ關スル規定
四　役員ノ選擧方法、職務權限及其ノ任期
五　會議ニ關スル規定
六　會計ニ關スル規定
七　違約者處分ニ關スル規定
八　其ノ他ノ必要ノ事項

第十一條　獸醫會及蹄鐵工組合ノ會議ヲ開カントスルトキハ十日以前事務所所在地ノ町村役場及郡市役所ヲ經テ知事ニ屆出ヘシ

第十二條　獸醫又ハ蹄鐵工ヨリ提出スル書類ハ所轄町村役場及郡市役所ヲ經由スヘシ

第十三條　從來開業ノ獸醫及蹄鐵工ハ明治四十一年六月三十日限リ本則第一條又ハ第二條ノ屆出ヲ爲スヘシ

第十四條　本則ハ假免狀ヲ受ケタル獸醫及蹄鐵工ニモ之ヲ適用ス

第十五條　本則第一條乃至第九條及第十三條ニ違背シタルモノハ科料ニ處ス

第一號樣式（病畜診斷簿）　用紙場形半紙

病畜別	牝牡別	毛色	年齡	體尺	特徵	所有者又ハ管理者 住所 氏名

初診年月日	
稟告	
原因	
現症	
病名	
治療（用藥其ノ他ノ療法ヲ詳細記載スヘシ）	
經過	
轉歸	
結果	

第二號樣式　用紙場形半紙

獸畜別	牝牡別	裝鐵	剪蹄	剔毛	所有者又ハ管理者 住所 氏名	備考
						本表裝鐵、剪蹄、剔毛欄ニハ各頭數ヲ記入スルモノトス

第三號樣式　用紙美濃紙

明治何年中病畜表

病名	病畜	頭數	全治	不治	斃死	他ニ撰轉	殺
呼吸器病	馬						
	牛						
	羊						
	豚						
	犬						
	猫						
	計						

消化器病	血液及循環器病	神經系病	運動器病	泌尿生殖器病	傳染病	流行病	皮膚病	寄生蟲病	眼病	備考

右及御届候也

年　月　日

郡市町村大字
獸醫　何　ノ　某　印

知事　宛

第四號樣式　用紙美濃半紙

明治何年中裝鐵、剪蹄、剔毛表

	裝鐵	剪蹄	剔毛	計

右及御届（報告）候也

年　月　日

郡市町村大字
蹄鐵工　何　ノ　某　印

知事　宛

●獸醫蹄鐵工取締方注意ノ件（明治四十一年六月警達甲第七號）

本年縣令第二十二號獸醫蹄鐵工取締規則第三條ハ開業獸醫及蹄鐵工ニシテ免狀ヲ有セサル者ニ門生又ハ代診生等ノ名ヲ付シ專ラ其本業務ヲ爲サシムル者ヲ取締ル主旨ニシテ施術及作業ノ場合其業務ノ補助トシテ獸醫以外ノモノヲ助手トシ使役スルハ差支無之義ニ付取締上區々ニ渉ラサル樣注意セラルヘシ

第十二章　獸疫豫防

●獸疫届出取扱手續（明治三十三年十月訓令甲第一二〇號）

第一條　市役所又ハ町村役場ニ於テ獸疫ノ届出ヲ受ケタルトキハ受領ノ年月日時ヲ記入シ遲ニ警察官署又ハ巡査派出所駐在所ニ送付スヘシ

第二條　巡査派出所駐在所ニ於テ獸疫届ヲ受ケ又ハ前條ニ依リ送付ヲ受ケタルトキハ受領ノ年月日時ヲ記入シ速ニ所屬警察官署ニ送付スヘシ

第三條　警察官署ニ於テ獸疫届ヲ受ケ又ハ市役所ケタルトキハ受領ノ年月日時竝ニ符號（毎年初發ノ獸疫ヨリ順次番號ヲ記ス假令ハ川尻分署ニ於テ八川第一號ト記シ其全癒斃死撲殺ノ届出ニ同番號ヲ記ス）ヲ記シ速ニ當廳ニ進達スヘシ

第四條　獸疫届書ニハ獸名種別牝牡毛色年齡病名及發病全癒斃死撲殺診察ノ年月日時竝ニ畜主獸醫ノ住所氏名ヲ明記セシムヘシ

第五條　口頭ヲ以テ獸疫届出ヲ受ケタルトキハ此手續第四條ノ事項ヲ錄取シ其調書ヲ作ルヘシ

第六條　警察官署ニ於テハ直接ノ届出及市役所町村役場巡査派出所駐在所ヨリ其送付ヲ受ケ

タルトキハ其都度此手續第四條ノ事項ヲ記シ第六師團獸醫部（阿蘇、菊池、菊本ノ三郡ハ更ニ十二師團獸醫部ニ）竝ニ郡役所ニ通報スヘシ

●畜牛結核病豫防法施行細則

（明治四十一年六月縣令第二六號）

第一條　畜牛ハ其所有者又ハ管理者ニ於テ施行規則第四條第五條ノ檢査開始前必ス指定ノ場所ニ牽付ケ置クヘシ

第二條　施行規則第七條ノ届出ヲ爲サントスルモノハ其ノ畜牛疾病ニ罹リタルトキハ獸醫ノ診斷書ヲ添ヘ其ノ他ノ事故ニ係ルトキハ其ノ事由ヲ具スヘシ

第三條　畜牛健康證ノ取扱ニ就テハ左記各號ヲ遵守スヘシ

一　畜牛ヲ賣買讓與又ハ預托シタル場合ハ必ス健康證ヲ添付スヘキコト

二　健康證ヲ毀損喪失シタル場合ハ十日以內ニ其ノ旨所轄警察官署ニ届出ヘキコト

三　畜牛ノ斃死シ又ハ之ヲ屠殺シタル場合ハ直ニ健康證ヲ返納スヘキコト

第四條　施行規則第十二條ノ許可ヲ得ントスルモノハ別記第一號樣式ノ願書ヲ所轄警察官署ニ差出スヘシ

第五條　輕症結核病及結核病ノ疑アル畜牛ノ隔離ヲ命セラレタル後放牧又ハ使役セントスルモノハ其ノ場所及方法等ヲ具シ所轄警察官署ニ願出許可ヲ受クヘシ

第六條　畜牛ノ飼養者ニシテ結核病ノ有無診斷ノ爲メ「ツベルクリン」ヲ要スル場合ニハ左ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ヲ經由シ當廳ニ分與ヲ願出ヘシ

一　畜牛ノ種類年齡用途

一　注射者ノ資格

一　注射ヲ要スル事由

一　注射ヲ行フ場所

第七條　「ツベルクリン」ノ分與ヲ受ケタルモノハ前條願出事項中ニ指示セル注射者及場所ノ外之ヲ使用スルコトヲ得ス但殘餘ヲ生シタルトキハ五日以內ニ返納スヘシ

第八條　施行規則第二十五條ノ届出ニハ一頭毎ニ別記第二號樣式ノ成績表ヲ添付スヘシ

第九條　本則第一條第三條第五條第七條ニ違背シタルモノハ科料又ハ拘留ニ處ス

別記第一號樣式

隔離場所變更願

郡（市）村（町）番地

所有者又ハ管理者　氏　名

畜牛名	種類	牝牡別	年齡	毛色	用途	病類	特徵

一　隔離場所變更ノ事由

一　變更隔離場所ノ位置及平面圖（平面圖ハ隔離場所附近四圍ノ狀況ヲ知悉スルニ足ルモノヲ記載スヘシ）

一　隔離鎖鋼ノ方法

右之通リ隔離所變更仕度候間御許可相成度此段相願候也

年　月　日

右　氏　名　㊞

畜牛結核病檢査員

警察署（又ハ分署）長宛

備考　賣買讓與交換預托等ノ場合ニハ雙方連署スヘシ

別記第二號樣式

「ツベルクリン注射成績表」一

種類	牝牡	年齡	注射量	注射日時	注射前體溫	注射後體溫	差溫	技術者氏名
					八時	十二時		
					十二時	二時		
					二時	四時		
					四時	六時		
					六時	八時		

●畜牛結核病豫防法施行手續（明治三十六年十月訓令甲第六二號）

第一條　施行規則第二條第一項ノ届出ヲ受ケタルトキハ檢査期日十日前ニ第一號樣式ニ依リ

第二項第三項ノ届出ヲ受ケタルトキハ其ノ事由及日時ヲ記シ認可ヲ受クヘシ

第二條　施行規則第三條第一項但書ノ必要ヲ認メタルトキハ其ノ事由ヲ詳記シ地區及頭數ヲ具申スヘシ第二項ノ畜ヲ發見シ又ハ同則第二十八條ノ届出ヲ受ケタルトキハ第四樣式ニ依リ直ニ其ノ旨報告スヘシ

第三條　施行規則第四條第二項ノ必要ヲ認ムルトキハ其ノ事由及日時ヲ記シ認可ヲ受クヘシ

又同則第四條第三項第五條第七條第二項ノ檢査ハ檢査員執務規程第十六條第二號第四號ノ適ヘシ

第四條　施行規則第六條ノ禁止又ハ制限ノ必要ヲ認ムルトキハ檢査員執務規程第十六條第二號第四號ノ適

第五條　施行規則第十一條第一項ノ届出ヲ受ケタルトキハ檢査日時場所ヲ指定シタルトキハ其ノ旨報告スヘシ

第六條　施行細則第四條ノ願書ヲ受ケタルトキハ直ニ其ノ旨報告スヘシ

否ヲ調査シ許否共ニ願書ヲ添ヘ其旨當廳ニ報告スヘシ

第七條　施行規則第十七條但書ノ認可ヲ請フモノアルトキハ衞生上無害ノ地ニ限リ認可スヘシ

第八條　施行規則第十八條ノ指揮ヲ爲サントスルトキハ獸疫豫防法施行細則及獸疫豫防心得ニ據ルヘシ

第九條　施行規則第十九條第二十條ノ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ報告シ指揮ヲ待ツヘシ

第十條　施行細則第八條ニ依リ届出ヲ受ケタルトキハ直ニ進達スヘシ

第十一條　施行規則第三十條ノ願出ヲ受ケタルトキハ事實ヲ調査シ許否スヘシ

第一號樣式

畜牛調表

和種	雜種	洋種	年齡	毛色	用途別	飼養地	所有者管理者住所氏名	備考
牝	牡	牝	牡	牝	牡			

署名

備考　用途別トハ種付用、搾乳用、肉用、農業用、牛車用等ノ用途ヲ區別記載スルモノトス

第二號樣式

檢查未濟畜牛所有管理報告

和種雜種洋種牝牡牝牡牝牡	年齡	毛色	用途別	飼養地	所有者管理者住所氏名	備考

署名

第三號樣式

畜牛變更事項報告

種類牝牡	年齡	毛色	用途	變更事由	飼養地	所有者管理者住所氏名

署名

第四號樣式

有病畜牛發見報告

種類牝牡	年齡	毛色	用途	發見地	飼養地	所有者管理者住所氏名

署名

●重症結核病牛評價書樣式

（明治三十六年十一月警達甲第一六號）

畜牛結核病檢查ニ於テ重症結核病牛發見ノ場合評價結了シタルトキハ左記雛形ノ評價書ヲ作成セシメ速カニ進達セラルヘシ

評價書

右所有（管理）ニ係ル畜牛（及物品）ノ評價ヲ爲ス左ノ如シ

一種類　（外國種牛、雜種牛、內國種牛）　壹頭

　但牝（牡）　毛色　　年齡

　此評價額金

一何々

　但（其品ノ狀體等ヲ詳記ス）

　此評價額金

右之通候也

明治　年　月　日

縣　郡（市）　町（村）　番地

　某

右評價人

　官職　氏　　名　㊞

何市（郡）何町（村）

　氏　　名　㊞

●重症結核病牛發見評價確定シタルトキ其畜牛及物品代請求樣式（明治三十六年十一月衞第三八四八號）

畜牛結核病檢查ニ際シ重症結核病牛ヲ發見シ之レカ評價確定シタル時其畜牛及物品ノ代價ヲ請求スルトキハ別紙樣式ノ請求書仕譯書ヲ當課ヘ御送付相成候樣致度此段及通牒候也

請求書

一金　何　程

但何年何月何日畜牛結核病檢查ニ付重症結核病ニテ撲殺セシ畜牛何頭及物品何點代

內譯

金　何　程　是ハ外國種（雜種、內國種）何毛何歲牝（牡）壹頭代

金　何　程　是ハ前同樣

金　何　程　是ハ何品（種類ヲ記ス）何點代（一品每ニ記スヘシ同種ノ物品ニシテ二點以上ノ場合ハ單價ナモ記スヘシ）

右御渡有之度候也

明治何年何月何日

知事　宛

仕譯書

住所

畜主　氏　　名

（書式請求書ニ同シ）

右ノ通ニ候也

明治何年何月何日

住所
氏名

仕拂命令官
知事　宛

●獸疫發生ノ際ハ近接他管警察官署ヘ通報方ノ件

（明治三十二年九月警達乙第二號）

獸疫豫防法施行細則第三條ニ據リ同則第一條第一項ノ届出ヲ受ケタル警察官及ヒ市町村長ハ一府縣管内ニ於テハ相互ニ之レカ通報ヲ爲シ來リ候處甲乙管轄ヲ異ニスル場合ト雖トモ壤地相接スル地方ニ於テハ相互ニ通報候ハヽ豫防上頗ル便益ナル旨農商局長ヨリ通牒ノ次第有之候條自今他管ニ接スル警察署分署ニアリテハ直ニ接近署ヘ通報セラルヘシ

●牛ノ惡性加答兒熱ニ對スル豫防措置ノ件

（明治四十一年四月訓令第二三號）

縣下阿蘇郡北小國村ニ於テハ去ル明治三十九年ヨリ牛ノ惡性加答兒熱流行シ同年ニ三十餘頭昨四十年ニ六十餘頭ノ畜牛ヲ斃シ其後發生セサルニ依リ終熄セルモノノ如キモ尚病毒ノ潛伏スルハ疑ヒナカルヘシ由來本病ハ嚴冬冱寒ノ季節ニ於テハ病毒微弱ナルヲ以テ罹病畜牛稀有ナルヘキモ現下ノ如ク溫暖ノ季節ニ向フニ從ツテ一旦微弱ニ陷リタル病原ハ漸次發芽シ遂ニ四方ニ蔓延シ再ヒ流行ノ不幸ヲ招クニ至リ延テ各地ニ病毒ノ散蔓スルナキヲ保シ難シ故ニ左記各項ニ依リ本病ノ性質、原因、徵候、豫防法等ヲ知悉セシメ該病豫防上遺策ナキヲ期スヘシ

一　牛ノ惡性加答兒熱ハ一名頭病ト稱シ一種ノ傳染病ニ屬シ罕ニハ羊山羊等ニ傳染ス牛ニ於テハ主トシテ呼吸器、消化器、泌尿生殖器等ノ粘膜ヲ侵シ神經中樞及眼ヲ害シ動モスレハ頭贐ノ加答兒ヲ併發ス

二　從來本病ノ原因ニ就テハ重キヲ感冒ニ置キタリト雖實驗ニ徵スレハ素因ニ過キス傳染ハ確實ナルモノニシテ濕潤不潔、痛氣不良等ハ秋ニ多ク老牛ヨリ幼牛ニ多ク發病ス

三　病毒ハ專ラ鼻汁、尿、糞等ニ包含セラレ直接又ハ間接ニ他ノ健牛ニ傳染ス間接ノ傳染媒介トナルモノハ畜舍、舍内器具、藁藁及人、犬、鷄等ニシテ病毒ハ多クハ吸氣ニ依リテ呼吸道ニ入リ血液中ニ吸收セラル時トシテハ消化器及泌尿生殖器ヨリ侵入ス

四　本病ノ症狀ハ發病ノ部位又ハ病勢ノ輕重ニ依リ差異アルモ一昨年來阿蘇郡小國地方ニ於テ流行ノ病徵ハ鼻腔及泌尿器ヲ侵シ最初惡寒發熱シ次テ食慾減少精神沈鬱シ流涙甚シク汚色ノ鼻汁ヲ漏シ尿ハ暗赤色ニシテ殆ント血液樣ヲ呈シ輕症ハ一週日内外ニシテ治癒スルモ多クハ二日乃至五日ニシテ斃ル

五　畜牛所有者ハ平素畜牛ノ健康狀態ニ注意シ精神沈鬱食慾不振等ノ徵候ヲ認ムルトキハ直ニ獸醫ヲ招キ本病ニ罹リタルモノナル時ハ健牛ト隔離シ廐舍及附屬器具ハ熱湯ニテ洗滌シ糞尿溜及排泄溝ハ汚物ヲ浚渫シテ生石灰、石灰乳又ハ濃厚石炭酸水ニテ充分消毒スヘシ

六　排水設備ノ良否ハ畜舍内外ノ空氣ノ淨否ニ大ニ關係アルモノニシテ排水法不完全ナルトキハ排泄物其他ノ汚物ハ停滯シテ大氣ハ其ノ發散セル不淨ノ分子ニ汚染セラレ動物ハ不潔ノ大氣ヲ呼吸スルニ因テ終ニ健康ヲ傷フニ至ル故ニ畜舍内外ノ排水設備ハ完全ナラン　ムルコトニ努ムヘシ

七　病牛ノ糞尿其他ノ排泄物、蓐藁等ハ燒却又ハ消毒藥ヲ散布シ病毒ニ汚染シタル床土等ハ新鮮ナル土砂ト取換フヘシ

八　病獸ノ屍體ヲ移動スル場合ハ病毒ノ散布ヲ防クヘキ施設ヲナシ燒却又ハ埋沒スヘシ

九　從來本病ノ發生シタル廐舍及附近ハ特ニ衞生ニ注意シ廐舍内ニハ可成多量ノ乾草、藁稈其他ノ飼料ヲ置カサル樣努ムヘシ

十　本病流行地方ニ於テハ特ニ牛體ノ淸潔竝ニ畜舍ノ換氣法ニ注意シ飲料ニハ少許ノ食鹽ヲ混和シテ與ヘ變敗粗惡ノモノハ勿論泥沼地及路傍等ノ生草ハ給セサルヲ良トス

十三章　屠場

●屠場法施行細則（明治四十年二月勅令第九號）

第一條　屠場ヲ設立セントスル者ハ明治三十九年内務省令第十七號ニ依ルノ外左記各項ヲ具シ當廳ヘ出願許可ヲ受クヘシ

一　設立者ノ本籍（住所氏名）法人ハ代表者共同ハ管理者）生年月

二　市町村ノ設立ニ依ルトキハ市町村會ノ決議錄寫

三　設立地ノ位置及敷地ノ坪數竝ニ周圍二丁以内ノ圖面

四　建物ノ配置及其坪數ヲ記シタル圖面竝ニ構造仕樣書

五　工事落成期日

六　給水ノ方法及其構造仕樣書

七　屠場主屠夫又ハ管理者等屠場内ニ居住セントスルトキハ其位置及屠室トノ距離

既設ノ屠場ニシテ敷地又ハ建物ヲ增減又ハ變更セントスルトキハ其事由ヲ具シ許可ヲ受ク可シ

第二條　屠場ノ設置ヲ命セラレタル市町村ハ速カニ本則第一條ノ各號ヲ具シ當廳ヘ屆出ヘシ

第三條　左ノ場合ニ於テハ屠場ノ使用ヲ停止シ又ハ許可ノ失效ヲ命スルコトアルヘシ

一　屠場設立ノ許可ヲ受ケ三ケ月間工事著手セサルトキ

二　工事落成期日ニ至ルモ竣工セサルトキ

三　設備ノ新設變更ヲ命スルモ指定ノ期間内ニ完了セサルトキ

第四條　屠場ノ工事落成シタルトキハ當廳ヘ屆出使用ノ認可ヲ受クヘシ

第五條　私設屠場許可ノ期限ハ五ケ年トス但期限滿了後更ニ期限ヲ付シ繼續許可スルコトアルヘシ

第六條　屠場法施行規則第二條ノ願書ニハ其事由ヲ記シ新舊屠場主連署スヘシ

第七條　屠場ノ門戸ニハ左記雛形ニ依リ標札ヲ揭クヘシ

年　月　日許可
何々（地名）屠場
場主　氏　名
（法人ノ名稱代表者氏名）

竪三尺
幅一尺

第八條　屠場ニ於テハ左記第二號樣式ノ帳簿ヲ備ヘ屠殺解體ノ都度各事項ヲ記入シ檢査員ノ檢印ヲ受クヘシ

警察官吏ニ於テ前項ノ帳簿ヲ檢閱セントスルトキハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第九條　私設屠場ヲ廢止シタルトキ又ハ屠場主失踪死亡若クハ本籍住所氏名等ニ異動ヲ生シタルトキハ十日以內ニ當廳ヘ屆出ヘシ但失踪死亡ニアリテハ戶籍法ニ依ル屆出義務者ヨリ之ヲ爲スヘキモノトス

第十條　屠畜業ヲナサントスル者ハ本籍住所氏名生年月ヲ記シ所轄警察官署ニ屆出ヘシ廢業失踪死亡若クハ屆出事項ニ變更ヲ生シタルトキハ十日以內ニ屆出ヘシ但失踪死亡ニアリテハ戶籍法ニ據ル屆出義務者ヨリ之ヲ爲スヘシ屠畜業者屠畜ニ關シ他人ヲ使用セントスルトキハ其都度檢查員ノ許可ヲ受クヘシ

第十一條　獸畜ノ屠殺解體ニ從事スル者又ハ從事セントスル者ニ對シ屠場法施行規則第八條ニ規定アル疾病ノ有無ニ關シ警察官吏又ハ檢查員ニ於テ必要ト認ムルトキハ其指定シタル醫師ノ診斷書ヲ提出セシムルコトアルヘシ

第十二條　屠殺ヲ爲サントスルトキハ左記第一號樣式ニ依リ屠場主（法人ハ代表者共同ハ管理者）連署ノ上二十四時間前又不得已事由ノ爲メ臨時屠殺ヲ爲サントスルモノハ屠殺前所轄警察官署巡查派出所駐在所ヘ屆出ヘシ但切迫屠殺ニ係ルモノヲ解體セントスルトキハ獸醫ノ診斷書ヲ添ヘ屆出ヘシ

第十三條　警察官署ハ土地ノ狀況ニ依リ豫メ屠殺ノ定日ヲ指定スルコトアルヘシ

第十四條　屠畜業者ハ身元詳カナラサル者ヨリ獸畜ヲ買受讓受又ハ其依賴ヲ受ケ屠殺スルコトヲ得ス

第十五條　屠畜業者ハ屠殺解體中門戶ヲ閉鎖シ業務ニ關係ナキモノヲ入ラシムヘカラス

第十六條　運搬器ノ構造ハ左記各號ニ據ルヘシ但檢查員ノ許可ヲ受ケタルモノハ此ノ限ニアラス

一　屠肉運搬器ハ木製ノ有蓋箱車ニシテ內部ヲ金屬板張トシ底部ニ格子板ヲ置キタルモノ

二　內臟骨皮等ノ運搬器ハ有蓋箱車

第十七條　屠殺用器具及之ニ附屬スル物品竝ニ運搬器具ハ使用前ニ於テ檢查員ノ檢查ヲ受クヘシ

第十八條　屠殺解體ニ從事スル者ノ服裝ハ白地筒袖トシ就業前警察官吏又ハ檢查員ノ點檢ヲ受クヘシ

第十九條　屠場ニ關シ當廳ニ差出スヘキ文書ハ總テ所轄警察官署ヲ經由スヘシ

第二十條　檢查上食用ニ供スヘカラスト認メタル屠肉內臟其他ノ部分ハ檢查員ヲシテ之ヲ廢棄セシムルコトアルヘシ

第二十一條　本則第一條第四條第七條第八條第一項第九條第十條第十二條第十四條乃至第十八條ニ違背シ又ハ第八條第二項ノ檢閱ヲ拒ミタルモノハ拘留又ハ科料ニ處ス

附　則

第二十二條　本則ハ發布ノ日ヨリ施行ス

第二十三條　從來ノ屠場ハ本則施行後二ヶ月以內ニ於テ明治三十九年內務省令第十七號第二項第三號ノ病畜屠室第四號ノ檢查室第六號ノ消毒所ヲ設クヘシ

第一號樣式

屠殺（解體）届

獸畜名	牝牡毛色	年齡	賣渡讓渡依頼者 住所氏名

一屠場名

一屠殺日時

右届出候也

年月日　屠殺營業者　住所氏名　㊞

屠場主　住所氏名　㊞

警察署（分署）宛

第二號樣式

屠殺月日	獸畜名	牝牡毛色	年齡	使用者及依頼者 住所氏名

● 屠場法施行手續（明治四十年二月訓令甲第七號）

第一條　屠場設立竝ニ敷地建物ノ增減變更ノ願届ヲ受タルトキハ實地臨檢シ施行細則第一條ノ事項ヲ調査シ意見書ヲ添ヘ進達スヘシ

第二條　施行細則第三條ノ各事項ニ該當スル者アルトキハ其事由ヲ調査シ警務長ニ報告スヘシ

第三條　工事落成届ヲ受ケタルトキハ直ニ書類ヲ進達スヘシ

當廳吏員工事落成檢查ノ際ハ之ニ立會スヘシ

第四條　屠殺解體ノ届ヲ受ケタルトキハ直ニ檢查員ニ通知シ署員ヲシテ屠場内ノ取締ニ從事セシムヘシ

第五條　屠畜稅ヲ納付シタル領收證ヲ認ムルニアラサレハ屠殺ニ著手セシムヘカラス

第六條　屠場ニシテ衞生上危害ヲ生シ其他公益ヲ害スルノ虞アルカ又ハ設備變更ノ必要ヲ認

メタルトキハ其狀況ヲ警務長ニ報告スヘシ

第七條　屠畜業者從業者根帳ハ左記樣式ニ據リ調製シ異動アリタルトキハ之ヲ訂正加除スヘシ

業名	開業年月日 廢業年月日	住所	氏名	生年月					

第八條　檢查員ヨリ當廳ヘ差出スヘキ書類ヲ受ケタルトキハ必要アルモノハ意見ヲ附シ其他ハ欄外ニ認印直ニ進達スヘシ

●屠畜檢查員執務規程

（明治四十年三月達甲第一號）

第一條　檢查員ハ其職務ノ執行ニ關シ上司ノ指揮命令ヲ遵守シ誠實ヲ旨トスヘシ

第二條　屠場ハ常ニ清潔ナラシメ業務上使用スル器具及附屬品ハ使用後必ス熱湯ヲ以テ殺菌的ニ洗滌セシメ血液、汚物及汚水ノ如キハ常ニ其處置方ヲ指示シ置クヘシ

第三條　屠殺用器具及之ニ附屬スル物品竝ニ運搬器ハ使用前屠殺解體ニ從事スル者ノ服裝ハ就業前必ス點檢ヲ行ヒ不潔ナル者ハ之ヲ使用セシムヘカラス

第四條　運搬器ハ土地ノ狀況其他ノ事由ニ依リ施行細則第十六條ノ各號ニ據リ難キ場合ニ於テハ清潔ナル容器ニシテ骨肉露出シ又ハ塵埃等ノ附著セサル樣覆蓋ヲ爲シタル者ニ限リ許可スヘシ

第五條　警察署分署ヨリ屠殺解體屆出ノ通知ヲ受ケタルトキハ屠殺時間前屠場ニ出張スヘシ

第六條　屠畜稅ヲ納付セサル獸畜ハ屠殺ニ著手セシムヘカラス

第七條　屠殺解體著手前ニ於テ屠室內ニ撒水セシメ引續キ屠殺解體ノ場合ハ每回室內ヲ洗滌セシムヘシ

第八條　屠肉其他食用ニ供スル部分ニハ少クモ左ノ各部ニ檢印ヲ爲スヘシ

牛馬

（屠肉）頭側、肩、胸、內外部、背　前中（腎臟ノ部位）後ノ內外部

腹內外部、頭、舌、尾、

（內臟）心臟、肺臟、肝臟、胃臟　前後肢內外側

犢

頸、肩、胸內外部、前後肢上下內外側、背內外部（腎臟ノ部位）頭、舌

適宜ニ剝皮シ捺印スルコト

羊、山羊

頸、肩、背內外部（腎臟ノ部位）、腹內外部、前後肢內外部、頭

豚

頸、肩、背内外部、腹内外部、前後肢上下内外側、頭

第九條　病畜屠室以外ノ場所ニ於テ病畜ノ屠殺解體ヲ認可シタル場合若ハ傳染病疾患アルコトヲ發見シタルトキハ屠殺解體ヲ了シタル後熱湯若ハ左記藥品ヲ以テ嚴重ニ室内ヲ消毒セシムヘシ

五プロセント石炭酸水

〇、一プロセント昇汞水

第十條　屠場備付ノ帳簿ハ出張ノ都度査閲シテ欄外ノ上部ニ捺印スヘシ

第十一條　施行細則第十條ニ依リ臨時雇人使用ノ場合ニ於テハ施行規則第八條ノ疾病ナキモノニ限リ許可スヘシ

第十二條　屠場ニシテ衞生上危害ヲ生シ其他公益ヲ害スルノ虞アルカ又ハ設備變更ノ必要ヲ認メ或ハ施行細則第三條第三號ノ命令ニ從ハサルモノアルトキハ其狀況ヲ具シ警察署分署ヲ經テ警務長ニ報告スヘシ

第十三條　屠場毎ニ左記樣式ノ帳簿ヲ製シ屠殺解體ノ都度之ニ記入スヘシ

第十四條　禁印及檢印ハ常ニ嚴重ニ保管スヘシ

屠畜明細簿樣式

屠殺解體月日	獸類	種類	性	手色	年齡	體尺	體重	合格	禁止	棄却肉量	棄却内藏個數	屠殺依頼人氏名	備考

第十五條　檢査員ハ毎月ノ屠殺頭數ヲ左記表ニ據リ翌月五日迄ニ警務長ニ報告スヘシ

屠畜月報　屠場名　月分

牝牡／獸類	牛	馬	犢	羊	豚	計
牝						
牡						

右報告候也

第十四章　化製所及皮剝所

●獸類化製所及皮剝所取締規則　（明治三十一年一月縣令第九號）

第一條　化製所ト稱スルハ獸類又ハ獸類ノ骨、皮、腸、肉ヲ原料トシ工業材料若ハ肥料ヲ製造スル所ヲ云ヒ皮剝所ト稱スルハ廢獸ヲ撲殺シ又ハ死獸ヲ剖剝スル所ヲ云フ

第二條　化製所及皮剝所ヲ設置セントスル者ハ其位置及構造ノ圖面ヲ添ヘ所轄警察官署ヲ經由シ縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ其設置後ニ於テ改造若クハ移轉セントスルトキ亦同シ但借

地ニ係ルモノハ其所有ノ連署ヲ要ス

化製所皮剝所外ニ於テハ化製撲殺及剖剝スルコトヲ得ス

但病原研索等學術上解剖ヲ要スルモノハ本則ニ準シ當廳ノ許可ヲ受クヘシ

第三條　化製所及皮剝所ノ位置及構造ハ左ノ制限ニ從フヘシ

但土地ノ狀況其他化製ノ種類ニ依リ適當ノ設備ヲ爲シ公衆衞生上害ナシト認ムルトキハ特ニ許可スルコトアルヘシ

一　人ノ居住スヘキ家屋建物竝屠獸場國縣道及之ニ準スヘキ道路河川竝ニ飲料ニ供スヘキ水路ヲ距ル凡ソ六十間（水準ニ據ル）以上ノ地タルヘシ

二　周圍ハ適當ノ材料ヲ以テ墻塀又ハ土堤ヲ設クヘシ

三　內部ノ周圍ハ三尺以上ノ腰板ヲ張リ地盤ハ石、煉瓦又ハセメント漆喰敲トナシ相當ノ勾配ヲ附シ不滲透質ノ材料ヲ以テ適宜ノ處ニ溝渠ヲ設ケ血液汚汁ヲ其溜壺ニ流下セシムル樣構造スヘシ

四　臟腑血液汚汁等ノ溜壺ハ建物外ニ設置シ其ノ高サ地盤ヨリ五寸以上トシ適當ノ覆蓋ヲ設ケ雨水ノ流入ヲ防クヘシ

五　皮漬場ヲ設クルモノハ不滲透質ノ材料ヲ以テシ汚水ノ充溢又ハ滲透セサル樣構造スヘシ

第四條　化製所及皮剝所ノ新設又ハ改造ノ工事落成シタルトキハ所轄警察官署ニ届出檢査ヲ受クヘシ若シ出願ノ圖面ニ相違シ又ハ構造不適當ト認ムルトキハ改造ヲ命スルコトアルヘシ

第五條　化製所及皮剝所ニハ左ノ標札ヲ掲クヘシ

何郡市何町村何番地
獸類化製所（獸類皮剝所）　氏名

竪三尺
幅一尺

第六條　左ノ場合ニ於テハ十日以內ニ所轄警察官署ヲ經由シ縣廳ニ届出ツヘシ但第二號死亡ノ場合ニ於テハ相續人ヨリ届出ツヘシ

一　住所ヲ轉シ又ハ族籍氏名ヲ變更シタルトキ

二　化製所又ハ皮剝所ヲ廢止シ又ハ其持主死亡シタルトキ

第七條　警察官化製所及皮剝所ニ臨檢シ若シ破損ノ箇所アルトキハ直ニ修理ヲ命シ又ハ一時營業ヲ停止スルコトアルヘシ

第八條　化製所及皮剝所ハ常ニ不潔ナラサル樣內外ノ掃除ヲ爲シ且ツ血液汚汁溜ハ充溢セサル樣注意シ時時防臭劑ヲ撒布スヘシ

第九條　骨肉血液汚物等ヲ皮剝所外ニ運搬スルトキハ臭氣ノ發散セサル樣覆蓋アル容器ヲ用フヘシ

第十條　皮剝所ノ所有者牛馬羊豚ヲ買受若クハ讓受タルトキハ其年月日、獸名、牝牡、毛色、年齡、特徵及賣主、讓主ノ住所氏名ヲ帳簿ニ記載シ且證人ヲ要スルモノハ其住所氏名ヲ附記シ之ヲ撲殺シタルトキハ其年月日ヲ記入シ其帳簿ハ最終記載ノ日ヨリ滿一个年間保存スヘシ

第十一條　皮剝所ノ所有者ハ住所氏名ノ詳カナラサル者ヨリ牛馬羊豚ヲ買受又ハ讓受クルコトヲ得ス但身元詳カナル者證人タルトキハ此限ニ在ラス

第十二條　皮剝場ニ於テ牛馬羊豚ヲ撲殺セントスルトキハ其時刻、獸名、牝牡、毛色、年齡ヲ記シ前日マテニ所轄警察官署又ハ巡査派出所駐在所ニ届出ツヘシ

第十三條　撲殺時間中ハ皮剝所門戸ヲ閉鎖シ濫リニ人畜ヲ出入セシムヘカラス

第十四條　獸類傳染病流行ノ際ハ警察官ニ於テ一時化製撲殺及皮剝ヲ停止スルコトアルヘシ

第十五條　左ニ揭クル者ハ三十日未滿ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

一　第二條ノ規定ニ違背シタル者

二　第四條ノ檢查ヲ受ケスシテ使用シタル者

三　第十四條ノ停止命令ニ違背シタル者

第十六條　第十條第十一條ノ規定ニ違背シタル者第七條ノ命ニ從ハサル者ハ十圓以下ノ科料ニ處ス

第十七條　第五條第六條第八條第九條第十二條第十三條ノ規定ニ違背シタル者ハ五圓以下ノ科料ニ處ス

附　則

第十八條　從前許可ヲ得タル化製所ニシテ其位置構造本則第三條ノ規程ニ牴觸スルモノハ明治三十一年十一月三十一日限リ本則ノ規程ニ依リ改造スヘシ

第十九條　第十八條ノ制限ニ依リ改造セサル者ハ化製所許可ノ效ヲ失フモノトス

●獸類化製所及皮剝所取締規則施行手續

（明治三十一年一月訓令甲第九號）

第一條　警察署警察分署ニ於テ獸類化製所皮剝所設置ノ願ヲ受ケタルトキハ規則第三條第二號乃至第五號ニ依リ實地檢查ヲ遂ケ構造ノ適否ヲ警部長ニ報告スヘシ

第二條　警察署警察分署ニ於テ獸類化製所皮剝所ノ新設又ハ改造ノ工事落成届ヲ受ケタルトキハ規則第三條第二號乃至第五號ニ依リ實地檢查ヲ遂ケ構造ノ適否ヲ警部長ニ報告スヘシ

第三條　營業者ヨリ廢獸ノ屠殺ヲ届出タルトキハ警察官ヲシテ立會セシムヘシ

第四條　警察官ニ於テ營業者ノ帳簿ヲ檢查シタルトキハ檢查ノ月日ヲ記入シ捺印スヘシ

第五條　警察署長ハ規則第十四條ニ依リ一時化製撲殺及皮剝ヲ停止スルノ必要アリト思料スルトキハ其旨警部長ニ具申スヘシ

第六條　警察署警察分署ハ第一號第二號樣式ノ臺帳ヲ備フヘシ

第一號樣式

化製所								
指令番號	免許年月日	廢業年月日	住所	族籍	氏名	生年月日	備考	

第二號樣式

指令番號	免許・許可年月日	廢業年月日	住所	族籍	氏名	生年月日	備考

皮剝所

第十五章　衞生組合

●衞生組合設置規則（明治三十一年七月縣令第五二號）

第一條　市町村内ニ於テハ清潔方法消毒方法其他傳染病ノ豫防救治ニ關スル事務ヲ施行スル爲メ衞生組合ヲ設クヘシ

第二條　市町村住民ニシテ一戸ヲ構ユル者ハ衞生組合ニ加入スヘシ

第三條　衞生組合ノ區域ハ凡ソ左ノ標準ニ依リ市町村長ニ於テ便宜區劃シテ之ヲ定ムヘシ

一　市ハ三十戸以上百戸以内

二　町村ハ二十戸以上八十戸以内

第四條　衞生組合ハ規約ヲ設ケ郡市長ノ認可ヲ受クヘシ但組合規約ノ設定ハ組合員多數ノ評決ニ依ルヘシ

郡市長ニ於テ組合規約ヲ認可シタルトキハ其謄本ヲ添ヘ所轄警察官署ニ通知スヘシ

第五條　衞生組合ニハ正副組長各一人ヲ置クヘシ其選擧方法及任期ハ組合規約ニ之ヲ定ムヘシ

正副組長ニ當選シタルモノハ正當ノ事由アルニアラサレハ辭任スルコトヲ得ス

委員ハ凡ソ十戸ニ付一人ノ割合ヲ以テ選出スヘシ

第六條　衞生組合ニ於テ正副組長ヲ選擧シタルトキハ其住所氏名ヲ市町村長ニ届出市町村長ハ之ヲ所轄警察官署ニ通知シ且町村長ハ郡長ニ報告スヘシ改選シタルトキ亦同シ

第七條　衞生組組長ハ市町村長ノ監督ヲ受ケ組員ヲ指揮シ清潔方法消毒方法其他組合内ノ衞生事務執行ニ從事スヘシ

副組長ハ組長ヲ補ケ組長事故アルトキハ其事務ヲ代理スヘシ

第八條　衞生組長ハ毎年二月三月ノ間ニ於テ翌年度ニ屬スル組合費ノ收支豫算ヲ製シ委員會ヲ開キ其評決ニ付スヘシ

第九條　衞生組長ハ毎年四月五月ノ間ニ於テ前年度ニ屬スル組合費ノ收支決算ヲナシ委員會ヲ開キ之ヲ報告シ其承諾ヲ受クヘシ委員會ニ於テ其決算ニ異議アルトキハ市町村長ニ申出ツヘシ

第十條　衛生組合規約ヲ變更セムトスルトキハ委員會ニ於テ之ヲ評決シ郡市長ノ認可ヲ受クヘシ

第十一條　郡市長ニ於テ組合規約ノ變更ヲ認可シタルトキハ其謄本ヲ添ヘ所轄警察官署ニ通知スヘシ

第十二條　正副組長ニハ相當ノ報償ヲ支給スヘシ其金額及支給ノ方法ハ組合ニ於テ之ヲ定メ郡市町ノ認可ヲ受クヘシ

第十三條　衛生組合ニ要スル費用ハ其組合ニ於テ負擔スヘシ但傳染病豫防救治ノ爲メ支出スル費用ニシテ市町村ヨリ補助スルモノハ此限ニ在ラス

附　則

衛生組合ハ來ル九月三十日限リ組織スヘシ

●衛生組合規約標準（明治三十一年七月訓令甲第八五號）

衛生組合設置規則ニ依リ衛生組合ニ於テ設定スヘキ規約ノ標準左ノ通相定候條組合ニ於テハ之ニ準シ規約ヲ設ケ候樣取計フヘシ

衛生組合規約標準

第一條　衛生組合員ハ各自攝生法ヲ守リ清潔方法消毒方法其他傳染病ノ豫防救治ニ付テハ一致協力シテ其周到ヲ期スルモノトス

第二條　組長ニ於テ執行スヘキ事項概ネ左ノ如シ

一　組合員ヲ勸誘シテ衛生事項ノ進歩ヲ謀リ且組合規約ノ實行ヲ期スルコト

二　傳染病流行ノ兆アルトキハ勿論平時ト雖トモ時時組内ヲ巡視シ各自ニ攝生法ヲ守ラシメ且清潔方法消毒方法ヲ設ケ組合員ニ周知セシムルコト

三　傳染病又ハ其疑アル患者死者アルコトヲ知リタルトキハ直ニ警察官吏市町村吏員檢疫委員又ハ豫防委員ニ通告スルコト

四　傳染病患者死者アルトキハ豫防消毒等諸般ノ事ニ盡力スルコト

五　衛生ニ關スル令達ハ便宜ノ方法ヲ設ケ組合員ニ周知セシムルコト

六　種痘ノ普及ヲ計ルコト

七　消毒器具竝消毒藥ノ設備及其配付ニ關スルコト

八　時時衛生談話會等ヲ開設シ自衛心ヲ喚起セシムルコト

九　組合ニ關スル費用ヲ取立テ及之ヲ支拂フコト

十　組合費ノ豫算ハ委員會ノ評決ヲ經タル後其決算ハ委員會ニ報告シタル後市町村長ニ報告スルコト

第三條　組合員ニ於テ遵守スヘキ事項概ネ左ノ如シ

一　家屋内外ハ勿論倉庫納屋其他ノ建物及便所等ヲ掃除シ下水路井戸流臺所流畜舍料置場芥溜場等ハ常ニ浚渫シ清潔ニナスコト

二　飲料水ノ近傍ニハ便所及畜舍肥料置場芥場下水路等ヲ設ケサルコト

三　不良ノ水ヲ飲用セサルコト

四　不熟ノ果物其他腐敗ニ傾キタル物ヲ飲食セサルコト

五　飲食物竝其容器ニハ必ス覆蓋ヲ設クルコト

六　每年梅雨後又ハ傳染病流行ノ際ハ井戸ヲ浚渫シ且井戸側下水路等ノ破損ヲ修理シ若シ汚水ノ潴溜スル場所アルトキハ之ヲ改修疏通セシムルコト

七 傳染病ニ疑ハシキ病症ニ罹リタルトキハ速ニ醫師ノ診察ヲ受クルコト

八 傳染病患家ト交通セサルコト

九 傳染病患家共用ノ井水ハ勿論傳染病流行ノ際及夏季ハ必ス煮沸シタル水ニアラサレハ飲料等ニ使用セサルコト

十 傳染病流行ノ際ハ便所其他不潔ノ場所ニ時時生石灰若クハ石灰ヲ撒布スルコト

十一 傳染病流行ノ際ハ多人集合シテ飲食スル等ノコトナク相互豫防攝生ヲ怠ラサルコト

十二 組合内ノ清潔方法消毒方法ノ施行其他豫防上ニ就テハ相互援助シ其周到ヲ期スルコト

十三 衛生ニ關スル令達ヲ遵守スルハ勿論當該吏員ヨリ指示シタル事項ハ速ニ執行スルコト

十四 組合中ノ罹病者赤貧ニシテ藥餌ニ差支フル者アルトキハ之ヲ救護スルコト

第四條 組合員ハ組合ニ要スル費用ヲ支辨スル爲メ毎日(毎月何日何度)金何程(貧富ニ依リ等級ヲ設クルモ妨ナシ)宛積立ツルモノトス

第五條 此規約ニ違背シタルモノハ組長ニ於テ市町村長ノ意見ヲ聞キ左ノ例ニ照ラシ違約金ヲ出サシム

一 初度規約ニ違ヒタル者ハ何錢以上何圓以下ノ違約金ヲ出サシム

二 一年内再度以上規約ニ違ヒタル者ハ何拾錢以上何圓以下ノ違約金ヲ出サシム

三 正當ノ事由ナクシテ違約金ヲ出スコトヲ肯セサル者又ハ一年内再度以上違約セシ者ニシテ其情狀重キ者ハ何日以上何日以下組合内ノ清潔法消毒法ノ執行其他豫防上ニ關スル夫役ニ使役スルモノトス

第六條 違約金ハ組長ニ於テ保管シ組合ノ費用ニ充用スルモノトス

前各項ノ外必要ナル事項

組合規約書ノ末尾ニ左ノ通記載スルモノトス

前條條堅ク遵守可致依テ組合員記名調印候也

組長何ノ誰印

副組長何ノ誰印

組員何ノ誰印

第十六章 雜

●死獸取締規則

(明治三十三年七月縣令第五四號)

第一條 本則ニ於テ死獸ト稱スルハ牛馬羊豚及犬ノ死屍ヲ謂フ

第二條 死獸ハ獸疫豫防法ニ關スルモノヲ除クノ外ハ總テ本則ニ據リ取扱フヘシ

第三條 第四條及第八條ノ義務者ニ於テ死獸ノ埋却又ハ燒棄スヘキ場所及ヒ化製剝皮セントスルモノハ化製所皮剝所名受ケタル一定ノ場所若クハ臨時警察官ノ許可ヲ受ケタル場所ニ限ルヘシ

前項ノ死獸ヲ埋却スルトキハ牛馬ハ深サ六尺以上羊豚及犬ハ三尺以上ノ壙穴ニ於テスヘシ

第四條 死獸アリタルトキハ所有者又ハ管理人ニ於テ獸醫ノ檢案ヲ受ケ書面又ハ口頭ヲ以テ獸名死亡ノ年月日埋却又ハ燒棄スヘキ場所及ヒ化製剝皮セントスルモノハ化製所皮剝所名ヲモ併記シ豫メ所轄警察官署又ハ巡査派出所駐在所ニ届出ヘシ

第五條 市町村ハ死獸埋却場若クハ燒棄場ヲ設置スヘシ但數町村又ハ數人共同シテ設置スル

コトヲ得

埋却場若クハ焼棄場ヲ設置セントスルトキハ其位置ノ圖面ヲ添ヘ且第六條ノ事項ヲ具シ所轄警察官署ヲ經テ縣廳ニ願出許可ヲ受クヘシ

第六條　死獸埋却場及焼棄場ハ人ノ住居スヘキ家屋、建物、道路、河川及飲料水ヲ距ル凡ソ百二十間（水準ニ據ル）以上ノ地タルヘシ

第七條　死獸埋却場及焼棄場ハ適當ノ防圍ヲ設ケ且ツ左ノ雛形ニ做ヒ標識ヲ建設スヘシ

用材適宜

何市（町村）死獸埋却（焼棄）場

明治何年何月何日建設

寸法　竪五尺　幅五寸

但數町村又ハ數人共同ニ係ルトキハ何々町村共同又ハ何某外何名共同死獸埋却（焼棄）場ト記スルヲ要ス

第八條　土地所有者又ハ使用者若クハ占有者ハ其地域内ニ死獸アルコトヲ發見シタルトキハ直ニ其所有者又ハ管理人ニ通知スヘシ若シ其所有者又ハ管理人分明ナラサルトキハ第四條ニ準シ所轄警察官署又ハ巡査派出所駐在所ニ届出ツヘシ

第九條　道路河川及第八條ノ地域外ニ死獸アリテ其所有者又ハ管理人分明ナラサルトキハ地元町村ニ於テ第四條ニ準シ所轄警察官署又ハ巡査派出所駐在所ニ届出ツヘシ其埋却又ハ焼棄ニ關シテハ第二條ノ規定ニ據ルヘシ

第十條　第三條第一項ノ場所以外ニ死獸ヲ埋却又ハ焼棄シタル者ハ二十日以下ノ拘留又ハ二十圓未滿ノ科料ニ處ス

第三條第二項第四條第八條ノ規定ニ違背シタル者ハ五圓以下ノ科料ニ處ス

附則

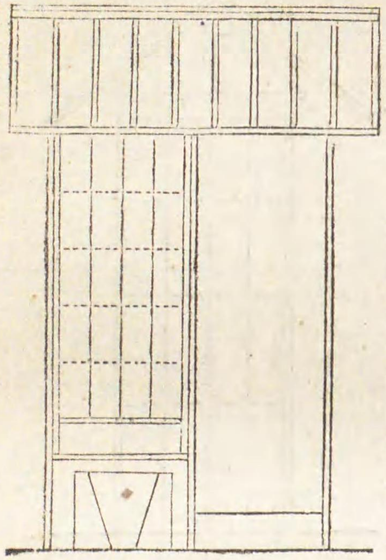
第十一條　（削除）

第十二條　死獸ハ警察官吏又ハ衛生官吏ノ認可ヲ受ケ獸醫ノ檢案ヲ受ケサルコトヲ得

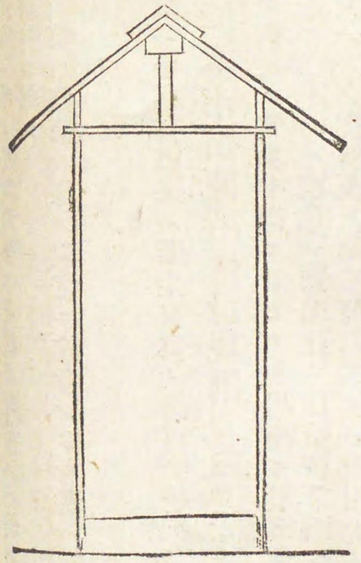
●熊本市街便所構造規則（明治二十年六月縣令第五〇號）

第一條　熊本市街及ヒ熊本市街ニ沿ヒタル場所ニ於テ便所ヲ新設シ又ハ改造セントスル者ハ其場所及ヒ左ニ示シタル構造ノ圖面竝ニ仕樣書ヲ添ヘ熊本市警察署ヘ出願許可ヲ受クヘシ但石造等ナレハ左ノ圖面及ヒ第二條第二項ハ適用セス

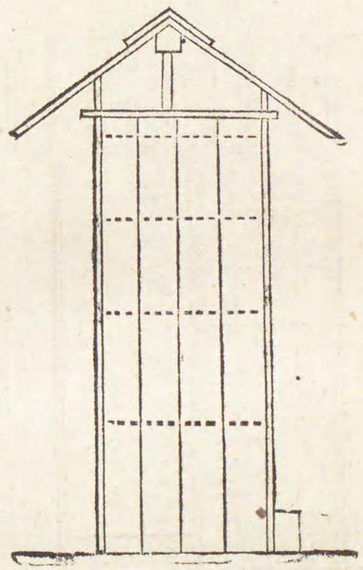
大小便所連接正面ノ圖



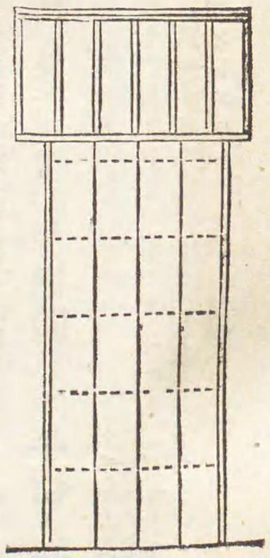
小便所正面ノ圖



同上側面ノ圖



同上側面ノ圖



第二條　便所ノ構造仕樣ハ左ノ各項ニ從フヘシ

一　大小便所連接シタルモノハ高サ七尺間口六尺奥行三尺小便所ノミノモノハ高サ六尺五寸間口三尺奥行三尺トス

一　屋根及ヒ外圍ハ總テスベ板ヲ用フヘシ

一　糞尿器ハ素燒ノ甕其他漏透ノ恐アルモノヲ用フヘカラス

一　糞尿器ノ周圍ハ不潔物ノ漏出セサル樣「セメント」又ハ漆喰等ヲ以テ塗塞スヘシ

一　便所口ハ往來ヨリ見透サルル樣設クヘシ

第三條　便所新設改造トモ落成ノ上ハ熊本市警察署ヘ届出テ檢査ヲ受ヘシ

第四條　便所ニ破損ノ箇所アルトキハ直ニ修補スヘシ

第五條　既設ノ便所ト雖モ道路ノ更正等ニ依リ衞生上若クハ外見上不都合ト認ムル場合ニ於テハ移轉又ハ取除ヲ命スルコトアルヘシ

第六條　長サ六寸幅二寸ノ木札ヘ持主ノ住所氏名ヲ記シ便所ノ側面ヘ釘付シ置クヘシ

●市町村傳染病豫防費補助規程（明治三十二年五月縣令第二一號）

第一條　傳染病豫防法第二十一條　揭クル諸費及第二十三條第二項ノ費用ニ對シ縣稅ヨリ補助スル歩合ハ其支出精算額ノ六分ノ一トス

第二條　市町村ノ支出額其負擔ニ耐ヘスト認ムルトキ其他特別ノ事由アルトキハ第一條ノ制限ニ拘ハラス其全部又ハ幾部ヲ補助スルコトアルヘシ

第三條　傳染病豫防費ノ支出ニ伴フ收入又ハ補助金寄附金等アルトキハ支出總額ヨリ之ヲ控除シタル額ニ對シ補助ス

第四條　補助ハ現品ヲ以テ交付スルコトアルヘシ此場合ニ於テハ金額ニ換算ス

第五條　市町村ヨリ申請セル支出豫算額適當ト認ムルトキハ之ヲ査定シ其査定額ニ對シ補助ス

附　則

第六條　明治三十一年五月縣令第三七號ハ本規程施行ノ日ヨリ廢止ス

●市町村傳染病豫防費補助稟請手續（明治三十一年十一月訓令甲第一四二號）

第一條　市町村ニ於テ傳染病豫防費ノ補助ヲ請ハントスルトキハ第一號書式ノ稟請書ニ左記ノ書類ヲ添ヘ毎年度十二月末日迄ノ分ヲ翌年一月七日限リ市ハ直ニ町村ハ所轄郡役所ヲ經テ稟請スヘシ但特別補助ヲ請ハントスルトキハ第一號書式ニ據ラス其事由ヲ詳記シ稟請スヘシ

一　歲入出豫算書

二　傳染病豫防費ニ對スル支出精算及收入精算内譯書

三　同上精算ニ對スル正當受取人ノ領收證及收入證據書類

四　傳染病豫防費補助稟請ニ關スル調表

第二條　概算ニ於テ若クハ現品ノ補助ヲ受ケントスルトキハ第二號書式ノ稟請書ニ市町村會ニ於テ決議シタル傳染病豫防費ノ内譯書ヲ添ヘ市ハ直ニ町村ハ郡役所ヲ經テ稟請スヘシ但現品ノ交付ヲナストキハ金額換算書ヲ同時ニ交付ス

第三條　前條ノ補助ヲ受ケタル市町村ハ第一條ノ規定ニ依リ（稟請書ヲ除ク）第三號書式ノ精算書ヲ調製シ正當領收證若クハ換算書ヲ添付シ不足アルトキハ現金ヲ返納スヘシ

第四條　郡役所ニ於テ補助ノ稟請ヲ受理シタルトキハ事實精査ノ上不都合ナシト認メタル上進達スヘシ

第五條　補助稟請ニ添付シタル正當受取人ノ領收證及納付書ハ調査完了ノ上其市町村ニ還付ス

第一號書式

稟請書

一金何程

但明治何年度（自何月何日至何月何日）本市（町村）傳染病豫防費支出精算額何程（内支出ニ伴フ收入金何程ヲ控除シ殘金何程）ニ對スル六分一ノ縣稅補助金

右御下付相成度別紙關係書類相添ヘ此段稟請候也

年　月　日

郡（市）町村長　氏　名　印

知事宛

第二號書式

稟請書

一金何程(又ハ何品何程)

本市町村ニ於テ何何病流行(多額ノ費用ヲ要シ)(又ハ多量ノ消毒藥ヲ要シ候)ニ付本年度傳染病豫防費ニ對スル縣稅補助トシテ頭書ノ通(金員又ハ物品)御下附相成度別紙書類相添此段稟請候也

年月日

何郡(市)何町村長 何某印

知事宛

第三號書式

市町村傳染病豫防費補助精算書

高金何程 縣稅補助總高

一金何程 追請求(返納)高

外金何程 何年月日現品受取濟

右者何何病流行ニ付豫防費トシテ縣稅ヨリ補助ヲ受ケタル分精算ヲ遂ケ候處前記之通(不足ニ付追給相成度)(過剩ニ付返納仕候)依テ別紙書類相添精算候也

年月日 何郡(市町村長)

知事宛 何某印

第四號書式 其一

支出精算內譯書

歲出經常部	精算高	附記
科目		
第何款衛生費	二二二五〇〇	
第一項傳染病豫防費	一八五〇〇	
消毒藥價金拾圓		
雇人料金壹圓		
備品費金參圓		
消耗品費金四圓		
雜費金五拾錢		
醫師給金五拾圓		
書記給金貳拾圓		
看病人給金參拾圓		
使丁給金拾圓		
第二項傳染病院費	一八六〇〇	
備品費金五圓		

			消耗品費金六圓
			藥品費金拾五圓
			修繕費金五拾圓
			內
			指定修繕金四拾圓
			通常修繕金拾圓
			醫師手當金五圓
			痘苗代金拾圓
			使丁給金壹圓五拾錢
			雜費金壹圓
			消耗品費金五拾錢
歳出臨時部			
第何款　衛生費	二、四三〇	〇〇〇	
第一項　傳染病院建築費	二、三〇〇	〇〇〇	新築費金千五百圓
			敷地買上代金八百圓
			消毒藥價金百圓
第二項　傳染病院費	一三〇	〇〇〇	醫師給金拾五圓
			看病人給金拾圓
			運搬費金五圓
歳出合計	二、六五二	五〇〇	

右之通リ候也

年　月　日

知事宛

郡（市）町村長　氏　名　印

備考　精算高ノ金額及附記欄ノ記事ハ其例ヲ示シタルモノナルヲ以テ實際整理シタル科目ニ據リ調製スルモノトス

同

其二

收入精算內譯書

科目	精算高	備考
第何款　雜收入	一五〇〇	
第一項　不用品賣拂代	一五〇〇	傳染病院事務所用不用卓子賣拂代金壹圓 同上帳簿賣拂代金五拾錢
第何款　寄附金	一一五〇〇〇	

	第一項 衞生費寄附	一一五〇〇〇	傳染病豫防費指定金百圓 種痘費指定金拾五圓	
第何款 夫役現品		五五〇〇〇		
	第一項 夫役	二五〇〇〇	夫役金貳拾五圓	
	第二項 現品	三〇〇〇	石炭酸代金參拾圓	
合計		一七一五〇〇		

右之通リ候也

年 月 日

知事 宛

郡(市)町村長 氏 名印

備考 同前

第五號書式

傳染病豫防費補助稟請ニ關スル調表

稟請高	市町村歲出豫算總高	戸數	一戸平均負擔額	傳染病豫防費支出精算高	一戸平均負擔額	患者數
圓 厘						
圓 厘						
圓 厘						
圓 厘						
圓 厘						

記載例

一 市町村其豫算總高ハ其年度ノ歲出豫算總高ヲ掲クヘシ(小學校令第五十一條ニヨリ町村立學校ノ設置ニ關スル費用ヲ區ノ負擔トスル町村ニアリテハ其金高ヲモ合算スルコト)

二 戸數ハ本籍寄留ヲ問ハス課稅スヘキ總戸數ヲ掲クヘシ

三 一戸平均負擔額ハ歲出總高若クハ支出精算高ヲ戸數ニテ除シ得タル高ヲ掲クヘシ

四 患者數ハ稟請期間(四月ヨリ十二月マテ又ハ二月ヨリ三月マテ)ニ發生セル各種傳染病患者ノ總數ヲ掲クヘシ

●衞生試驗出願手續

(明治三十一年七月告示第一九〇號)

第一條 警察部衞生試驗所ニ物品ノ試驗(地)若シ製造品ナルトキハ其製造ノ方法及製造者ノ氏名定量分析等ノ區別ヲ記シ現品竝ニ定額ノ手數料ヲ添ヘ縣廳ニ差出スヘシ但鑛泉及飲料水ハ衞生試驗所ノ指示ヲ受ケタル後現品ヲ差出スヘシ

第二條 試驗ニ供スル物品ハ清潔ナル物品ニ容レ密封スヘシ

第三條 試驗手數料ハ左ノ各號ニ依リ一種毎ニ手數料ヲ納ムヘシ但成規ニ依リ出願スルモノハ此限ニ在ラス

一 藥品 一種ニ付手數料 金四拾錢

二 飲料水及水雪 飲料適否鑑定 同 金拾錢

定量分析 同 金壹圓

三	乳汁	單簡ナル理化學的檢査	同	金五拾錢
		定量分析	同	金壹圓五拾錢
四	酒類	同	同	金五拾錢
		同	同	金貳圓五拾錢
五	飲食物	同	同	同
		同	同	同
六	有害性瓦斯類	定性定量ニ拘ハラス	同	金參圓
七	食器玩具顏料化學的製造著色料	定量定性ニ拘ハラス	同	金壹圓
八	鑛泉鑛物及金屬	定性分析	同	金貳圓
		定量分析	同	金五圓

第四條　試驗結了シタルトキハ衛生試驗所ヨリ試驗成績書ヲ交付ス

●濾過水法ノ主旨及方法（明治三十六年五月警達甲第四號）

各地方ニ於テ清淨ナル良水ヲ得難ク爲メニ濾過水ヲ用フル場合ハ左ノ主旨及方法ヲ服含シテ之ヲ實施セラルヘシ

濾過法主旨

水ノ衛生上ニ至大ナル關係ヲ有スルコトハ今更多言ヲ要セス然ルニ世人清水又ハ地底水ヲ得ル能ハサルトキハ河水或ハ井水ノ溷濁セルモノヲ濾過シ之ヲ飲用及使用ニ供ス而シテ其從來俗間ニ慣用シ來リタル四斗樽砂礫濾過法ノ如キハ單ニ濁水ヲシテ有形粗大ノ有檢質及臭氣ヲ去ルニ止リ細菌ノ如キハ該法ヲ行ヒタル爲メ原水ニ比シ寧ロ含菌增多スルコトアリ之レ濾過休止ノ際砂粒間ニ菌ノ增殖スル故ナリ然レトモ此四斗樽濾過法ヲシテ敢テ無益ナルモノト云フニアラス卽チ其濾過方法ヲ左ノ如ク改良實施セハ濁水ヲシテ清水トナラシメ同時ニ諸種雜菌ノ通過ヲ幾分防止シ隨テ砂粒間菌ノ繁殖ヲ豫防シ得ラルヘシ

濁水濾過方法

一　濾過セントスル溷濁水ヲ濾品ニ導クニ先ンシ清淨ナル水ヲシテ砂石層全部ニ包含セシムルマテ注流セシム（清水排出口ハ凡四五舛清水ノ噴流シタル後閉鎖）

二　次テ濾過スヘキ水ヲ砂層清水面上ニ流入セシメ約二十四時間以上靜置スヘシ然ルトキハ其水中ニ含有セル水垢ハ砂面上ニ沈澱シ濾過作用ニ樞要ナル粘泥層ヲ形成ス

三　二十四時間以上ヲ經過セハ今迄閉鎖シ置キタル活栓ヲ拔キ去リ上層ヨリ除々ニ且ツ平等ニ溷濁水ヲ流入スヘシ

四　斯クスルトキハ多クハ微細ナル雜菌モ其粘泥層ニ溜止シ以テ稍ヤ完全ナル清淨水ヲ得ヘシ

五　沈澱層ノ水垢最多量ニ至リタルトキハ濾過力遲緩ナルヲ以テ時々其實況ヲ檢視シ注意シテ粘泥層ノ全部ヲ損セサル樣表面ナル汚染層ノ幾分ヲ除去スヘシ

六　斯ク裝置シタル濾濁ハ少クモ一ケ月以上連用シ得ラルヘシ

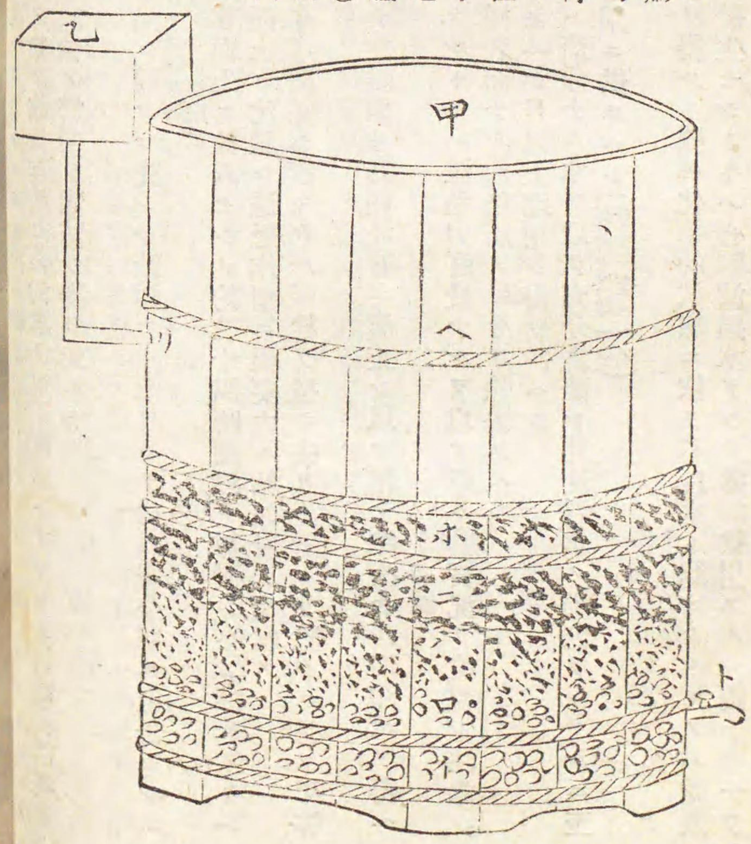
七　一ケ月以上連用シタル砂石ハ清淨ナル水ヲ以テ充分洗滌シ其洗滌水ノ濁色ヲ見サルニ至リ之ニ熱湯ヲ注キ後チ再ヒ用ニ供スヘシ（此時ハ又第一ノ處置ニ復スヘシ）

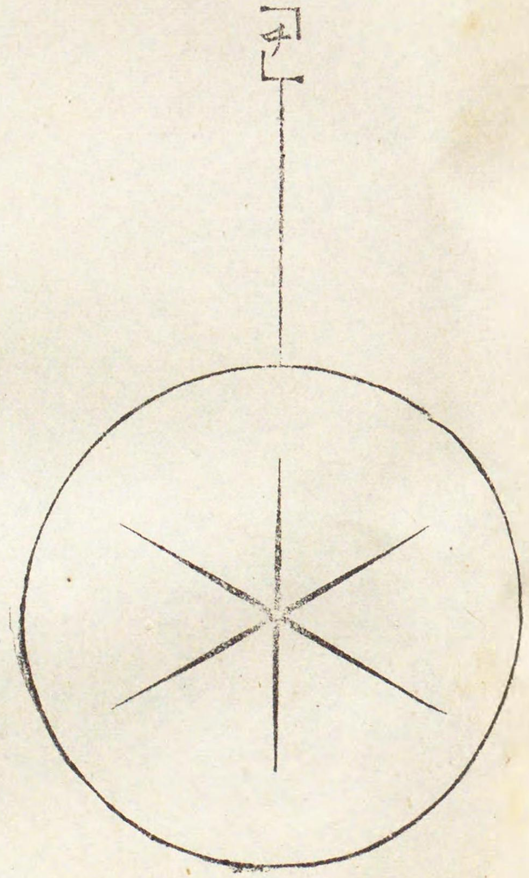
注意

以上ノ方法ニ依リ粗ホ清水ヲ得ルト雖モ化學的試驗ニ依リ不良水ト認メタルモノハ此限ニアラス若シ一朝傳染病ノ發生セシトキハ必該濾過水ヲシテ煮沸供用スルハ論ナキナリ

濾過品略解

（甲）ハ濾過用通稱四斗樽（乙）ハ導水用箱又ハ桶（大小適宜）（イ）ハ鷄卵大ノ石層ニシテ厚サ凡ソ二寸（ロ）ハ豌豆大ノ小石層ニシテ厚サ凡ソ一寸餘（ハ）ハ小砂粒層ニシテ厚サ凡ソ二寸（ニ）ハ細砂粒層ニシテ厚サ凡ソ三寸（ホ）ハ水中ノ粘泥層（ヘ）ハ不淨濾過水地（ト）ハ濾過水排出口ニシテ樽底ヨリ凡一寸ノ上位ニ裝置ス（チ）ハ樽底水排泄口ニシテ器ノ中央ニ設ケ其底板ノ内部ハ本口ニ向テ五六ノ小溝線ヲ畫設シ（リ）ハ不淨水入口ニシテ細砂粒層ヨリ凡ソ二寸ヲ隔テ穿孔ス





第七編　社寺及宗教

第七編　社寺及宗教

第一章　社寺及宗教

●明治二十一年内務省令第六號出願手續（明治三十六年四月縣令第三二號）

第一條　省令第二條ニ關スル願書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　觀覽場ノ位置又ハ觀覽物ノ名稱、起因、來歷、由緒ノ概要

二　觀覽料徵收ノ事由

三　觀覽期限及其料金額

前項ノ事項ヲ變更セントスルトキハ其事由ヲ具シ當廳ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　省令第三條第四條ニ關スル願書ニハ省令第五條各號ノ外左ノ書類ヲ添付スヘシ

一　募集金保管ノ方法

二　工事ニ係ルモノハ圖面竝ニ其設計書但設計書ニハ仕樣品目、數量、價額、人夫賃其他總テノ費用ヲ明細ニ列記スヘシ

第三條　當廳ヲ經由セスシテ內務大臣ヨリ寄附金又ハ負債募集ノ許可ヲ受ケタルモノ本縣下ニ於テ募集セントスルトキハ願書及指令書寫ヲ添ヘ事務所ヲ定メ當廳ニ屆出ツヘシ

變更ノ許可ヲ受ケ又ハ事務所ヲ移轉シタルトキ亦同シ

前項ノ場合ニ於テ募集ヲ結了シタルトキハ其金額ヲ屆出ツヘシ

第四條　左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ寄附金又ハ負債募集ニ從事スルコトヲ認可セス

一　未丁年者

一瘋癲白痴者
一重罪ヲ犯シタル者
一定役ニ服スヘキ輕罪ヲ犯シタル者
一破産若クハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ復權セサル者
一素行不良ト認ムル者

第五條　寄付又ハ負債募集ノ許可ヲ受ケタルモノハ募集金ノ收支ヲ明ニスル爲メ左ノ帳簿ヲ備ヘ其都度記載スヘシ

一寄付人名簿
　本簿ハ寄付ノ年月日金額及寄付者ノ住所氏名ヲ記載スルモノトス
一寄付金收支明細簿
　本簿ハ寄付金受入金額支拂金額竝ニ差引殘額等ヲ記載スルモノトス

前項ノ帳簿ハ官吏ヲシテ臨時檢閲セシムルコトアルヘシ

第六條　觀覽料ノ徵收及寄付金負債募集ニ從事スル者ハ指令書認可書又ハ其寫ヲ携帶スヘシ

第七條　寄付及負債募集ノ爲メ事務所ヲ設置セントスルトキハ其場所若シ主任ヲ置クトキハ其氏名ヲモ届出ツヘシ

第八條　省令第六號第二條乃至第四條第六條及本手續第一條第一項ノ願書ニシテ宗教派ニ係ルモノハ其所屬派管長ノ副書ヲ添付スヘシ

第九條　本手續第三條ヲ除ク外省令第六號及本手續ノ諸願書ハ總テ所轄郡市役所及町村役場ヲ經由スヘシ
募集ノ許可ヲ受ケタル者募集ニ著手セントスルトキハ其願書及指令寫ヲ添ヘ募集地區ヲ管轄スル警察官署ニ届出ツヘシ

第十條　第三條第一項第二項第五條第六條第七條ニ違背シタルモノハ二十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附　則

第十一條　本手續實施前募集ノ許可ヲ受ケタルモノニシテ其募集完了ニ至ラサルモノハ其部分ニ對シ本手續ヲ適用ス

●社寺佛堂境内民有地木竹管理規則

（明治三十九年十月縣令第一四號）

第一條　社寺佛堂ニ於テ其境内民有地ノ木竹ヲ採取セントスルトキハ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第二條　枯損木竹又ハ障碍木竹ヲ採取セントスルトキハ知事ノ許可ヲ得テ之ヲ伐採スルコトヲ得但其合併又ハ移轉ノ場合ヲ除ク外樹木ニ付テハ左ノ範圍ヲ超ユルコトヲ得ス

一目通五尺以上一丈未滿ノ樹木ハ其一割以内
一目通一尺以上五尺未滿ノ樹木ハ其二割以内

第三條　神社本殿拜殿竝寺院佛堂ノ本堂庫裡ノ造修用材ニ必要ナル木竹ハ知事ノ許可ヲ得テ前項ニ該當セサル建造物ト雖トモ古社寺保存法ニ依リ修理費ノ補助ヲ受ケタル建造物及社寺佛堂ニ特別ノ由緒ヲ有スル建造物ノ造修用材ニ對シテハ前項ヲ適用ス

第四條　前條ノ建造物ニシテ災害復舊等ノタメ已ヲ得サル事由アルトキハ前條ノ制限ニ拘ラ

ス知事ノ許可ヲ得テ之ヲ伐採スルコトヲ得

第五條　林藪ノ經營上必要ナル抜伐ヲナサントスルトキハ知事ノ許可ヲ受クヘシ

第六條　第二條ニ該當スルモノト雖モ社寺佛堂ニ由緒アル木竹及風致ニ必要ナル木竹ハ之ヲ伐採スルコトヲ得ス

第七條　境内地ノ林藪五町歩以上ニ渉ルモノハ特別保護ノ方法ヲ設ケ知事ノ認可ヲ受クヘシ但五町歩以下ノモノト雖モ知事ニ於テ必要ト認ムル場合ハ本條ノ規定ニ依ラシムルコトヲ得

第八條　境内地ノ林藪ニ於テハ土石切芝ノ採取又ハ樹根ノ採掘ヲナスコトヲ得ス但社寺佛堂ニ於テ知事ノ許可ヲ得タルトキハ此限ニ在ラス

第九條　社寺佛堂ノ管理者本規則ニ依リ許可ヲ受クヘキ場合ニ於テ其手續ヲ怠リタルトキハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

第十條　明治三十六年六月四日縣令第四十一號ハ之ヲ廢止ス

第十一條　本令ハ明治三十九年十一月一日ヨリ之ヲ施行ス

●社寺境内枯損樟樹拂下取締ニ關スル件（明治四十年八月警達甲第一二號）

近來樟腦ノ需用劇增スルニ反シテ生產不足ナル爲獨佛等ニ於テハ人工樟腦愈々發達シ又南清地方ヨリハ漸次樟腦產出ヲ誘致スルニ至リタルヲ以テ此際我國ニ於ケル產額增加ヲ圖ルハ國產保護上忽諸ニ付スヘカラサル儀ニ付社寺境内ニ存立スル樟樹ニシテ枯損セルモノ等ハ可成製腦原料ニ拂下ケ候樣其筋ヨリ通牒ノ次第モ有之候處右拂下ニ就テハ從來奸商ノ徒不當ノ利ヲ得ンカ爲メ關係村民ヲ盪著シ種々ノ手段ヲ繞ラシ拂下ント企圖シ毫モ社寺ノ風致若クハ緣故ヲ顧ミサルノ例乏シカラサリシヲ以テ將來ニ於テモ尙或ハ名ヲ枯損ニ托シ或ハ故意ニ枯損セシムル等徒ニ伐採ノ目的ヲ達セントスルノ弊害ヲ生スヘク思料セラルル旨ヲ以テ內務部長ヨリ取締方依賴來リ候條豫テ郡市長ト氣脈ヲ通シ注意ヲ周密ニシ取締上遺策ナキヲ期セラルヘシ

第八編　産業

第八編　産業

第一章　産米

●生産米取締規則

（明治四十二年八月　縣令第三五號）

第一條　本則ニ於テ生産米ト稱スルハ生産者又ハ轉得者カ販賣交換其他他人ニ引渡ス玄米ヲ謂フ但四斗未滿ノ端米ハ此限ニ在ラス

第二條　凡ソ生産米ハ生産者ニ於テ左記各號ニ依リ仕上ケ且ツ包裝スヘシ但小作米及利米ハ第五號ノ規定ニ據ラスシテ授受スルコトヲ得

一　籾ノ乾燥　苅干晴天二日以上莚干晴天三日以上之ヲ行フコト

二　唐箕及萬石箕ヲ以テ土砂、稗、粃、碎米、不熟米等ヲ除去スルコト

三　種類、品質ノ異ナルモノヲ混交セサルコト

四　一俵ノ容量ハ四斗トスルコト但量定方法ハ丸桝樋量ヲ以テ標準トス

五　俵裝ハ別ニ定ムル方法ニヨルコト

六　生産者ノ住所氏名ヲ記シタル紙札ヲ俵中ニ入レ且同樣ノ木札又ハ竹札ヲ俵口ニ插入スルコト

第三條　生産者及前條但書ニヨリテ小作米又ハ利米ヲ取得シタルモノハ毎年二月末日限リ其貯藏スル生産米ヲ前條第五號ニ依リ俵裝スヘシ

第四條　運搬不便ノ地方ニアリテハ容量及俵裝ニ限リ前二條ノ規定ニ據ラサルコトヲ得但其地區ハ別ニ之ヲ告示ス

第五條　生産米ノ占有者ハ米又ハ俵ニ濕氣ヲ施シ俵米ヲ抽出シ若クハ猥リニ解俵又ハ量リ替ヲ爲スコトヲ得ス

第六條　知事ニ於テ必要ト認ムルトキハ檢查員ヲシテ生産米ノ檢查ヲ爲サシムルコトアルヘシ此場合ニ於テ檢查員タルノ證票ヲ携帶セシム

前項ノ檢查ニ對シテ生産者又ハ轉得者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第七條　第二條ノ規定ニ適當セサル生産米ハ有償タルト無償タルトヲ問ハス一切授受スルコトヲ得ス

第八條　第二條及第三條ニ違背シタルモノハ拘留又ハ科料ニ處ス

第九條　第五條第六條第二項及第七條ニ違背シタルトキハ十圓以下ノ罰金ニ處ス

附　則

第十條　本則ハ明治四十一年八月二十日ヨリ之ヲ施行ス

明治三十二年五月縣令第一八號販賣米取締規則ハ本則施行ノ日ヨリ之ヲ廢止ス

●生産米取締規則第四條地區指定ノ件

（明治四十一年八月告示第四三七號）

明治四十一年（八月）縣令第三十五號生産米取締規則第四條ノ地區ヲ左ノ如ク指定ス

阿蘇郡　柏村、菅尾村、小峯村、馬見原町

上益城郡　朝日村

八代郡　上松求麻村、下松求麻村ノ内字今泉字昭堂ヲ除ク外一圓、栗木村、柿迫村、河俣村、仁田尾村、久連子村、葉木村、樅木村、椎原村、小浦村ノ内字池ノ原字内ノ木場、字箱石

球磨郡　一勝地村、神瀬村、水上村、上村ノ内大字皆越、久米村ノ内大字槻木、四浦村、五木村

●本縣産米ヲ縣外ニ輸送セントスル者ハ檢查ヲ受クヘキ件

（明治四十一年八月告示第八一號）

肥後米輸出同業組合員ニアラサル者ニシテ本縣産米ヲ縣外ニ輸送セントスルトキハ本令第一項ニ違背シタル者ハ貳圓以上拾圓以下ノ罰金又ハ二日以上十日以下ノ拘留ニ處ス

●明治三十一年縣令第八十一號ヲ適用セサル地域

（明治三十一年十一月告示第三四三號）

本年十一月縣令第八十一號ヲ適用セサル地方左ノ如シ

鹿本郡　岳間村、内田村

菊池郡　龍門村、水源村

阿蘇郡　北小國村、南小國村、産山村、波野村、野尻村、菅尾村、馬見原町

球磨郡　藍田村、湯前村、水上村

第二章　肥　料

●肥料取締法施行手續

（明治四十一年十月縣令第四九號）

第一條　肥料取締法第二條ノ肥料營業ノ免許願書及同法施行規則第一條添付書面ハ製造營業者ニアリテハ第一號樣式ニ輸入移入及賣買營業者ニアリテハ第二號樣式ニ據ルヘシ

第二條　肥料取締法第三條第二項ノ認可願書ハ第三號及第四號樣式ニ同法施行規則第三條第五號ノ認可願書ハ第五號樣式ニ據ルヘシ

第三條　肥料營業者ハ營業所製造場藏置所ノ見易キ場所ニ第六號樣式ノ看板ヲ揭クヘシ

第四條　肥料營業者ニシテ自ラ管理ヲ爲ササル營業所及製造場ニハ豫メ管理人ヲ定メ連署ヲ以テ屆ケ出ツヘシ變更ノ場合モ亦同シ

第五條　肥料營業者ニシテ行商鑑札ヲ受ケントスルモノハ第七號樣式ニ據ルヘシ

行商者ヲ變更シ又ハ肥料營業者若クハ行商者ノ氏名名稱若クハ住所ヲ變更シタルトキハ第八號樣式ニ據リ行商鑑札ノ書換ヲ出願スヘシ

第六條　休止シタル營業者ニシテ其營業ヲ開始シタルトキハ直ニ其旨ヲ屆出ツヘシ

第七條　肥料取締法第四條ニ依リ添附スヘキ保證票ハ製造營業者ニアリテハ第九號樣式ニ輸入移入營業者ニアリテハ第十號樣式ニ賣買營業者ニアリテハ第十一號樣式ニ據ルヘシ

第八條　肥料取締法施行規則第二十條ニ依リ肥料營業者ノ備ヘ置クヘキ帳簿ハ製造營業ニアリテハ第十二號樣式ニ輸入移入營業ニアリテハ第十三號樣式ニ賣買營業ニアリテハ第十四號樣式ニ據ルヘシ

肥料行商者ハ第十三號樣式及第十四號樣式ニ據リタル肥料行商簿ヲ携帶シ行商中肥料ヲ讓受ケ又ハ讓渡ス毎ニ其ノ名稱數量價額年月日及相手方ノ住所氏名ヲ記載スヘシ

第九條　肥料取締法施行規則第二十一條ノ肥料販賣高屆ハ第十五號樣式ニ據リ屆出ツヘシ

第十條　肥料營業免許證及行商鑑札ヲ喪失シ又ハ著シク毀損シタルトキハ其事由ヲ具シ再下附ヲ願出ツヘシ

第十一條　肥料取締法第六條又ハ同法第七條ノ處分ヲ送達スルコト能ハサルトキハ之ヲ告示ス

第十二條　未成年者又ハ禁治産者ノ願書ハ總テ法定代理人ヨリ出願スヘシ

但シ民法第六條ニヨリ營業ヲ許サレタル未成年者ニアリテハ法定代理人ノ連署ヲ要ス

法人ノ願書及屆書ニハ其名稱事務所ノ位置代表者ノ氏名ヲ記載シ定款ヲ添附スヘシ

前各項ノ事項ヲ變更シタルトキハ遲滯ナク屆出ツヘシ

第十三條　當廳ニ差出ス願書及屆書ハ市ニアリテハ市役所町村ニアリテハ町村役場及郡役所ヲ經由スヘシ

但肥料取締法施行規則第五條第二項及同第十九條同第二十一條ノ屆ハ直接當廳ニ差出スヘシ

第十四條　本手續第三條第四條第六條第七條第八條ニ違背シタルトキハ科料ニ處ス

（樣式省略）

●肥料檢查ニ關シ立會ヲ要スル場合ノ件（明治四十三年三月警第六六二號）

肥料檢查ノ爲メ當該官吏主張ノ際貴署駐在巡查ニ就テ地方ノ狀況ヲ調查シ或ハ臨檢搜查差押ヘヲナサントスル時立會ヲ要スル場合モ有之候ハヽ相當便宜ヲ與ヘラレ度內務部長ヨリ照會ノ次第モ有之候條右及通牒候也

第三章　害蟲

害蟲驅除豫防規則

（明治三十四年四月縣令第二三號）

第一條　害蟲田畑ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ該田畑ノ作人ハ明治三十四年縣令第二十四號害蟲ノ種類及驅除豫除ノ方法ニ據リ直ニ驅除豫防ニ著手シ且害蟲ノ種類及著手シタル驅除豫防ノ方法ヲ口頭若クハ書面ヲ以テ町村長ニ急報スヘシ

第二條　町村長ニ於テ前條ノ急報ニ接シタルトキハ直ニ實地ヲ調査シ作人ノ驅除豫防ヲ監視シ左記ノ事項竝其實況ヲ詳記シ郡長警察署長又ハ分署長及鄰接町村長ニ急報スヘシ町村ニ於テ發見シタルトキ亦同シ

一　害蟲ノ種類

二　驅除豫防ヲ施行スヘキ區域見積反別及期限

三　被害農作物ノ種類

四　驅除豫防ノ方法

第三條　町村長ニ於テ作人驅除豫防ヲ行ハス又ハ之ヲ行フモ驅除豫防ノ方法ニ適合セスト認メタルトキハ作人ヲ督勵シテ直ニ應急ノ驅除豫防ヲ施行シ同時ニ郡長ニ急報シテ其指揮ヲ受クヘシ

第四條　郡長ニ於テ第二條ノ報告ニ接シ又ハ發見シタルトキハ豫メ期限ヲ定メ該田畑ノ作人ニ驅除豫防方法ノ全部又ハ一部ヲ行ハシムヘシ

前項ノ場合ニ於テ作人驅除豫防ヲ行ハス又ハ之ヲ行フモ驅除豫防ノ方法ニ適合セスト認メタルトキハ害蟲驅除豫防法第三條第二項ニ依リ町村長ニ命令シ町村費ヲ以テ驅除豫防ヲ行ハシメ其費用ハ該作人ヨリ徵收セシムヘシ

第五條　害蟲蔓延シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキ若クハ田畑以外ノ地ニ發生シタルトキ又ハ發生ノ虞アルトキハ町村長ハ實地調査シ第二條ノ事項ヲ具シ郡長ニ急報スヘシ郡長ニ於テ前項ノ報告ニ接シタルトキ又ハ發見シタルトキハ害蟲驅除豫防法第四條ニ依リ町村費ヲ以テ驅除豫防ヲ施行セシムヘシ

第六條　郡長ニ於テ二町村以上同時ニ町村費ヲ以テ驅除豫防ノ施行ヲ命令シタルトキハ第二條ノ事項及之ニ要スル費用ノ調書ヲ製シ知事ニ具申スヘシ

第七條　郡長ニ於テ驅除豫防ノ爲メ夫役ノ賦課ヲ必要ト認ムルトキハ害蟲驅除豫防法第五條ニ依リ町村ニ其賦課ヲ命シ其區域竝課率及作人所有者ノ姓名ヲ知事ニ急報スヘシ

第八條　郡長ニ於テ害蟲驅除豫防法第六條ノ施行ヲ必要ト認ムルトキハシメ區域其他前條ニ依リ知事ニ急報スヘシ

第九條　明治三十四年縣令第二十四號ニ揭クル種類以外ノ害蟲發生シタルトキ又ハ蔓延ノ兆アルトキ或ハ蟲類以外ノ動物ニシテ農作物ヲ害スルノ虞アルトキハ町村長ハ郡長ニ急報スヘシ

前項ノ場合ニ於テ必要ト認ムルトキハ郡長ハ驅除豫防ノ方法ヲ定メ若クハ知事ノ指揮ヲ請ヒ其他ノ作人又ハ町村ニ驅除豫防ヲ行ハシムヘシ

第十條　郡長ニ於テ前條ニ據リ驅除豫防ノ施行ヲ命令シタルトキハ直ニ鄰接ノ郡ニ本則第二條ノ事項ヲ通報スヲ具シ知事ニ急報ス可シ

第十一條　郡長ハ郡内ニ害蟲ノ發生シタルトキハ驅除豫防ノ方法ヲ定メ若クハ知事ノ指揮ヲ請可シ

此通報ニ接シタル郡長ハ發生地ニ近接シタル町村長ニ町村長ハ之ヲ町村内ニ示達スヘシ

第十二條　警察署長又ハ分署長ニ於テ本則第二條ノ報告ニ接シタルトキハ作人又ハ町村ノ驅除豫防方法ノ施行ヲ監視ス可シ警察官ニ於テ害蟲ノ發生又ハ發生ノ虞アルヲ發見シタルトキハ直チニ所在町村長ニ通知シ且ツ巡査ハ所屬署長ニ署長ハ郡長ニ通知ス可シ

第十三條　町村ハ害蟲驅除豫防委員ヲ置キ驅除豫防ノ督勵ニ當ラシムヘシ

郡長ハ前項ノ委員ノ數ヲ指定シ同時ニ之ヲ知事ニ報告ス可シ

第十四條　稻苗代（田畑）ノ床地ハ幅三尺以内間切ヲ幅七寸以上トシ短冊形ニ整地スヘシ

第十五條　本則第四條第一項ノ場合ニ於テ郡長ノ命令ニ從ハス又第十四條ニ違背スル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料又ハ十日以下ノ拘留ニ處ス

●害蟲ノ種類驅除豫防方法（明治三十四年四月縣令第二四號）

第一條　害蟲驅除豫防法第二條ニヨリ驅除豫防スヘキ害蟲ノ種類ヲ左ノ五種トス

第一　稻ノ螟蟲　方言　ホカレムシ、ヨムシ、シンキリムシ

第二　浮塵子　同　オシタヲシムシ、イツタヲシ、ドヒヨウムシ

第三　地蠶　同　ユウレイムシ、ホウジヨウムシ、キソウジヤー、シマサンタイ

第四　油胡盧　同　キナメ

第五　椿象　同　フウ

第二條　前條ノ害蟲ヲ驅除豫防スル方法ヲ定ムル左ノ如シ

第一　稻ノ螟蟲

一　殺蛾燈點火

（イ）殺蛾燈ノ燈數ハ苗代ノ個所毎ニ一個面積二畝歩以上ハ二畝歩ヲ增ス毎ニ一個ヲ加ヘ

一反歩以上ノ個所ハ三畝歩毎ニ一個トシ三畝歩ヲ增ス毎ニ壹個ヲ加フヘシ

（ロ）殺蛾燈ノ點火ハ周圍ノ畦畔ニ沿ヒ苗ヲ離ルル一尺内外ノ高サニ於テ薄暮ヨリ翌朝未明迄トス

（ハ）殺蛾燈ノ蛾數計算及掃除注油等點火ニ關スル一切ノ準備ハ點火期間毎日午前中ニ終了スヘシ

二　捕蛾

螟蟲ノ蛾ヲ捕殺スヘシ

三　採卵

（イ）苗代又ハ實蒔ノ田畑共稻葉ニ產付シタル卵塊ヲ採集燒棄スヘシ但シ特ニ早植ノ田地ハ採卵スヘシ

（ロ）三化螟蟲ノ發生甚シキ地方ハ第三回發生ノ蛾ノ產付スル卵塊ヲ採集燒棄スヘシ

四　採蛀

二化螟蟲ノ發生甚シキ地方ハ秋季ノ被害莖ヲ蛀ノ他莖ニ移ラサル前早ク下部ヨリ除去シ燒棄スヘシ

五　稻株處分

三化螟蟲ノ害甚シキ地方ハ稻刈取後左ノ方法ノ一ヲ行フ

（イ）根株ヲ集メ土中深サ五寸以上ニ埋沒シ又ハ燒棄スヘシ

（ロ）株切鍬ヲ以テ根株ヲ截斷スヘシ

（ハ）濕田ニ於テハ其根株ヲ打返シ蹈ミ込ムヘシ

六　被害藁ノ處分

二化螟蟲ノ害甚シキ地方ハ左ノ方法ノ一ヲ行フ

（イ）上部ノ穗ノミ刈取リ其下部ノ藁ヲ燒棄スヘシ

（ロ）刈取後藁ヲ壓搾シ幼蟲ヲ鏖殺スヘシ

（ハ）刈取後翌春羽化期前迄藁ヲ緊縛シ又ハ梱包ヲ施シ又ハ室内ニ密閉シ螟蛾ノ逸出ヲ防クヘシ

第二　浮塵子

一　捕蟲網ヲ以テ苗代ニ於ケル成蟲ヲ捕殺スヘシ

二　注油

田面ニ水ニ湛ヘ石油魚油若クハ種油ノ類ヲ注入シ蟲ヲ掃ヒ落シ又ハ洗ヒ落シ其死スルヲ待チ新シキ水ト入レ替フヘシ

（イ）拔苗後ハ浮塵子ノ散亂セサルニ先チ猶豫ナク注油驅除ヲ爲シ以テ苗代跡ノ清潔ヲ計ルコト

（ロ）注入スル油量ハ苗代本田共ニ一反歩ニ付一升乃至二升ノ割合トスヘシ

（ハ）注油ノ時刻ハ幼蟲ハ成ル可ク日中ニ成蟲ハ早朝稻葉ニ露ヲ保ツ間ニ施行スヘシ

（ニ）陸稻若クハ灌水ノ便ナキ所ハ淺キ長形ノ箱ニ油類ヲ滴下シタル水ヲ盛リ其ノ中ニ掃ヒ落スヘシ

（ホ）畦畔ノ雜草ハ驅除ニ著手前寺麗ニ刈取ルヘシ

第三　地蠶

一　孵化當時被害作物ノ葉ノ裏面ニ多數集ルモノヲ捕殺スヘシ

二　被害地ノ周圍又ハ或ル部分ニ深サ一尺以上ノ溝ヲ掘リ其溝中又所々ニ陷穽ヲ作リ時々巡視シテ其中ニ落チタル蚜蟲ヲ捕殺スヘシ

第四　油胡盧

油胡盧發生シタルトキハ被害地ノ或ル部分ニ深サ凡ソ一尺以上長サ適宜ノ溝ヲ掘リ其中ニ藁又ハ雜草ヲ散布シ其下ニ集合セルモノヲ朝夕巡視シテ之ヲ捕殺スヘシ

第五　椿象

一　早朝成蟲ヲ捕殺スヘシ

二　卵塊ヲ採集燒棄スヘシ

第三條　害蟲驅除著手前其田畑ニ住所（字名若クハ區名番地等）氏名ヲ明ニ表記シタル木札ヲ道路若クハ畦畔ノ方ニ向ケ四尺以上ノ高サニ揭示スヘシ

●害蟲驅除ニ關シ郡令發布アリタルトキハ其寫ヲ添ヘ報告スヘキ件（明治三十七年七月保第二九七一號）

害蟲驅除ニ關シ貴郡ニ於テ郡令發布シタルトキハ其郡令全寫御報告相成度此段及照會候也

●害蟲驅除豫防ニ關シ府知事ノ委任ニ依リ郡長ノ發シタル命令ニ從ハサルモノハ同法違犯者トシテ處罰スルノ件（明治三十五年五月警達甲第一九號）

明治二十九年三月法律第十七號害蟲驅除豫防法第十一條ハ害蟲ノ驅除豫防ニ關シ府縣知事ノ

委任ニヨリ郡長ノ發シタル命令ニ從ハサル者ハ同法違犯トシテ處罰スル筈ニ決定左記ノ通リ通達アリタル旨岡田檢事正ヨリ通牒有之候條此旨心得ラルヘシ

乙第七八七號（明治三十五年五月二十二日付熊本地方裁判所檢事正岡田豐ヨリ管内區裁判所檢事宛）

明治二十九年三月法律第十七號害蟲驅除豫防法第十一條ハ害蟲ノ驅除豫防ニ關シ府縣知事ノ自ヲ發シタル命令ニ從ハサル者ニ適用スヘキモノニシテ其委任ニヨリ郡長ノ發シタル命令ニ從ハサル者ニ迄及ホスヘキモノニ非ストシ昨年當地方裁判所刑事部ニモ協議ノ上前段ノ通リ決行相成度旨及御協示置候儀モ有之候ヘ共其後當地方裁判所ニ於テハ苟モ府縣知事ノ委任ニヨリ發シタル命令ナル以上ハ其命令ハ則チ府縣知事ノ命令ト云フヲ得ヘク隨テ之ニ從ハサル者ニ對シテハ同條ヲ適用スヘキモノトシ有罪ノ判決ヲ爲シタル實例モ有之候ニ付爾後右命令ニ從ハサル者ハ總テ同法違犯トシテ處罰スル筈ニ決定候條此段及通達置候也

●害蟲驅除豫防ハ郡長其他ノ協議ニ應シ便宜ヲ與ヘ協力勵行スヘキ件（明治三十七年八月警察部訓第二七號）

害蟲驅除豫防ニ關シテハ各郡共追々郡令ヲ發布シ將ニ勵行ノ運ニ相成居候處右勵行ニ付テハ今後郡長若クハ當該吏員ヨリ屢協議ニ及フヘキ場合可有之候條其際ハ職權上出來得ル限リ便宜ヲ與フルト共ニ協力以テ驅除豫防ノ目的ヲ遂行スルニ努メラルヘシ

第四章　蠶病

●蠶病豫防法施行手續（明治三十九年十一月訓令第一八號）

第一條　蠶病豫防法施行規則第一條ニ依ル蠶種製造屆書ハ毎年二月末日迄ニ之ヲ知事ニ差出スヘシ

第二條　蠶病豫防法施行規則第二條ニ依ル屆書ハ其ノ場所ヲ豫定シ得ヘキモノニアリテハ毎年四月末日迄ニ之ヲ臨時ニ定ムルモノニアリテハ其ノ都度之ヲ知事ニ差出スヘシ

第三條　第一條ノ屆出ヲナシタルモノハ其ノ製造ノ場所ニ樣式第一號ノ標札ヲ其ノ取扱場所ノ門戸ニ掲クヘシ

第四條　生絲製造者又ハ生繭ノ賣買若クハ殺蛹乾繭ニ從事スル者及代理人ニハ樣式第三號ノ證票ヲ下付ス

前項ノ證票ハ業務ニ從フトキ之ヲ携帶スヘシ

第五條　蠶病豫防事務所ノ名稱位置管轄區域ハ左ノ通リ之ヲ定ム

名稱	位置	管轄區域
熊本縣蠶病豫防事務所	熊本市櫻井町三番地	熊本市（一圓）
熊本縣蠶病豫防事務所熊本出張所	同	玉名郡（一圓）鹿本郡（一圓）菊池郡（一圓）阿蘇郡（一圓）上益城郡（一圓）下益城郡（一圓）八代郡（一圓）葦北郡（一圓）球磨郡（一圓）
同　高瀨出張所	玉名郡役所内	
同　山鹿出張所	鹿本郡役所内	
同　隈府出張所	菊池郡役所内	
同　宮地出張所	阿蘇郡役所内	
同　御船出張所	上益城郡役所内	
同　松橋出張所	下益城郡役所内	
同　八代出張所	八代郡役所内	

同　本渡出張所

第六條　蠶病豫防法施行規則第十條ニ依ル蠶室、蠶具、消毒施行ノ期日ハ告示ヲ以テ之ヲ定ム但シ止ムヲ得サル事由ニ依リ告示ノ期日ニ施行スルコト能ハサルトキハ當該吏員ノ承諾ヲ經テ之ヲ變更スルコトヲ得

施行期日以外ニ於テ臨時消毒ノ必要アルトキハ前項但書ニ準シ之ヲ施行スヘシ

第七條　蠶種製造者原種ノ掃立ヲ終リタルトキハ掃立後三日以内ニ樣式第四號掃立届ヲ所轄蠶病豫防事務所出張所ニ差出スヘシ但數回ニ掃立タルトキハ其ノ都度之ヲ差出スヘシ

第八條　蠶種製造者蠶兒ノ全部又ハ一部ヲ讓渡サムトスル場合ニ於テ其讓受人蠶種製造者ナルトキハ雙方連署シ其ノ事由ヲ具シ樣式第五號蠶兒讓渡許可請求書ヲ讓渡人ノ所轄蠶病豫防事務所出張所ニ差出スヘシ

前項ノ場合ニ於テ當該吏員ヲシテ臨檢セシメ其ノ事由正當ナリト認ムルトキハ讓渡人ニ許可ヲ與フ此場合ニ於テ讓受人蠶種製造者ナルトキハ其ノ蠶兒及之ニ相當スル掃殼ニ對シ樣式第六號蠶兒讓渡證明書ヲ下付ス

第九條　蠶種製造者蠶兒ノ上簇ヲ了リタルトキハ樣式第七號上簇屆書ヲ即日所轄蠶病豫防事務所出張所ニ差出スヘシ但數回ニ上簇シタルトキハ其都度之ヲ差出スヘシ

第十條　蠶種製造者ハ蠶兒ノ上殘後一化性ニアリテハ十日以内ニ二化性及多化性ニアリテハ八日以内ニ繭ヲ撰別スヘシ

繭ノ撰別ヲ終リタルトリキハ樣式第八號收繭調書ヲ作リ當該吏員臨檢ノ際之ヲ差出スヘシ

第十一條　蠶病豫防法施行規則第三十八條ニ依リ種繭證明書ノ書換（下付）ヲ請求セムトスルトキハ樣式第九號種繭證明書書換（下付）請求書ヲ所轄蠶病豫防事務所出張所ニ差出スヘシ

第十二條　原種製造ノ臺紙ニハ番號ヲ付シ其ノ蛾區ノ符號ハ數字ヲ用フヘシ但シ臺紙ノ番號ハ種繭證明書ノ番號ヲ異ニスル毎ニ新ニ之ヲ付スヘシ

母蛾ハ二十八蛾區連接ノ紙袋ニ入レ之ニ臺紙ト同一ノ番號符號化性名稱及製造者ノ氏名ヲ記載スヘシ

第十三條　蠶病豫防法施行規則第二十七條第一項ニ依リ原種用印（製絲用種檢查合格證印）ノ押捺ヲ請求セムトスルトキハ蠶病豫防法施行規則第十六條第一號ノ檢查終了後直チニ樣式第十號原種用印（製絲用種檢查合格證印　押捺請求書ニ臺紙及種繭證明書ヲ添ヘ之ヲ所轄蠶病豫防事務所出張所ニ差出スヘシ

第十四條　蠶病豫防法施行規則第十六條第二號及第三號ニ依ル不越年蠶種ノ檢查ヲ請求セントスルトキハ製絲用種ニアリテハ樣式第十一號ノ一不越年製絲用種出殼繭檢查請求書ヲ原種ニアリテハ樣式第十二號ノ一不越年原種檢查請求書ニ卵及母蛾ヲ添ヘ蠶種ノ製造後直チニ所轄蠶病豫防事務所出張所ニ差出スヘシ

前項不越年原種出殼繭ノ檢查ハ蠶種製造ノ場所ニ於テ之ヲ行フ

第十五條　蠶病豫防法施行規則第十六條第二號ニ依ル越年蠶種ノ檢查ヲ請求セムトスルトキハ遲滯ナク樣式第十一號ノ二越年蠶種檢查請求書ヲ同條第三號ニヨル越年原種ノ檢查ヲ請求セムトスルトキハ每年七月以前ノ製造ニ係ルモノハ蠶種ノ製造後三十日以内ニ樣式第十二號ノ二越年原種母蛾檢查請求書ヲ所轄蠶病豫防事務所出張所ニ差出スヘシ

前項ノ原種及ヒ母蛾ハ通知ヲ受ケタル期日ニ

第十六條　越年原種母蛾ノ檢査ハ毎年八月十五日ヨリ之ヲ行フ

第十七條　蠶病豫防法施行規則第十七條但書第十八條及第三十六條第二項ノ檢査ヲ行フトキハ其ノ旨ヲ蠶種製造者ニ通知ス

蠶種製造者前項ノ通知ヲ受ケタルトキハ其ノ檢査ヲ終ル迄不越年製絲用種ヲ蠶種製造ノ場所以外ニ搬出スルコトヲ得ス

第十八條　蠶病豫防事務所ハ蠶種製造者ノ蠶種ヲ保管スルトキハ請求ニヨリ預リ證ヲ交付ス

第十九條　蠶種製造者ハ蠶病豫防法施行規則第十六條第三號ノ檢査終了ノ通知ヲ受ケタルトキハ蠶病豫防事務所ニ出頭シ蠶種ノ枚數及證印ノ有無ヲ取調ヘ之ヲ受領シ預リ證ヲ存スル場合ニハ之ヲ返納スヘシ

第二十條　蠶病豫防法施行規則樣式第六號及第七號又ハ第十四號ノ證印ヲ押捺スルトキハ同時ニ樣式第十三號ノ印ヲ押捺ス

第二十一條　蠶病豫防法第十五條ノ取消ニ係リ又ハ蠶病豫防法施行規則第二十七條第三項ノ無效ニ屬シタル蠶種ハ官報及縣公報ヲ以テ之ヲ公示ス

第二十二條　蠶病豫防法施行規則第三十六條第一項ニヨリ製絲用種檢査合格ノ證印ヲ請求セムトスルトキハ樣式第十四號用種變更請求書ニ蠶種ヲ添ヘ之ヲ所轄蠶病豫防事務所ニ差出スヘシ但蠶病豫防法施行規則第三十四條第二項ニ依ルモノハ原種受領後五日以內ニ之ヲ差出スヘシ

第二十三條　蠶種製造者又ハ其ノ代理人消毒施行期日竝原種掃立後蠶病豫防法施行規則第十六條第一號及第二號ノ檢査終了前ニ外出セムトスルトキハ必ス相當ノ受檢代理人ヲ定メ置クヘシ

第二十四條　生絲製造者又ハ生繭ノ賣買若クハ殺蛹乾繭ニ從事スルモノハ其年八月二十日迄ニ樣式第十五號生繭取扱屆書ヲ所轄蠶病豫防事務所出張所ニ差出スヘシ

第四條ノ證票ハ前項屆書ニ添ヘ返納スヘシ

第二十五條　自家用ノ爲メ蠶種ヲ製造シタル者ハ樣式第十六號自家用蠶種製造屆書ヲ蠶種製造後五日以內ニ知事ニ差出スヘシ

第二十六條　自家用蠶種製造者ハ檢查合格ノ原種ヨリ產出シタル繭ヲ用フルニ非サレハ蠶種ヲ製造スルコトヲ得ス

第二十七條　自家用蠶種製造者ハ臺紙ノ表面ニ化性名稱及自家用ノ三字ヲ大書シ表面若クハ裏面ニ製造年月日竝製造者ノ氏名ヲ記載シ原種ノ掃殼及出殼繭ハ蠶種製造後一ケ月以內之ヲ保存スヘシ

第二十八條　自家用蠶種ニシテ病毒存在ノ疑ヒアリト認ムルトキハ蠶病豫防法施行規則第十七條第十八條ノ檢查ヲ行ヒ同第十九條ニ依リ不合格トナリタルモノハ之ヲ燒棄ス

第二十九條　蠶種製造者生絲製造者又ハ生繭賣買若クハ殺蛹乾繭ニ從事スルモノ及自家用蠶種製造者ヨリ知事ニ差出スヘキ書類ハ凡テ二通ヲ作リ所轄蠶病豫防事務所出張所ニ差出スヘシ

第三十條　第四條第二項、第二十四條、第二十五條、第二十六條及第二十七條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

第三十一條　第二十四條第二十五條第二十六條第二十七條ニ違背シタル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附　則

第三十二條　毎年八月一日以後ニ於テ蠶種製造養蠶生絲製造又ハ生繭ノ賣買若クハ殺蛹乾繭ニ從事スル者ハ蠶病豫防法施行規則第二條ノ屆出同第七條及第八條ノ設備ヲ爲シ又ハ第四條ノ證票ヲ携帶スルヲ要セス

樣式第一號

木製 長二尺 幅五寸

蠶種製造所　蠶種製造者氏名
縣郡市町村字番地

樣式第二號

木製 長二尺 幅五寸

生繭取扱場所　業氏名
縣郡市町村字番地

樣式第三號

厚紙 長三寸 幅二寸

第　號

業　縣市町村字番地
代理人　氏　名
氏　名

何々用屆濟證

年　月　日

縣印

樣式第四號

掃立屆

化性	化期	名稱	蠶種製造者	原種製造場所	掃立蛾數	掃立蟻量	同上月日	製造場所

右及御屆候也

年　月　日

熊本縣蠶病豫防事務所宛

縣郡市町村字番地
氏　名　印

（備考）化性、化期、蠶種ノ名稱、製造者又ハ製造場所ノ異ナル原種ヨリ掃立テタルモノハ各別行ニ記載スヘシ

樣式第五號

蠶兒讓渡許可請求書

化性	化期	名稱	原種製造者	原種製造場所	掃立蛾數	掃立蟻量	掃立月日	蠶齡

右（何々事由）ニ依リ（縣郡市町村字番地何某ヘ）讓渡致度候間御許可相成度此段及請求候也

年　月　日

熊本蠶病豫防事務所宛

縣郡市町村字番地
讓渡人　氏　名　印
（縣郡市町村字番地）
（讓受人　氏　名　印）

（備考）
一部ノ譲渡ニ付テハ原種掃立蛾數及同上蟻量ハ見込數ヲ記載スヘシ但此場合ニ於テハ蠶兒ノ概算頭數ヲ併記スルヲ要ス

様式第六號

蠶兒譲渡證明書

一　原種製造者
一　原種製造場所
一　化性化期名稱
一　掃立蛾數及蟻量　（概算頭數）
一　掃立月日
一　掃殼　（蛾數）
一　蠶齡

右縣郡市町村字番地何某ヨリ譲渡シタルコトヲ證ス

年　月　日

縣蠶病豫防吏員（官）　氏　名　印

縣郡市町村字番地
譲受人　氏　名

様式第七號

上簇届

化性	化期	名稱	蠶種製造者	蠶種製造場所	掃立蛾數	掃立蟻量	上簇月日	種繭選別豫定月日	製造場所

右及御届候也

年　月　日

熊本蠶病豫防事務所宛

縣郡市町村字番地
氏　名　印

様式第八號

收繭調書

化性名稱
原種製造者
原種製造場所
掃立蛾數

調査事項

掃立蟻量	收繭總桝量	蟻量一匁ニ對スル收繭桝量	種繭桝量	製絲用繭桝量	種繭一升ノ顆數	同功繭桝量	繭層片薄々皮不正繭桝量	原種製造豫算蛾數	製絲用種豫算枚數	製絲用種一枚ニ付産卵豫定蛾數	發蛾豫定月日

右之通相違無之候也

年 月 日

縣郡市町村字番地

氏 名 印

熊本縣蠶病豫防事務所宛

樣式第九號

種繭證明書書換(竝下付)請求書

化性	化期名稱	原種製造者	原種製造場所	種繭量	讓渡種繭量	上簇月日	製造場所

右授受致候間種繭證明書書換(竝下付)相成度種繭證明書相添此段及請求候也

年 月 日

縣郡市町村字番地

讓渡人 氏 名 印

(縣郡市町村番地

(縣何蠶病豫防事務所所轄)

(讓受人 氏 名 印)

熊本蠶病豫防事務所宛

樣式第十號

不越年原種用印(不越年製絲用種檢査合格證印)請求書

化性	化期名稱	種繭證明書番號	種繭桝量	臺紙ノ數		製絲用種一枚ニ産卵セシムヘキ蛾數	産卵豫定月日
				原種	製絲用種		月 日

右及請求候也

年　月　日

熊本縣蠶病豫防事務所宛

縣郡市町村字番地

氏　名　印

様式第十一號ノ一

不越年生絲用種出殼繭檢查請求書

化性	化期	名稱	種繭證明書番號	種繭掃量	出殼繭掃量	製造枚數	同上一枚ニ對スル產卵蛾數	製造場所

右及請求候也

年　月　日

熊本縣蠶病豫防事務所宛

縣郡市町村字番地

氏　名　印

注意

不越年蠶種製造ニ供用セサリシ臺紙アルトキハ其數ヲ附記スヘシ

様式第十一號ノ二

越年蠶種檢查請求書

化性	化期	名稱	種繭證明書番號	種繭掃量	製絲用種枚數	原種枚數	同上蛾數	產卵月日	製造場所

右及請求候也

年　月　日

熊本縣蠶病豫防事務所宛

縣郡市町村字番地

氏　名　印

様式第十二號ノ一

不越年原種檢查請求書

化性	化期	名稱	種繭證明書番號	種繭掃量	出殼繭掃量	原種枚數	原種蛾數	製造場所

右原種及母蛾相添及請求候也

年　月　日

熊本縣蠶病豫防事務所宛

縣郡市町村字番地

氏　名　印

樣式第十二號ノ二

越年原種母蛾檢查請求書

化性	化期	名稱	種繭證明書番號	原種枚數	原種蛾數	製造場所

右及請求候也

年　月　日

熊本縣蠶病豫防事務所宛

縣郡市町村字番地

氏　名　印

樣式第十三號

方六分
肉色朱

熊本縣蠶病豫防吏員氏名

樣式第十四號

用種變更請求書

化性	化期	名稱	種繭證明書番號	原種製造 枚數	蛾數	製絲用種ニ變更 枚數	蛾數	原種現在數 枚數	蛾數	製造場所

右及請求候也

年　月　日

熊本縣蠶病豫防事務所宛

縣郡市町村字番地

氏　名　印

樣式第十五號

生繭取扱屆

業種別	生繭取扱場所	同上取扱數量	驅除シタル蝦蛆並ニ蛹ノ頭數	取扱繭中死籠繭並蛹及繭數量

右及御屆候也

年　月　日

熊本縣蠶病豫防事務所宛

（備考）

本表ノ數量及頭數ハ七月末日迄ノ分ヲ記載スヘシ

樣式第十六號

自家用蠶種製造届

化性	化期	名稱	原種製造者氏名	蠶種製造額	框製	普通製

右及御届候也

年　月　日

縣郡市町村字番地

氏　名　印

知事宛

第五章　畜産

●牛馬保護規則（明治三十五年一月縣令第四號）

第一條　牛馬ヲ使役スルモノハ本則ニ依ルヘシ

第二條　牛馬ヲ使役スルニハ愛撫ヲ旨トシ妄リニ叱咤、鞭韃、蹴繋、戒具等ノ苛責ヲ加フヘカラス

第三條　滿一歳六ケ月以下ノ牛滿三歳以下ノ馬ハ使役スルヲ得ス

第四條　滿三歳未滿ノ馬四ヲ競馬ニ使用スルコトヲ得ス

第五條　一般ノ疾病ハ勿論左ニ揭クル如キ疾患アルモノハ使役スルヲ許サス

一　盲眼
二　跛行
三　衰弱
四　疲勞

第六條　偏眼又ハ運動機ニ妨ナキ腫瘍輕易ノ缺質其他輓具傷アルモノヲシテ使役ニ供セントスルモノハ獸醫ノ診斷書ヲ添ヘ所轄警察署ニ願出ヘシ特ニ其用途ヲ指定シ許可スルコトアルヘシ

第七條　學術研究ノ爲メニ施行スル牛馬ノ生體解剖又ハ外科手術ノ如キ牛馬ニ苦痛ヲ與フヘキ試驗ヲ爲サントスル時ハ豫メ知事ノ認可ヲ受クヘシ

但官廳又ハ官公立學校、病院等ハ此限ニ在ラス

第八條　飼育牛馬ハ時々獸醫ノ診斷ヲ受ケ其健否ニ注意シ疾病其ノ他異常アリト認メタルト

キハ直ニ診斷治療ヲ受クヘシ

第九條　健康牛馬ハ縛倒、刺絡、直接烙鐵等ナスヘカラス

第十條　幼馬ニ對シテ馬サシト稱シ其ノ他之ニ類スル不當ノ調教ヲ爲スヘカラス

第十一條　馬具、御具等ハ各牛馬ニ適恰シ苦痛ヲ感セサル樣裝置スヘシ

第十二條　牛馬使役中ハ時々適宜休憩セシムヘシ

第十三條　公衆縱覽若クハ娛樂等ノ爲牛馬ヲ鬪爭セシムヘカラス

第十四條　妊孕セル牛馬ハ劇役又ハ疾驅セシムヘカラス

第十五條　分娩後三十日ヲ經過セサル母牛馬ハ使役ニ供スヘカラス

第十六條　第六條第七條第九條ニ違背シタルモノハ一日以上三日以下ノ拘留ニ處シ又ハ十錢以上一圓以下ノ科料ニ處ス

第十七條　第三條第四條第五條第十條第十三條第十四條第十五條ニ違背シタルモノハ三日以上十日以下ノ拘留ニ處シ又ハ五十錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附　則

第十八條　本則ハ明治三十五年七月一日ヨリ施行ス

第十九條　明治三十四年七月縣令第三十四號ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

第二十條　本規則ノ外特ニ定メタル規則ハ各其ノ定ムル所ニ從フヘシ

●種牡馬取締規則（明治四十年四月縣令第一七號）

第一條　滿一ケ年以上效力ヲ有スル種牡馬ハ其有效期間每年最寄種牡馬檢查所ニ差出シ馬蹄ノ烙印及證明書ニ檢印ヲ受クヘシ

第二條　種牡馬ノ飼養地ヲ變更シタルトキハ十日以內ニ屆出ツヘシ

第三條　種牡馬證明書記載事項ニ異動ヲ生シタルトキハ種牡馬ノ所有者又ハ管理者ハ十日以內ニ證明書ヲ添ヘ屆出其更正ヲ受クヘシ

第四條　一馬政管區ヲ通スル有效種牡馬ノ所有權ヲ縣外ニ移轉シ若クハ縣外ヨリ移轉又ハ管理ノ委托ヲ受ケタル者ハ其種牡馬證明書寫ヲ添ヘ十日以內ニ屆出ツヘシ他縣人ノ所有ニ係ル一馬政管區ヲ通スル有效種牡馬ヲ以テ本縣內ニテ種付ヲ爲サントスルトキハ其種牡馬證明書寫ヲ添ヘ種付十日前屆出ツヘシ

第五條　證明書ハ貸借、賣買、讓與又ハ交換スルコトヲ得ス但種付ノ爲メ種牡馬貸與ノ際ハ之ヲ交付スルモ妨ケナシ

第六條　種牡馬ハ證明書記載ノ使用地區以外ノ牝馬ニ種付ヲ爲スコトヲ得ス

第七條　種牡馬ハ傳染病若クハ遺傳病アルモノ又ハ滿三歲以下ノ牝馬ニ種付ヲ爲スコトヲ得ス

第八條　種牡馬一頭ニ種付スヘキ牝馬ハ一期間六十頭以內トシ一日ノ種付ハ二回ヲ超過スヘカラス

第九條　種牡馬ノ年齡狀態及土地ノ狀況ニヨリ特ニ必要ト認ムルトキハ前條制限ノ增減ヲ命スルコトアルヘシ

第十條　種牡馬所有者又ハ管理者ハ種付場ヲ設置スヘシ

種付場ハ閑靜ナル土地ヲ選ミ周圍ニ高サ六尺以上ノ板塀又ハ遮張若クハ土壘等ヲ築キ外部ヨリ見易カラサル設備ヲ爲スヘシ

第十一條　種牡馬種付簿ノ記載ハ種付ノ都度、產駒ノ成績ハ種付期最終ヨリ四百日以內ニ之

ヲ調査記入シ町村役場又ハ市役所ニ差出スヘシ

郡市役所ニ於テハ前項期日ヨリ十日以内ニ取纏メ送付スヘシ

第十二條　種牡馬ニ關スル願届等ハ町村役場、郡市役所ヲ經由スヘシ

第十三條　產駒ノ血統證ハ別記書式ニ依ルヘシ

第十四條　本令第二條乃至第八條第十條及第十一條第一項ニ背キタル者ハ科料ニ處ス

別記

（用紙厚洋紙ニシテ竪六寸横八寸五分）

第何號　　血統證

仔馬　性何々　號名何々　毛色何々
　　生年月明治何年何月何日　特徴何々

父　種類何々　號名何々　毛色何々
　　體尺何尺何寸何分　特徴何々　生年月何々

母　種類何々　號名何々　毛色何々
　　體尺何々　特徴何々　生年月何々

右證明ス

明治年月日

熊本縣何郡（市）何村（町）
所有者　何ノ某

住所
氏名印（又ハ何々組合印）

●種牡牛檢查法施行細則（明治四十年十二月縣令第三三號）

第一條　種牡牛檢查ノ期日及場所ハ豫メ之ヲ告示ス

第二條　種牡牛ノ檢查ヲ受ケントスルモノハ毎年二月末日限リ第一號式ニ依リ町村役場及郡市役所ヲ經テ當廳ニ出願スヘシ

產牛馬組合法ニ依リ組織シタル組合有又ハ町村有ノモノハ其ノ所在郡市役所ヲ經由シ郡市有又ハ郡市以上ノ區域ニ依リ組織シタル團體有ノモノハ直ニ當廳ニ出願スヘシ

第三條　郡市長ハ第二號書式ノ出願名簿ヲ檢查所別ニ調製シ三月二十日限リ進達スヘシ

第四條　第二條檢查出願期日後新ニ取得シ檢查ヲ受ケントスルモノハ其ノ事由ヲ詳記シ町村長若クハ郡市長ノ證明書ヲ添ヘ特ニ願出ツルコトヲ得

第三條　前項ノ出願若ハ當廳ニ於テ指示スル期日及場所ニ率付檢查ヲ受クヘシ

第五條　檢查ヲ受ケントスルモノニシテ檢查當日疾病其ノ他ヲ事故ニ依リ出場シ難キトキハ其ノ旨届出ツヘシ

第五條ノ二　檢查合格ニ要スル資格左ノ如シ

一　年齡十八箇月以上ナルコト

一　高サ四尺以上ナルコト

一　體格强健ニシテ性質善良ナルコト

一　惡質ノ疾病又ハ惡癖ナキコト

第六條　檢查ニ合格シタル種牡牛ノ烙印ハ左ノ如シ

（一）直徑三分

第六條ノ二　種牡牛所有者若クハ管理者ニ於テ種付料ヲ徵收セントスルトキハ豫メ其ノ料金ヲ定メ知事ノ認可ヲ受クヘシ

第七條　種牡牛ハ傳染病若クハ遺傳病アルモノ又ハ滿二歲未滿ノ牝牛ニ種付スルコトヲ得ス

第八條　種付所ハ土石木材又ハ莚等ヲ以テ周圍ノ高サ六尺以上トシ外部ヨリ人目ニ觸レサル裝置ヲ爲スヘシ

第九條　種付所ニハ左ノ木製標札ヲ掲クヘシ

二尺五寸

七寸

證明書番號

○種牛種付所　種牡牛　號名　種類　年齡　高サ　毛色　特徵

縣郡(市)村(町)番地

所有者(又ハ管理者)　何ノ某

第九條ノ二　種牡牛所有者又ハ管理者ハ第三號書式ニ依リ種付表ヲ調製シ仔牛ノ成績ハ種付最終期日ヨリ三百五十日以内ニ其他ノ事項ハ種付ノ都度調査記入シ町村ニ在リテハ町村役場ヲ經テ郡役所ニ市ニ在リテハ市役所ニ差出スヘシ

郡市役所ニ於テハ前項ノ屆出ヲ受ケタルトキハ直ニ當廳ニ送付スヘシ

第十條　種牡牛ハ滿二歲未滿ノ牝牛ト同牧スルコトヲ得ス

第十一條　檢査ヲ受ケ合格シタル牡牛ニアラサレハ明ケ二歲以上ノ牝牛ト同牧スルコトヲ得ス但シ去勢シタルモノハ此限ニ在ラス

第十二條　第六條ノ二乃至第九條及第十條第十一條ニ違背シタルモノハ科料若クハ拘留ニ處ス

第一號樣式

種牡牛檢査願

牛名　生年月

種類　高サ

毛色　特徵

產地

血統　父牛名　種類　毛色　產地　母牛名　種類　毛色　產地

飼養地

右種用ニ供シ度候間御檢査相願候也

年月日　住所　氏名　印

知事宛

備考　團體有ノモノハ何々組長何々團體長氏名トスヘシ

第二號樣式

牡牛檢査出願名簿　何々郡(市)

牛名	種類	生年月	毛色	高サ	產地	特徵	血統	證明書番號	摘要	所有者 住所	所有者 氏名

							父	
							母	

備考
一　名簿ハ町村別ニ調製シ檢査所毎ニ編製スルコト
二　證明書番號及摘要欄ニハ記入ヲ要セス

第三號樣式　用紙美濃紙

種牡牛種付表

一種牡牛（名號）

自明治何年何月
至明治何年何月
所有者又ハ管理者
住所　氏名

種類	種類	生年月	毛色	高サ	特徴	種付月日 第一回	種付月日 第二回	、、

高サ	産地							
受胎ノ有無	仔牛 性	生年月日	所有者又ハ管理者 住所	氏名				

第六章　漁業

●漁業取締規則（明治三十五年十一月縣令第六六號）

第一條　左ニ掲クル漁業ヲ爲サントスル者ハ第一號書式ニ依リ知事ニ出願スヘシ

一　鮟鱇網（荒目鮟鱇網涙子鮟鱇網）
二　大網　舒鱇卷網）
三　マカセ網（鰮卷網）
四　手操網

五　鰮流レ網（鰹打瀬網石鰮打瀬網鰊鰮太布打瀬網）
六　雜魚流レ網（雜魚打瀬網）
七　鰮流網
八　鮮流網
九　鮪流網
十　鰺流網
十一　カシ網（イセ鰮、鯆、牛舌魚鰈底刺網）
十二　鯆刺網
十三　干倒網一名江切網（一定ノ水面ニ建設セサル建干網）
十四　船打投網
十五　追掛ケ網（鮎追掛ケ網）
十六　鰆流網
十七　八田網　一定ノ網場ヲ有セサル鰛八田網ヲ含ム
十八　揚繰網
十九　ゲンシ　流網
二十　一定ノ揚場ヲ有セサル地曳網
二十一　鰛刺網
二十二　瀨張網
二十三　繩場漁業
二十四　笠漁業

以上漁業ヲ許可シタルトキハ第一號ノ鑑札ヲ下附ス

第二條　免許又ハ許可以外ノ漁業ヲ爲サムトスル者ハ第二號書式ニ依リ住所地ノ郡市長ニ届出テ第二號ノ鑑札ヲ受クヘシ但本縣内ニ住所ヲ有セサル者ハ知事又ハ知事ノ指定シタル郡市長ニ届出ツヘシ

第三條　漁業鑑札ハ其漁業ニ付業主ノ名ヲ記シタルモノ一枚ヲ下附ス

第四條　漁業鑑札ハ出漁ノ際必ス携帶スヘシ

第五條　漁業鑑札ハ記名者ノ外使用スルコトヲ得ス

漁業鑑札ヲ受ケタル者雇人ヲシテ其漁業ニ從事セシメントスルトキハ第六號書式ニ依リ住所地ノ郡市長ニ申請シ從業者鑑札ヲ受ケ出漁ノ際携帶セシムヘシ

前項ノ漁業者本縣内ニ住所ヲ有セサルトキハ第二條但書ヲ準用ス

第六條　鑑札ヲ亡失又ハ毀損シタルトキハ第三號書式ニ依リ再下付ヲ申請スヘシ

第七條　漁業鑑札ヲ受ケタル者死亡又ハ廢業シタルトキハ三十日以内ニ第一條ニ依リ許可ヲ受ケタル漁業ハ知事ニ其他ハ郡市長ニ届出テ鑑札ハ郡市役所ニ返納スヘシ

但死亡ノ場合ハ其戸主又ハ遺族ヨリ本文ノ手續ヲ爲スヘシ

第八條　第一條ノ漁業許可ノ期間ハ十ケ年以内トス

第九條　水產動植物ノ蕃殖保護其他公益上必要アリト認ムルトキハ何時タリトモ許可シタル漁業ヲ制限又ハ停止シ若クハ取消ヲ命スルコトアルヘシ

本則其他漁業ニ關スル法令ニ違背シタルトキ亦前項ニ同シ

第十條　遡河魚類ノ通路ヲ遮斷シテ漁業ヲ爲ストキハ河川ノ流幅五分ノ一以上ノ魚道ヲ開通スヘシ

第十一條　左ニ揭クル河川及湖面ノ區域內ニ於テ一切ノ水產動物ヲ採捕スルコトヲ禁ス其區域ハ標榜ヲ以テ表示ス

一　球磨川
球磨郡藍田村大字七地字軍瀨ヨリ下流同郡人吉町舊谷口渡船場マテ凡六百五十間

二　川邊川
球磨郡川村大字川邊字西鶴下黑石間ヨリ下流字永江渡船場マテ凡四百間

三　前川
八代郡太田鄉村大字萩原字川原瓢箪淵水源ヨリ下流八代町住吉回表島掛田舍江口マテ凡千間

四　綠川
上益城郡宮內村大字西原字淀淵凡百貳拾間

五　御船川
上益城郡瀧川村大字邊田見字五郎釜ヨリ下流字磧所迄凡三百間

六　菊池川
甲　菊池郡迫間村字迫間瀧ヨリ上流三十間下流三十間
乙　菊池郡戶崎村大字今字鵜ノ木ヨリ同村菊池磧所迄凡七百間
丙　菊池郡加茂川村淸瀧淵ヨリ下流同村用水磧迄凡二百五十間
丁　鹿本郡大道村大字方保田橋ヨリ下流寺淵迄凡六百間
戊　鹿本郡川邊村大字保多田字鍋田川吐合ヨリ同字藥師堂新川迄凡七百間

七　畫圖湖

飽託郡出水村畫圖湖二ツ石ヨリ畫圖村江津橋迄凡六百間
但釣漁ニシテ馬尾一筋ヲ用フル者ハ此限ニ在ラス

第十一條ノ二　左ニ揭クル海面ノ區域內ニ於テをしき介(一名眞珠介)ヲ採捕スルコトヲ禁ス

一　崎津灣
天草郡富津村大字崎津字香所鼻ヨリ同大字コヽ瀨見通シ線以東灣內全部ノ海面

第十一條ノ三　左ニ揭クル區域內ニ於テ手繰網(手繰網ヲ含ム)ヲ使用スルコトヲ禁ス

一　八代郡鏡町、文政村、千丁村地先明治四十一年三月十六日免許第五三六號ノ專用漁業場區域全部

二　八代郡和鹿島村地先明治四十一年三月十六日免許第五三四號ノ專用漁業場區域全部

前項規定ノ區域ハ明治四十三年六月末日現在ノ免許區域ニ依ルモノトス

第十二條　前條ノ河川ニ遺棄スル物質ニシテ水產動植物ニ有害ナリト認ムルトキ知事ハ除害設備ヲ命スルコトアルヘシ

前項ノ命令ヲ受ケタル者ハ其指定期間內ニ除害ノ設備ヲ爲スヘシ

第十三條　左ニ揭クル水產動植物ヲ採捕シ又ハ販賣スルコトヲ禁ス

一　殼長三寸以下ノ鮑

第十四條　左ニ揭タル水產動植物ヲ定ムル期間ニ於テ採捕スルコトヲ禁ス

一　鮎　二月一日ヨリ五月三十一日迄
二　鮑　十一月一日ヨリ十二月三十一日迄
三　姥貝　四月十五日ヨリ五月三十一日迄
四　淺蜊(小柚介)　四月十五日ヨリ五月三十一日迄

五　蛤　四月十五日ヨリ五月三十一日迄
六　蟶　十月一日ヨリ十二月十五日迄
七　ホンダワヲ類アジ藻類　三月一日ヨリ七月三十一日迄

第十五條　左ニ掲クル漁具又ハ漁法ヲ以テ水産動物ヲ採捕スルコトヲ禁ス
但本則施行前ヨリ第一號第二號ノ漁業ヲ爲シタルモノニハ毎年七月一日ヨリ翌年二月末日迄ノ期間漁業法施行規則第五十六條ニ依リ特ニ許可スルコトアルヘシ
一　藻手繰網
二　藻曳網
三　地獄網
四　各河川ニ於テ漁具ヲ用フル潜水捕魚竝徑及長三尺以上ノ笊漬
五　鵜遣

第十六條　左ニ掲クル漁具ハ其下ニ定ムル制限以下ノモノヲ使用スヘカラス
一　鮟鱇網　五寸ニ付十四節目
鰕及鱇鰕漁業ニ使用スル涙子鮟鱇網ハ此限ニ在ラス
二　手操網　五寸ニ付十四節目
三　建干網　五寸ニ付十四節目
四　干倒網一名江切網五寸ニ付十四節目
五　鰕流レ網　五寸ニ付十四節目
石鰕及糠鰕漁業ニ使用スル流レ網（石鰕打瀬網鱇鰕太布打瀬網）ハ此限ニ在ラス
六　採介用笊及其他ノ掬具　八分目
七　採介用繩網　五寸ニ付七節目
八　藻手繰網藻曳網　五寸ニ付十四節目

第十七條　左ニ掲クル漁具ヲ使用スル漁業ハ其下ニ定ムル網數船數ヲ以テ定限トス
一　鮟鱇網　八百張
二　鰕流レ網（雜魚流ヲ含ム）漁船九百艘

第十八條　養殖學研究其他特別ノ理由ニ因リ漁業法第十三條ニ基キ制限禁止シタル水産動植物若ハ同條ニ基キ制限禁止シタル漁具漁法ヲ以テ水産動植物ヲ採捕セントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シ知事ノ許可ヲ受クヘシ
一　採捕ノ目的
二　採捕スヘキ水産動植物ノ種類
三　採捕ノ場所
四　採捕ノ期間
五　採捕ノ方法（制限禁止シタル漁具漁法ヲ以テスルトキハ其漁具漁法）

第十九條　官署又ハ公署ニ於テ調査又ハ試驗ノ爲メ必要アルトキハ知事ハ漁業法第三條第四條ニ依リ免許ヲ得タル漁業ノ漁場區域内ニ於テ水産動植物ヲ養殖又ハ採捕セシムルコトアルヘシ
前項ノ場合ニ於テ漁業權者ハ之ヲ拒ムコトヲ得ス

第二十條　營利ノ目的ニ非サル者ハ左ニ掲クル各號ノ外他ノ方法ニヨリ水産動植物ヲ採捕スルコトヲ得ス
一　海面ニ於テ船ヲ用ヒサル釣

二　河川ニ於ケル釣漁、纚網漁、鉾突、桶漬、笊漬、笊掬但シ鮎掛ケ待纚竝徑及長三尺以上ノ笊漬ヲ除ク
三　叉手網
四　魚介藻類ノ徒手採捕
五　肥料藻採取

第二十一條　遊漁者ニシテ前條ニ規定スル以外ノ方法ニ依リ水産動植物ヲ採捕セントスル者ハ第五號書式ニ依リ漁獲物ノ種類採捕ノ方法及場所竝ニ其時期ヲ記載シ住所地ノ郡市長ニ出願スルトキハ一ケ年年以内ノ期間ニ於テ特ニ許可スルコトアルヘシ

第二十二條　漁場ノ標識ヲ建設セントスル者ハ第四號書式ニ依リ郡市長ニ届出テ檢査ヲ受クヘシ

第二十三條　漁場ノ標識ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ
一　漁業權ノ種類
二　漁場ノ區域
三　漁業權者ノ住所氏名又ハ名稱
四　免許年月日及期間

第二十四條　漁業ニ關スル出願申請届等ノ書類ハ住所地ノ町村長郡市長ヲ經由スヘシ
但本縣ニ住所ヲ有セサルモノハ其住所地町村長ノ身元證明書ヲ添付シ直ニ知事ニ差出スヘシ

第二十五條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ十圓以下ノ罰金ニ處ス
一　第一條第一項ノ漁業ヲ出願セスシテ漁業ヲナシタルトキ
二　第十一條ノ三第十三條第十四條乃至第十六條及第二十條ノ規定ニ違背シタルトキ

第二十六條　左ノ各號ノ一ニ該當スル者ハ一圓九十五錢以下ノ科料又ハ五日以内ノ拘留ニ處ス
一　第二條ニ依リ鑑札ヲ受ケスシテ漁業ヲ爲シタルトキ
二　第六條ノ手續ヲ爲サスシテ漁業ニ從事シタルトキ
三　第四條第五條第七條ノ規定ニ違背シタルトキ

附　則

第二十七條　本則ハ明治三十五年十二月一日ヨリ施行ス

第二十八條　明治二十八年一月縣令第十二號漁事取締規則ハ本則施行ノ日ヨリ廢止ス

第二十九條　本則施行前ヨリ第一條ニ該當スル漁業ヲ爲ス者ハ本則施行ノ日ヨリ六ケ月以内ニ許可ヲ出願スヘシ此場合ニ於テハ許可ノ指令アル迄ノ間從前ノ例ニヨリ漁業ヲ爲スコトヲ得

第三十條　本則施行前ヨリ第二條ノ漁業ヲ爲ス者ハ本則施行ノ日ヨリ六ケ月以内ニ届出テ鑑札ヲ受クヘシ此場合ニ於テハ鑑札ノ下附ヲ受クル迄從前ノ例ニヨリ漁業ヲ爲スコトヲ得

第三十一條　本則施行前ヨリ第十六條ニ掲ケタル制限以下ノ漁網ヲ使用スル者ハ本則施行ノ日ヨリ一ケ年間尚從前ノ例ニ依リ使用スルコトヲ得

書式

（第一號）

漁業許可願　（漁業ノ種類毎ニ願書一通ヲ要ス）

一漁業ノ場所名(何々海又ハ何々灣若クハ何郡何村何々地先何ヨリ何々ノ間トスルカ如シ)
一漁具ノ名稱
一漁獲物ノ種類
一漁業ノ時期(何月何日ヨリ何日マテ)
一許可期間
右漁業致度候間御許可ノ上鑑札御下付相成度此段相願候也

年　月　日

住所
氏名　印
年月日生

知事宛

(第二號)

漁業届

一漁業ノ種類、漁具ノ名稱(數種類ノ漁業ヲナス者ハ一種類宛順次列記スルモ妨ナシ)
一漁獲物ノ種類(免許及許可漁業ニアラサル河川漁業ニシテ漁具ヲ常設スル等場所ヲ要スルモノハ漁業時期ノ次ヘ漁業場所ヲ記載シ仍ホ圖面ヲ添付スヘシ)
一漁業時期
右漁業致度候間漁業鑑札御下附相成度此段及御届候也

年　月　日

住所
氏名　印
生年月日

郡市長宛

(第三號)

漁業鑑札再渡申請

明治何年何月何日何號
一漁業許可鑑札
明治何年何月何日第何號
一何々漁業鑑札
右ノ鑑札亡失(毀損)致候ニ付再渡相成度(舊鑑札相添)此段申請候也

年　月　日

住所
氏名　印

知事(郡市長)宛

(第四號)

漁場標識建設届

一漁業ノ種類
一建設ノ位置
右建設致度候間御檢査相成度此段及御届候也

年　月　日

住所
氏名　印

郡市長宛

(第五號)

遊漁願

一漁具ノ名稱又ハ採捕ノ方法
一漁獲物ノ種類名稱
一採捕スヘキ場所
一採捕ノ時期
右遊漁致度候間特ニ御許可相成度此段相願候也

年　月　日

郡市長宛

（第六號）

住所
氏名　印

從業者鑑札申請書

何年何月許可鑑札第何號
一何々漁業

何年何月日漁業屆出鑑札第何號
一何々漁業

右漁業雇人ヲシテ從事セシメ度從業者鑑札御下付相成度此段申請候也

年　月　日

住所雇主
氏名　印

住所雇人
何某
生年月日

住所同上
何某
生年月日

郡市長宛

漁業鑑札雛形

（第一號）　竪三寸　横二寸

表

許可第何號
漁業許可鑑札
何々漁業
住所
氏名
生年月日

裏面

明治何年何月日
熊本縣印

（第二號）　竪三寸　横二寸五分

表

第何號
何々漁業鑑札
住所
氏名
生年月日

裏面

年　月　日
何郡市役所印

（第三號）（楕圓形）

木製

表面

第何號
遊漁鑑札
何漁　住所
何某
生年月日

竪三寸　横二寸

裏面

年月日
何郡市役所印

（第四號）

木製

表面

第何號
漁業主　住所　何某
何々漁業　從業者鑑札
住所　何某
生年月日

竪三寸　横二寸五分

裏面

年月日
何郡市役所印

●漁業法施行規則第五十六條ニ該當スル漁業名稱

（明治三十五年十一月告示第五一一號）

明治三十五年五月農商務省令第七號漁業法施行規則第五十六條ニ該當スル漁業ノ名稱左ノ如シ

一　藻手繰網漁業（漁業取締規則第十五條ヲ以テ禁止）
二　藻打瀬網漁業　藻流シ網
三　藻曳網漁業（第一號ニ同シ）
四　潛水器漁業　潛水器械鮑漁同海鼠漁
五　空釣繩漁業　續空釣繩

第七章　度量衡

●度量衡取締規則

（明治四十三年四月縣令第一七號）

第一條　本則ニ於テ營業者ト稱スルハ免許ヲ受ケタル度量衡器ノ製造者、修覆者及販賣者ヲ謂ヒ使用者ト稱スルハ度量衡器ヲ取引上若ハ證明上ニ使用ニ供スル爲所持スル者ヲ謂フ

第二條　度量衡器ノ第一種取締ハ度量衡器ノ檢定ニ從事スル官吏ヲシテ之ヲ行ハシメ第二種取締ハ度量衡器ノ檢定ニ從事スル官吏、警察官吏及市町村長ヲシテ之ヲ行ハシム

第三條　左ノ各號ノ一ニ該當スル度量衡器ハ第一種取締ニ於ケル指定ノ場所ニ提出スルコトヲ要セス

一　土地建物等ニ取付ケラレタル度量衡器
二　玻璃製度器
三　玻璃、陶器及磁器製ノ量器
四　秤量ニ於テ其ノ一萬分ノ一以下ノ重量ヲ感スル天秤

第四條　當該吏員第二取締ヲ行フニ當リ左ノ各號ノ一ニ該當スル度量衡器ヲ發見シタルトキハ相當ノ期間ヲ定メテ檢定ヲ受ケシメ又ハ修覆若ハ補充ヲ命スルコトヲ得

一　差狂ノ疑アル度量衡器
二　增錘ヲ有スル秤ニシテ其ノ增錘ノ備ハラサルモノ
三　組分銅ニシテ其ノ組ノ備ハラサルモノ

第五條　使用者ハ左ノ各號ノ一ニ該當スル度量衡器ヲ店舗、工場其ノ他取引所若ハ證明ヲ爲ス場所又ハ計量スヘキ物件ト同一ノ場所ニ置キ若ハ行商ノ際携帶スルコトヲ得ス

一　檢定證印ナキモノ
二　修覆ヲ爲シタル後其ノ檢定ヲ受ケス又ハ檢定ニ合格セサルモノ
三　變造シタルモノ
四　度量衡法施行令第十六條ニ規定スル公差以上ノ差異ヲ生シタルモノ
五　其ノ構造カ度量衡法施行細則第四十九條各號ノ一ニ該當スルニ至リタルモノ
六　外物ノ著シク附著シタルモノ
七　桿ト分離シ得ヘキ錘、增錘、增錘臺又ハ皿ニ附シタル表記ト桿ニ附シタル表記ト異ルモノ
八　度量衡器ニ紛ハシキモノ

第六條　當該吏員第二種取締ニ於テ必要アリト認ムルトキハ使用者ニ最寄ノ官公署若ハ適宜ノ場所ヲ指定シテ其ノ度量衡器ノ提出ヲ命スルコトヲ得

第七條　營業者ハ其營業ノ種類ヲ記載シタル標札ヲ營業所ノ戸外ニ掲ケヘシ其ノ雛形左ノ如シ

何器製作（修覆）（販賣）所

氏

名

長三尺以上幅一尺以上厚及用材適宜

桿秤ノ取緒、皿紐、鉤紐、錘絲修覆所

氏

名

長三尺以上幅一尺以上厚及用材適宜

第八條　營業者ハ度量衡法施行令第九條以外ノ度量衡器ヲ修覆シタルトキハ檢定ヲ受ケ合格シタル後ニアラサレハ依賴者ニ還附スルコトヲ得ス但シ修覆不能ノ爲若ハ特別ノ事由ニ依リ還附スル場合ハ此限ニ在ラス

前項但書ノ場合ニ在リテハ還附ノ事由竝依賴者ノ住所、職業、氏名、器物ノ種類、物質、全長、容量、秤量、記號(年號、番號アルモノハ其年號、番號)還附ノ年月日及差狂ノ點ヲ記載シ五日以內ニ當廳ニ屆出ツヘシ

第九條　度量衡法施行細則第十八條第二項ニ依リ許可ヲ受ケントスル者ハ左ノ事項ヲ記載シタル願書ヲ差出スヘシ

一　製作若ハ修覆ヲ爲ス場合
二　度量衡器ノ種類、物質、全長、容量、秤量及個數
三　製作若ハ修覆セントスル期日
四　工場外ニ於テ製作若ハ修覆ヲ要スル事由

第十條　度量衡法施行細則第二十一條ノ屆書ニハ左ノ事項ヲ記載スヘシ

一　秤架其ノ他重ナル器具ノ種類及個數
二　分銅ノ種類及個數
三　營業開始ノ年月日

前項第一號又ハ第二號ニ變更ヲ生シタルトキ若ハ廢業シタルトキハ五日以內ニ當廳ニ屆出ツヘシ

第十一條　營業者桿秤ノ取緒皿紐、鉤紐、又ハ鎚絲ニシテ金屬ニ係ラサルモノノミノ修覆ノ依賴ヲ受ケタル場合ニ於テ左ノ各號ノ一ニ該當スルモノハ其ノ修覆ヲナスコトヲ得ス

一　檢定證印ナキモノ
二　變造シタルモノ
三　桿ト分離シ得ヘキ鎚ニ附シタル表記ト桿ニ附シタル表記ト異ルモノ

第八條第二項ノ規定ハ前項ノ場合ニ之ヲ準用ス

第十二條　度量衡器ヲ購買シ若ハ修覆ヲ依賴スル者ハ營業者ヨリ其ノ住所、職業及氏名ヲ問ハレタルトキハ虛僞ノ答ヲ爲スヘカラス

第十三條　營業者ハ營業所每ニ第一號樣式ニ依ル帳簿ヲ備ヘ置キ附込終了後三年間之ヲ保存スヘシ但シ廢業後ト雖モ該期間內ハ保存ノ責アルモノトス

前項期間ニ亡失毀損シタルトキハ十日以內ニ當廳ニ屆出ツヘシ

第十四條　營業者ハ前條ノ帳簿ニ記載ヲ爲スヘカラス

第十五條　營業者ハ前年四月一日ヨリ其ノ年三月三十一日ニ至ル營業ノ狀況ヲ營業所每ニ第二號樣式ニ依リ每年四月三十日迄ニ當廳ニ報告スヘシ

第十六條　營業者ニシテ廢業シ又ハ營業免許カ消滅シ若ハ度量衡法施行細則第十二條ニ該當スルニ至リタルトキハ免許狀返納ト同時ニ前條ニ準シ其ノ年度內ニ於ケル營業狀況ヲ當廳ニ報告スヘシ

第十七條　度量衡販賣ノ免許ヲ受ケタル者ニシテ或種類ノミニ限リ販賣ヲナサントスルモノハ之ヲ當廳ニ屆出ツヘシ其ノ之ヲ變更セントスルトキ亦同シ

第十八條　營業者二個所以上ノ營業所ヲ設ケタルトキハ十日以內ニ其ノ管理者ヲ定メ當廳ニ屆出ツヘシ

前項ノ管理者ニシテ不適任ト認ムル場合ハ之カ變更ヲ命スルコトアルヘシ

第十九條　第八條第二項、第十一條第二項及度量衡法施行細則第二十三條第二項ノ届書竝身元保證金ニ關スル願書ハ直接當廳ニ差出スヘシ

第二十條　第四條、第六條ノ命令ヲ受ケテ之ニ從ハサル者又ハ第五條、第八條第一項、第十一條第一項ニ違反シタル者ハ貳拾圓未滿ノ科料ニ處ス

第二十一條　第八條第二項、第十一條第二項又ハ第十二條乃至第十四條ニ違反シタル者ハ拾圓未滿ノ科料ニ處ス

第二十二條　第七條、第十條第二項、第十五條乃至第十七條又ハ第十八條第一項ニ違反シタル者ハ五圓未滿ノ料料ニ處ス

附　則

第二十三條　明治二十八年（十月）縣令第七十四號度量衡取締規則ハ之ヲ廢止ス

第一號樣式ノ一

度器製作（輸入、移入）臺帳

檢定月日	種類形狀物質	全長	目盛ノ段數	箇數		檢定成績		檢定手數料	原價	備考
						合格	不合格			
月計										

第一號樣式ノ二

量器製作（輸入、移入）臺帳

檢定月日	種類形狀物質	全量	目盛	用途	個數		檢定成績		檢定手數料	原價	備考
							合格	不合格			
月計											

第一號樣式ノ三

衡器製作（輸入、移入）臺帳

第一號樣式ノ四

度器修覆臺帳

檢定月日	種類形狀物質	番號	秤量	掛量	重量	目盛ノ段數又ハ感量ノ有無	錘附屬箇數	檢定成績 合格	檢定成績 不合格	檢定手數料	原價	備考
月計												

第一號樣式ノ五

量器修覆臺帳

檢定月日	種類形狀物質	全量	目盛	用途	地方名及記號番號	年號及箇數	檢定成績 合格	檢定成績 不合格	檢定手數料	修覆料	所有者住所及氏名	備考
月計												

第一號樣式ノ六

衡器修覆臺帳

第一號樣式ノ七

稈秤ノ取緒、皿紐、釣紐、錘絲ニシテ金屬ニ係ラサルモノノ修覆臺帳

檢定月日	種類形狀物質	秤量	掛量	重量	目盛ノ段數及感量ノ有無及記號	錘付屬地方名及番號	箇數	檢定成績 合格	檢定成績 不合格	檢定手數料	修覆料	所有者住所氏名	備考
月計													

修覆月日	種類	修覆箇數 物質秤量	器物數	取緒數	皿紐數	鉛紐數	錘絲數	修覆料	所有者住所氏名	備考
月計										

第一號樣式ノ八

度(量)(衡)器卸賣臺帳

卸賣月日	形狀	物質	種類	卸賣高 縣內箇數	同上代價	縣外箇數	同上代價	卸賣先住所氏名	備考
月計									

第一號樣式ノ九

度(量)(衡)器仕入臺帳

仕入月日	形狀	物質	種類	仕入高 縣內箇數	同上代價	縣外箇數	同上代價	仕入先住所氏名	備考
月計									

第一號樣式ノ十

度(量)(衡)器販賣臺帳

販賣月日	形狀	物質	種類	番號	箇數	代價	買入人住所氏名	備考
月計								

備考 同一人ニシテ同時ニ度器五個以上又ハ購入スル場合ヲ除クノ外度器、量器販賣ニハ買受人ノ住所氏名ヲ記入スルヲ要ス

第二號樣式ノ一

自明治 年四月
至同 年三月

度量衡器製作(輸入販賣)(販賣)營業報告

營業所

度量衡器製作(輸入販賣)(販賣)業 何 某

度器

種別		前年度越高 個數	前年度越高 代價	製作高 個數	製作高 代價	輸入高 個數	輸入高 代價	仕入高 縣內 個數	仕入高 縣內 代價	仕入高 縣外 個數	仕入高 縣外 代價	卸賣高 縣內 個數	卸賣高 縣內 代價	卸賣高 縣外 個數	卸賣高 縣外 代價	小賣商 個數	小賣商 代價	不正器物數	殘高 個數	殘高 代價
直尺	金屬																			
	其他																			
曲リ尺	金屬																			
	木																			

量器

種別	前年度越高		製作高		仕入高				仕入高				卸賣高				小賣高		不正器物	殘高		備考
	個數	代價	個數	代價	個數	代價	縣內 個數	縣內 代價	縣外 個數	縣外 代價	縣內 個數	縣內 代價	縣外 個數	縣外 代數	個賣	代價	數	個數	代價			
圓 金屬																						
計																						
疊尺 金屬																						
疊尺 其他																						
卷尺 金屬																						
卷尺 其他																						
鏈尺 金屬																						
鏈尺 其他																						
縮尺 金屬																						
縮尺 其他																						
計																						
備考																						

種別	前年度越高		製作高		仕入高				仕入高				卸賣高				小賣高		不正器物	殘高		備考
	個數	代價	個數	代價	個數	代價	縣內 個數	縣內 代價	縣外 個數	縣外 代價	縣內 個數	縣內 代價	縣外 個數	縣外 代數	個賣	代價	數	個數	代價			
計																						
斗概 圓狀																						
斗概 板狀																						
計																						
枡 壜形 木材																						
枡 壜形 其他																						
枡 圓壜形及圓筒形 玻璃																						
枡 方形 木材																						
計																						
化學用量器 メスフラスコ																						
化學用量器 ビベット																						
化學用量器 ビユレット																						
化學用量器 メスシリンドル																						
計																						

瓦斯「メートル」
水量「メートル」
計
備考

爾器

種別		前年度越高		製作高		輸入高		仕入高		卸賣高			小賣高		不正器物數	殘高	
		個數	代價	個數	代價	個數	代價	縣内個數	縣内代價	縣外個數	縣外代價	縣内個數	縣内代價	縣外個數	代價	個數	代價
秤	天秤及上皿天秤																
	臺秤及自働秤																
	上皿棹秤及十分秤																
	棹秤 金屬																
	棹秤 木																
	棹秤 其他																
計																	

分銅
定量錘 増錘
合計
備考

右之通リ候也

年　月　日

知事　宛

右　何　某印

備考　表中各自ノ營業ニ關係ナキモノハ其ノ欄ヲ省クヘシ
不正器物トハ自ラ任意破棄セルモノ及取締ノ際不合格若ハ不正ノ爲消印又ハ販賣ヲ禁止セラレタルモノヲ記入シ其事由ヲ備考ニ記載スヘシ
定量錘及定量増錘ハ秤ニ附屬セスシテ單獨ニ製作、仕入又ハ販賣シタルモノヽミヲ記入スヘシ
縣外仕入又ハ縣外卸賣ノ個數代價ハ之ヲ府縣別ニ取調ヘ備考ニ記載スヘシ

第二號樣式ノ二

自明治　年四月
至同　年三月　度量衡器修覆營業報告

營業所　何　某

度量衡器製作（修覆）業

度器

種別	個數	修覆料
直尺 金屬		
直尺 其他		
曲リ尺 金屬		
曲リ尺 木		
疊尺 金屬		
疊尺 其他		
卷尺 金屬		
卷尺 其他		
鏈尺 金屬		
鏈尺 其他		
縮尺 金屬		
縮尺 其他		
計		

種別	個數	修覆料
桝 圓壔形 金屬		
桝 圓壔形 木		
桝 圓壔形 其他		
桝 圓壔形及圓錐形 玻璃		
桝 方形 木		
計		
斗概 圓壔狀		
斗概 板狀		
計		
化學用量器 メスフラスコ		
化學用量器 ピペット		
化學用量器 ビユレット		
化學用量器 メスシリンドル		

計			
瓦斯「メートル」			
水量「メートル」			
合計			

衡器

種別	箇數	修覆料
秤		
天秤及上皿天臺		
臺秤及自働秤		
上皿稈秤及十分秤		
稈秤		
金屬		
木		
其他		
計		
分銅		
定量 錘 增錘		

合計	

右之通リニ候也

年　月　日　　右　何　某印

知事宛

備考　定量錘及定量增錘ハ秤ニ附屬セスシテ單獨ニ修覆シタルモノノミヲ記入スヘシ

第二號樣式ノ三

自明治　年四月　桿秤ノ取緒、皿紐、鉤紐、錘絲ニシテ
至同　年三月　金屬ニ係ラサルモノノ修覆營業報告

營業所

度量衡器製作（修覆（販賣）業

何　某

種別	箇數				修覆料
	桿秤數	取緒數	皿紐數	鉤紐數	紐絲數	
木製稈秤						
其他						
計						

右之通リニ候也

年　月　日

知事宛

右　何　某　印

●度量衡取締規則施行規程（明治四十三年四月訓令甲第二〇號）

第一條　市町村長ハ度量衡法施行細則第四十八條ニ依ル第一種取締ノ告示アリタルトキハ左ノ各號ニ依リ其ノ執行ノ補助ヲ爲スヘシ

一　檢査ノ五日以前迄ニ各使用者ニ付實地檢査ヲ爲シ第一號式ニ依ル調査書ノ相當欄ニ記入ヲ爲シ其ノ甲號ハ調査當日檢査場ニ提出シ其ノ乙號ハ豫メ普ク使用者ニ配布シ遺漏ナク檢査ヲ受ケシムヘシ

二　檢査期日二日以上ニ亘ルトキハ使用者ヲ區分シ各日割ヲ定メテ之ヲ通知スヘシ

三　檢査當日ハ主任書記ヲシテ檢査場ニ出頭セシメ其ノ事務ヲ補助シ檢査執行上支障ナカラシムヘシ

第二條　第一種取締ニ於テ度量衡器ノ提出ヲ怠リタル者アルトキハ市町村長ハ告發ノ手續ヲ爲スヘシ但シ特別ノ事情アルモノハ日時ヲ期シ其ノ度量衡器ヲ最寄ノ檢査場若ハ度量衡器檢定所ニ提出セシムルコトヲ得

前項提出ニハ第二號樣式ニ依ル命令書ヲ發シ度量衡器ト共ニ差出サシムヘシ

第三條　市町村長ハ度量衡器ノ營業者又ハ其ノ法定代理人ニシテ左ノ各號ノ一ニ該當スル者ヲ生シタルトキハ直ニ當廳ニ報告スヘシ

一　禁錮以上ノ刑ニ處セラレタルトキ

二　破産又ハ家資分散ノ宣告ヲ受ケ其ノ決定確定ニ至リタルトキ

第四條　警察署長又ハ警察分署長ハ毎年一回以上市町村長ハ隨時度量衡器ノ使用者ニ付取締ヲ行フヘシ

前項取締ノ成績ハ第三號樣式ニ依リ前年度分ヲ毎年四月三十日迄ニ當廳ニ報告スヘシ但營業ニ付取締ヲ行ヒタルトキ亦同シ

第五條　警察官吏又ハ市町村長ハ第二種取締ニ關シ出張當該官吏ノ請求アリタルトキハ其ノ補助ヲ爲スヘシ

第六條　警察署長又ハ警察分署長ハ第一種取締執行中部下ノ警察官吏ヲシテ其ノ場所ニ立會ハシムヘシ

附則

第七條　明治二十八年（十月）訓令甲第百十三號度量衡取締規則施行規程ハ之ヲ廢止ス

第一號樣式

○〔實地調査ノ際甲號乙號トモ大字名、職業、氏名、種類、調査數欄ヲ記入シ乙號（月日）檢査場ヲモ記シ）ハ器物所有者ヘ渡シ甲號ハ役場員檢査場ヘ持參スルモノトス〕

（甲）

大字名		職業		氏名	
種別	調査數	受檢數		受檢漏數	不合格ノ内
直尺		合格	不合格	計	修要ヲ要スル分 / 廢棄ヲ要スル分 / 不合格事由

度量衡器使用者調査第　號

度器						量器						衡器							合計	備考
曲リ尺	疊尺	卷尺	鯨尺	縮尺	計	金屬及琺瑯塗	木材 圓壔形	木材 方形	斗概 圓狀	斗概 板狀	計	天秤及上皿天秤	臺秤及自働秤	上皿桿秤及十分秤	桿秤	分銅	定量錘及定量增錘	計		本欄ニハ検査漏器物處分ノ要領ヲ記載スヘシ

一本書ハ其ノ成績ヲ記入シタル後次回第一種取締期日迄市町村役場ヘ保存シ取締ノ便ニ供スルモノトス

（乙）

大字名		職業		氏名				
種別	調査數	受檢數			受檢漏數	不合格ノ內		不合格事由
		合格	不合格	計		修覆ヲ要スル分	廢棄ヲ要スル分	
直尺								

主任書記		市町村長		警察官		檢定官	

度量衡器使用者調査書　第　號

度器						量器						衡器					
曲リ尺	疊尺	卷尺	鍵尺	縮尺	計	金屬及琺瑯塗	木材 圓形	木材 方形	斗概 圓壔狀	斗概 板狀	計	天皿及上皿天秤	臺秤及自働秤	上皿桿秤及十分秤	桿秤	分銅	定量錘及定量增錘	計	合計	備考

注意　本書ハ器物ト共ニ來　月　日午前後時　檢査場　ニ提出スヘシ
若シ期日ニ提出ヲ怠リタルトキハ相當處分セラルヘシ

受付第　號

第二號樣式

注意　本命令ノ檢査ニ差出ササルトキハ相當處分セラルヘシ

一　度量衡器提出命令書

右檢査ヲ要スルニ付明治　年　月　日迄ニ差出サルヘシ

明治　年　月　日

殿

市町村長氏名印

度量衡器提出諒知書

命令年月日	命令者印	被命令者住所氏名印
明治　年　月　日	命令	

一　命令右檢査ノ爲明治　年　月　日迄ニ差出ノ件

第二號樣式

度量衡器第二種取締成績報告

明治　年度量衡器第二種取締成績報告

市町村名	取締ヲ執行シタル月數	檢閲シタル器物	度量器數	衡器計	不正器物數	告發件數	犯則者數	犯則ニ係ル物數	犯則者區分	法律違犯	施行細則違犯	縣令違犯	計

右及報告候也

年　月　日

知事宛

官職　氏　㊞

注意

一　同一市町村ニ於ケル同一人ニ付二回以上取締ヲ執行シタル場合ニ在リテハ取締ヲ執行シタル戸數ハ之ヲ一戸トシテ計算シ檢閲シタル度量衡器ノ數ハ其ノ平均數ヲ掲クヘシ

二　營業者取締ノ成績ハ本表ニ準シ別表ト爲スヘシ

第九編　森林及原野

第九編　森林及原野

第一章　森林及原野

●森林法施行細則

（明治四十一年六月縣令第二八號）

第一條　森林法施行規則第二條ニ依リ公共團體又ハ社寺ノ代表者ニ於テ認可ヲ受クヘキ管理區文書ハ本則施行ノ日ヨリ六ケ月以内ニ差出スヘシ但明治三十九年（八月）縣令第八號公有林整理規定ニ依リ公有林調書ヲ差出シタル者ハ本文ノ手續ヲ了シタルモノト看做ス

第二條　保安林ハ一個所（編入ノ一筆ヲ一個所トス）毎ニ施業ヲ爲スヘシ但保安林ノ目的ヲ害セサル限リハ知事ノ認可ヲ受ケ二個所以上ノ併合施業ヲ爲スコトヲ得

第三條　保安林ノ伐採ハ擇伐法ニ依リ點狀群狀若ハ列狀中適宜ノ方法ヲ取ルヘシ但其保安林ノ目的ヲ害セサル程度ニ於テ林種ノ改良其他必要ナル目的ノ爲メ伐採ヲ行フ場合ハ皆伐ヲ爲スコトヲ得

第四條　保安林一個年間ノ伐採面積ハ輪伐齡ヲ以テ立木地全面積ヲ除シタル商ヲ超ユルコトヲ得ス但施業上ノ便宜ニ依リ喬林ニアリテハ十個年矮林ニアリテハ五個年以内ノ隔年作業ヲ行フコトヲ得

第五條　保安林ノ輪伐齡ハ左ノ標準ニ依ルヘシ

喬林	三十年以上
矮林	十年以上

中林　上木ハ三十年以上下木ハ十年以上

竹林　三年以上

第六條　森林法第二十六條ニ依リ保安林内木竹ノ伐採、傷害又ハ土石、切芝、樹根、草根、埋木ノ採取若ハ採掘ヲ爲シ又ハ放牧ヲ爲サントスル者ハ第一號乃至第六號樣式ニ依リ著手二十日前ニ願出ヘシ

前項ノ切芝ハ幅壹尺五寸以内トシテ帶狀ニ採取シ其間二尺以上ノ間隔ヲ保タシメ又家畜ノ放牧ヲ爲ス者ハ區域外ニ逸出セサルノ設備ヲ爲スヘシ

第七條　森林法第二十六條ニ依リ保安林内ノ開墾ヲ爲サントスル者ハ其開墾ニ依リ森林タルノ實質ヲ失ハサルモノニ限リ第七號及第八號樣式ニ依リ願出ヘシ

第八條　左ノ場合ニ於テハ第六條及第七條ニ準シテ願出許可ヲ受クヘシ

一　木竹ノ伐採ヲ禁止セラレタル保安林及森林法第十條ニ依リ指定ヲ受ケタル森林ニ於テ保育ノ爲メ伐木竹、枯木竹、危險木若ハ支障木竹ノ伐採ヲ爲サントスルトキ

二　森林法第二十條ニ依リ木竹ノ伐採、開墾又ハ土石、切芝、樹根、草根、埋木採取若ハ採掘ヲ禁セラレタル森林ニ於テ伐採若ハ採取採掘ヲ爲サントスルトキ

三　森林法第二十五條ニ依リ木竹ノ伐採ヲ停止セラレタル森林ニ於テ保育ノ爲メ必要ナル伐採ヲ爲サントスルトキ

カ又ハ已ムコトヲ得サル事由アリテ木竹ノ伐採ヲ爲サントスルトキ

第九條　保安林ノ作業期間ハ一個年超過スヘカラス但繼續出願ノ場合ハ此限ニアラス

第十條　第六條乃至第八條ニ依リ許可ヲ受ケタル作業ヲ了リタルトキ若ハ保安林ニ植栽ヲ爲シタルトキハ速ニ知事ニ届出ヘシ

第十一條　保安林ニ於テ作業ノ制限ヲ超過シ又ハ保護ノ施設ヲ怠リ若ハ本則ニ違背シタルトキハ其作業ヲ停止スルコトアルヘシ

第十二條　保安林所有者ハ森林法施行規則第十條ニ規定セラルルモノノ外住所ヲ移轉シ又ハ氏名ヲ變更シタルトキハ其都度知事ニ届出ヘシ

前項ノ規定ハ森林法第十八條ニ依リ保安林ニ編入ノ告示アリタル森林所有者ニモ之ヲ適用ス

第十三條　保安林臺帳公有林臺帳社寺有林臺帳及森林組合臺帳ニ登錄シタル事項ニツキ利害關係ヲ有スル者ハ知事ニ申請シテ其ノ臺帳ノ閲覽ヲ求ムルコトヲ得

第十四條　森林法第四十條及第五十八條ニ依リ森林ヨリ其產物ヲ運搬スル爲メ又ハ運搬ニ關スル設備ヲ爲ス爲メ他人ノ土地ヲ使用シ若ハ水流ニ於ケル他人ノ工作物使用變更又ハ除却ノ許可ヲ受ケントスル者ハ森林法施行規則第二十條及第二十七條ニ依リ提出スル計畫書及圖面ニ左ノ各項ヲ具シ知事ニ差出スヘシ

一　計畫書ニハ搬出スヘキ物件ノ種類、數量、所在地、搬出先、搬出ノ方法其他必要ナル事項ヲ記載スルコト

二　圖面ハ關係地區全體ノ見取圖及目的地一筆毎ノ實測圖ヲ調製スルコト但實測圖ニハ目的地ノ地番、反別（實測及臺帳トモ）、縮尺、方位、周圍、鄰接地ノ地番及地目ヲ記入シ且必要ナル說明ヲ付スヘシ

第十五條　森林法第四十七條ニ依リ土地形質ヲ變更シ工作物ノ新築、改築、增築若ハ大修繕ヲ爲シ又ハ物件ヲ附加增置セントスルトキハ其願書ニ必要ナル事由及變更ノ種目、坪數、工作物ノ種類、坪數、附加增置セントスル物件ノ種類、員數竝ニ設計方法及豫定經費ヲ記載シ且必要ニ應シ圖面ヲ添付シ知事ニ差出スヘシ

第十六條　森林法第六十一條ニ依リ他人ノ土地ニ立入リ目標ヲ設置シ又ハ支障木竹ヲ伐採セントスルトキハ申請書ニ目的ノ個所ヲ表ハシタル關係地區見取圖ヲ添ヘ左ノ各項ニ具シ知事ニ差出スヘシ

一　目的個所ノ所在地、地番、地目、坪數竝ニ其ノ所有者ノ住所氏名

二　出願ノ事由

三　目標ヲ設置セントスルトキハ其目標ノ種類、個數、構造ノ大サ及其設計

四　支障木竹ヲ伐採セントスルトキハ其樹種及本數

第十七條　森林法第六十四條ニ依リ森林組合ノ設立認可ヲ受ケントスル者森林法施行規則第三十五條ノ條件ヲ具備シタル認可申請書ヲ知事ニ差出スヘシ

第十八條　森林組合ニ於テ毎年實行シタル事業及其成績ハ年度經過後一ケ月以内ニ知事ニ報告スヘシ

第十九條　森林組合ノ總會ニ於テ役員ヲ選任シタルトキハ十日以内ニ知事ニ報告スヘシ役員ヲ改任シタルトキ亦同シ

第二十條　森林組合ニ於テ定款ノ視定ニ依リ會議ヲ開カントスルトキハ議決又ハ執行セシ顚末ヲ届出ヘシ

會議ノ目的事項ヲ届出テ會議ヲ了リタルトキハ

第二十一條　森林組合ニ於テ定款ノ規定ニ依リ違約處分ヲ爲シタルトキハ違約者ノ氏名違約事項及處分ノ結果ヲ届出ヘシ

第二十二條　森林ニ害蟲發生シ又ハ蔓延ノ虞アルコトヲ發見シタルトキハ直ニ所轄市役所町村役場若ハ警察官署ニ申告スヘシ蟲類以外ノ動物及黴菌ノ害ニ就テモ亦同シ

第二十三條　市町村長及警察署長分署長ニ於テ前條ノ害ヲ發見シタルトキ又ハ其申告ヲ受ケタルトキハ直ニ左ノ事項ヲ調査シ知事ニ報告スヘシ

一　被害地又ハ害蟲蔓延ノ虞アル土地ノ所在、地番、地目、面積

二　害蟲名又ハ蟲類以外ノ動物名若ハ黴菌名

三　被害ノ樹種狀況

四　驅除豫防ニ對スル措置ヲ爲シタルトキハ其方法

第二十四條　本則ニ基キ知事ニ差出ス書類ニシテ所轄町村役場及郡市役所經由ノ際町村長及郡市長ニ於テ意見アルトキハ其意見ヲ付シ進達スヘシ

第二十五條　郡市町村其他公共團體ヨリ差出ス書類ハ其團體機關ノ決議謄本ヲ添付スヘシ但決議ヲ要セサル事件ハ此限ニアラス

第二十六條　第六條第二項ニ違背シタル者ハ拾圓以下ノ罰金ニ處シ第十條、第十二條及第二十二條ニ違背シタル者ハ科料ニ處ス

附　則

第二十七條　本則ハ發布ノ日ヨリ之ヲ施行ス

第一號乃至第七號樣式（省略ス）

●國有林野盜伐火入其他取締ニ關スル件（明治四十二年七月保祕第二三號）

國有林野ノ盜伐火入其他ノ取締ニ關シ別紙ノ通警保局長ヨリ通牒有之候條此旨部落ニ訓示シ取締上遺漏ナキヲ期セラルヘシ

（別紙）

内務省祕乙第一六〇號

近來林野事業發展ニ伴ヒ國有林地ニ對シ盜伐火入其他警察事故ノ發生モ亦少カラサルヘク存候處此等警察事務ニ關シテハ當該森林官吏ニ於テ主ラ取締ニ從事致居候得共地方警察官ノ援助ヲ俟ツニアラサレハ之カ周到ヲ期シ難キ場合モ往々有之ヘクト存候然ルニ別ニ當該官吏ノ存在スルカ爲警察官ニ於テ自然怠諸ニ附スル樣ノ事有之候テハ國有林野保護上ニ與フルノ影響少カラサルヘク存候間當該官吏ヨリ援助方依賴有之候際ニ於テ相當便宜ヲ供與スルハ勿論平常ニ於テモ注意ヲ加ヘ取締上遺漏ナキ樣御配慮相成度本件ニ關シテハ豫テ御注意相成居候事トハ存候ヘ共其筋ヨリ內議ノ次第モ有之候條依命此段御通牒候也

明治四十二年七月八日

熊本縣知事　川路利恭殿

內務省警保局長　有松英義

●國有林野特賣ヲ受ケタルモノノ取締ニ關スル件

（明治三十九年十二月訓第一九號）

國有林野ヲ國有林野法第八條第一號第二號ニ依リ特賣シ又ハ同法第十五條ニ依リ讓與ヲ爲シタルモノハ特定ノ目的ヲ以テ願出ヲ許可サレタルモノナルヲ以テ買受者讓受者ハ其目的ノ通リ使用スヘキモノニシテ妄リニ他ノ目的ニ使用シ又ハ轉賣讓與スルモノアルヲ看過セハ法規ノ本旨ヲ空フスルノミナラス名ヲ公用公益等ニ籍リテ出願スルノ弊ヲ生スルニ至ルヘシ故ニ特賣ニ付テハ明治三十二年八月農商務省令第二十六號讓與ニ付テハ國有林野法第十六條ノ規定アル所以ニテ當該官廳ハ該規定ニ依リ之カ取締ヲ爲スニ努ムルモ發見セサル場合ナキヲ保セス殊ニ自今不要存置林野ノ整理處分ヲ爲スニ際シ公用又ハ公益事業ノ爲メニ市町村又ハ公立小學校基本財產ノ爲メニ特賣ヲ出願スルモノ多カルヘク若シ拂下後ニ於テ多數ノ規則違反者ヲ出スコトアラハ甚タ遺憾ノ事ニ有之候ニ付特定ノ目的ヲ以テ國有林野竝副產物ヲ特賣又ハ讓與シタルモノニ對シテハ郡市役所ニ於テ豫メ違犯者ヲ出ササル樣注意スヘキ旨內訓相成候條共尙ホ右拂下ノ場合ハ警察署分署ニ通知相成筈ニ付之カ通知ニ接シタルトキハ同一ノ注意ヲ拂ヒ萬一違犯者ヲ發見シタルトキハ大林區署長ニ通知スルト同時ニ本官ニ報告セラルヘシ

●民有林野火入取締規則

（明治三十九年九月縣令第一〇號）

第一條　警察官署ノ許可ヲ經テ森林原野、山岳又ハ森林ニ接近セル土地ニ火入ヲ爲サムトスルモノハ左ノ各號ヲ具シ火入地所轄警察官署ニ願出ツヘシ但シ左ノ各號ノ一ヲ變更セムトスルトキ亦同シ

一　火入個所ノ地籍、地目、地番及反別

二　火入ノ目的及方法

三　防火設備

四　火入ノ日時

五　火入地及其ノ附近ノ略圖（道路、河川其ノ他接續地ノ地種、目現況竝方位ヲ圖面中ニ記入スヘシ）

六　有接地所有地又ハ承諾書

第二條　火入地ノ狀況ニ依リ其ノ地ノ周圍ニ土堤、堀又ハ柴草其ノ他可燃物ノ除却等幅三間以上ノ防火線ヲ設クヘシ但道路、谿谷等自然ノ防火線ヲ爲シ他ニ延燒ノ虞ナシト認ムルトキハ此ノ限ニ在ラス

第三條　日出前日沒後及風勢隱カナラサルトキハ火入ヲ爲スヘカラス

第四條　火入ノ許可ヲ受ケタルトキハ火入地接續ノ土地所有者若ハ管理者（國有森林、原野、山岳ニアリテハ所轄小林區署）ニ火入期日五日前ニ其ノ旨通スヘシ

第五條　火入中ハ區域ノ廣狹地形ノ如何ニ拘ハラス相當ノ番人ヲ配置シ延燒ノ豫防ヲ爲スヘシ

第六條　森林ニ於テ燒灰、木炭製造等ノ目的ヲ以テ焚火ヲナサムトスルモノハ相當ノ防火設備ヲナシ豫メ警察官署ニ届出ツヘシ

第七條　原野山岳ニ接近セル火入ヲナシタルトキハ火氣消滅シタル後ニ非サレハ其場所ヲ立去ルコトヲ得ス

第八條　森林法及同法施行規則ニ明文ナキモノハ貳圓以上十圓以下ノ罰金ニ處ス

第九條　第六條ノ届出ヲ怠リタルモノハ五錢以上一圓九十五錢以下ノ科料ニ處ス

附　則

第十條　本則ノ罪ヲ犯シタルモノハ刑法ノ數罪俱發ノ例ヲ用ヒス

第十一條　本則ハ明治三十九年十月一日ヨリ之ヲ施行ス

●林野火入及野火取締ニ關スル件（明治四十二年一月警達第一號）

林野火入及野火取締ニ關シテハ相當法規ニ據リ取締ノコトト信シ候處近來各署ノ報告其他ノ狀況ニ依レハ林野ノ火災ハ頻々トシテ起リ其損害尠少ナラサルハ誠ニ遺憾ノ次第ニ有之就テハ其豫防及防禦ノ方法ハ種々可有之モ特ニ左記事項ヲ勵行シ充分ニ取締セラルヘシ

一　火入ハ往々無許可ニテ施行スルモノアリ今後必ス許可ヲ受ケシメタル後施行セシムル樣取締ルコト

二　部下ヲ督勵シ火入及野火取締ヲ勵行スルコト

三　被害ノ廣アル各町村ニ於テハ林野消防ノ方法ヲ設ケシムルコト但民有林野火入取締規則第二條勵行ノコト

第十編　選舉

第十編　選舉

第一章　選舉

●學校教員ハ選舉ノ競爭ニ關係スヘカラサル件

（明治二十七年一月　訓令第二〇號）

一　教育ハ政論ノ外ニ特立スヘキ者ニシテ殊ニ政黨ノ爭ハ普通教育ヲ受クル未成年者ノ腦髓ニ感染セシムヘカラス故ニ學校教員ハ政論ニ干預シ政事上ノ競爭ヲ幇助誘導スルヲ許サス今度議員選舉ノ事アラントスルニ當リ學校教員ノ職ヲ帶フル者ハ其身固有ノ選舉權ヲ行フノ外何等ノ黨派ニ向テモ直接ニ間接ニ選舉ノ競爭ニ關係スヘカラス

三　公立學校教員ニシテ議員被選人タラントスル者ハ其志望ヲ表白スルト同時ニ教員ノ職ヲ辭スヘシ

●神官ハ議員選舉ニ關係スヘカラサル件

（明治二十七年二月　訓令第二五號）

衆議院議員ノ選舉ニ際シ神官ハ自己享有ノ選舉權ヲ行フノ外直接ト間接トヲ論セス總テ政論ニ容喙シ朋黨ニ加盟シ選舉ノ競爭ニ關與ス可ラス專心一意本務ニ從事セシムヘシ

第十一編　兵事

第十一編　兵事

第一章　召集

◐陸軍召集事務取扱規則

（明治三十三年四月訓令甲第三〇號）

第一條　本規則ハ陸軍召集條例（以下單ニ條例ト記ス）陸軍召集諸費支出規程（以下單ニ規程ト記ス）ニ關シ必要アルモノ及樣式等一定ヲ期スル爲メ該事務取扱ニ關スル事ヲ定ム

第二條　條例第十八條ノ應召員宿泊ニ供スル軍用旅舍ハ左ノ箇所ニ於テ市町村長之ヲ指定シ町村長ハ附錄第一號樣式ニ依リ製表ノ上郡長ニ報告シ郡市長ハ同樣式ニ依リ一郡市一表ニ製シ速カニ當廳ニ報告スヘシ爾後變更シタルトキ亦同シ但看板及標旗又ハ標燈ヲ準備セシメ置クヘシ

熊本市　熊本市街
飽託郡　川尻町　春日村
宇土郡　宇土町　三角村
玉名郡　木葉村　高瀬町
鹿本郡　山本町　植木町
菊池郡　隈府町　大津町
阿蘇郡　坂梨村　宮地村
北小國村　波野村ノ內解倉
南關町　府本村
長洲町　岩野村
瀬田村　白水村ノ內吉田新町
陳內村　內牧村
馬見原町
不知火村

（場合ニ依リ附近村落ニ及ホスコトモアルヘシ）

上益城郡　濱町村　御船町　木山町
下益城郡　小川町　松橋町
八代郡　八代町　宮原町　吉野村
葦北郡　日奈久村　田浦村　佐敷村　水俣村
球磨郡　人吉町　神瀬村　一勝地村　渡村
天草郡　本渡町　登立村

前列記ノ外郡市長、警察署長、同分署長ニ於テ必要ト認ムル个所アルトキハ互ニ協議ヲナシ郡長ハ町村長ニ該个所ヲ指示シ郡市長ヨリ其旨當廳ニ報告スヘシ

第三條　警察官吏出張ヲ要スル場所ハ前條軍用旅舍ノ外概ネ左ノ个所トス
召集事務所（集合場ニ於ケル事務所ノ設置アルトキ）
縣内ニ屬スル各停車場
飽託郡　百貫石港　不知火村ニ屬スル波止場
宇土郡　三角港　戸馳渡場
八代郡　球磨川各渡場　日奈久村波止場　佐敷村計石波止場　水俣村波止場
葦北郡　日奈久村波止場
球磨郡　球磨川各渡場　登立村渡場
天草郡　柳ノ瀬戸渡場　本渡ノ瀬戸渡場

前列記ノ外警察署長同分署ニ於テ必要ト認ムル場所

第四條　軍用旅舍ニ掲クヘキ看板ハ附錄第二號樣式ニ依リ調製セシムヘシ

第五條　細則第二十三條及ヒ第二十四條ノ憲兵又ハ警察官吏ノ通知若クハ報告書ハ附錄第三號樣式（鹿本、菊池、阿蘇三郡ハ本樣式ニ依ルノ限リニアラス）ニ依リ調製スヘシ
但細則第三十二條第三十三條第三十六條第三十七條及補充召集、演習召集、教育召集、補缺召集、簡閲點呼ニ關スル通知又ハ報告書モ本樣式ヲ準用スヘシ

第六條　郡市長ハ規程第十條ノ召集諸費概算表ヲ其向ヘ送付スルト同時ニ當廳ヘハ寫（全部召集ノ分ノミ）ヲ以テ報告スヘシ

第七條　郡市町村長ハ召集實施ノ際取扱タル事務ハ詳細景況書ヲ作リ町村長ハ附錄第四號樣式ニ依リ人員表調製ノ上該事務結了後五日以内ニ郡長ニ報告シ郡市長ハ同樣式ニ依リ一郡市一表ニ製シタル表ヲ添ヘ十日以内ニ當廳ニ報告スヘシ

附錄第一號樣式　用紙場形紙以下用紙皆同シ
某郡市（町）（村）軍用旅舍一覽表

住所	身分	職業	宿舍ニ充ツヘキ疊數 二階總數一下タ總數	氏名
計				

一 本表ハ一町村、一郡市一表ニ製スヘシ

二 住所ノ區畫市ハ市町名番地ヲ町村ハ郡町村名字迄ヲ記スヘシ

三 氏名ノ肩ニハ屋號ヲ記スヘシ

四 甲町村ヲ記シ終リ乙町村ト順次ニ記シ甲乙町村ヲ混記セサルヲ要ス

五 疊ハ一町村ニ百五十枚（最下限トス）以上ヲ準備スヘシ

附錄第二號樣式

板

（曲尺）一尺

○軍用旅舍

縣郡市町村大字番地
屋號

何

某

凡三尺（曲尺）

一 表面及裏面トモ記載方ハ同一トス若シ門戶ノ柱等ニ揭クルトキハ表面ニハ記載ヲ要セス

附錄第三號樣式

左記ノ人名頭書ノ通ニ付陸軍召集條例施行細則第（何）條（何）項ニ依リ通知（報告）候也

年 月 日

某市長（町村長） 氏 名 印

宛（憲兵又ハ警察官吏何レニテモ差支ナシ）

摘要	召集部隊名	召集期日	住所	何役官兵種等級	氏名
召集令狀交付濟	歩十三聯隊		（町村字番地）	豫備役歩兵一等卒	何某
全家所在不明令狀ヲ交付シ得ス（何々々）	〃	〃	〃	〃	〃
全家所在不明令狀ヲ交付シ得サリシ處某所ニ住居發見ニ付令狀交付濟	〃	〃	〃	〃	〃
病氣ノ爲應召スル能ハス	〃	〃	〃	〃	〃
病氣不應ノ處快復届出ニ付何日出發セシム（期日後ニ付出發差止）	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃
〃	〃	〃	〃	〃	〃

一 本條朱書第一罫ハ細則第二十三條第二項第二罫ハ同條第三項第三罫ハ同條第四項第四罫ハ同第二十四條第一項第五罫ハ同條第二項ニ當ルモノノ一例ヲ示スモノナリ

二 此通知、報告書ハ人員ヲ豫定（多少ノ餘シ罫ヲ有シ）平素用紙ヲ準備シ置クヘシ

但市役所ニ於テハ兼テ摘要ノ區畫ヲ除ク外總テ記載シ異動アル毎ニ加除訂正ヲ施シ實際ニ臨ミテハ令狀ヲ交付シタルモノノミヲ殘シ他ハ朱線ヲ施シ檢印ヲ捺シ之ヲ他ニ

準備シ置ク所ノ用紙ニ移記シ夫々使用シ得ル如クナシ置クヲ可トス

三　此人名書ノ記載方ハ先ツ甲町村ノ者ヲ記シ了リ乙町村ト順序ニ記シ甲乙町村ノ者ヲ混記セサルヲ要ス

四　住所ハ町村ハ字迄市ハ番地モ記スヘシ

附錄第四號樣式

陸軍充員召集（何々々々）人員表

年月日調製　某郡市役所（町村役場）

區分 / 兵種	下士				兵卒				計	
	豫備		後備		豫備		後備			
	應	不應	應	不應	應	不應	應	不應	應	不應
歩										
騎										
野砲										
砲輸										
要砲										
砲助										
工										
輜重										
輜輸										
職工										
計										

一　本表ハ一例ヲ示スモノニ付種類ハ實際ノモノヲ表題ニ掲クヘシ

二　將校同相當官特務曹長ハ本表ノ人員ニ加ヘス該表ノ備考ニ兵種官氏名ヲ列記スヘシ

三　本表ノ區畫ハ實際ノモノニ付適宜增減スヘシ

四　本表野砲ハ野戰砲兵、砲輸ハ砲兵輸卒、要砲ハ要塞砲兵、砲助ハ砲兵助卒、輜輸ハ輜重輸卒ヲ略シタルモノナリ他ハ推知スヘシ

●召集書類燒棄ニ關スル件

（明治三十一年六月警達甲第一二號）

陸軍召集條例施行細則ニ依リ警察署警察分署ニ於テ取扱フヘキ後記ノ書類ハ其年度限リニ屬スルモノニ付翌年度ニ至リ之ヲ燒棄シ其目錄ヲ調製シ保存セヲルヘシ

一應召員到著日數表
一充員召集員區分表
一國民兵集合場到著日數表
一國民兵召集員配當表
一國民兵集合場
一充員區分表

●海軍軍用旅舍設置及渡航場指定ノ件

（明治三十六年十月訓令甲第五九號）

熊本市　熊本市街
飽託郡　川尻町　春日村
宇土郡　宇土町　三角村　不知火村
玉名郡　木葉村　高瀬町　長洲町　南關町　府本村
鹿本郡　山鹿町　植木町
菊池郡　隈府町　大津町　陳内村　瀬田村
阿蘇郡　坂梨村　宮地町　高森町
上益城郡　濱町村　御船町　木山町
下益城郡　小川町　松橋町
八代郡　八代町　宮原町　吉野村
葦北郡　日奈久町　田浦村　佐敷村　水俣村
球磨郡　人吉町　多良木村　神瀬村　一勝地村　渡村
天草郡　本渡町　登立村
前列記ノ外必要ト認ムル箇所アルトキハ郡長警察署長同分署長相互協議ノ上郡長ハ町村長ニ該箇所ヲ指示シ其旨當廳ヘ報告スヘシ旅舍ハ各市町村共概ネ五十名以上ヲ宿泊セシムルニ足ルヘキモノトス若シ適當ノモノナキトキハ陸海軍同一旅舍ニ宿ルモ妨ケナシ
渡船場、停車場、波止場等
飽託郡　百貫石波止場
宇土郡　三角港　戸馳渡場　日奈久町波止場
八代郡　球磨川各渡場
葦北郡　水俣村波止場　佐敷村字計石波止場
球磨郡　球磨川各渡場
天草郡　柳ノ瀬戸渡場　木戸瀬戸渡場　登立渡場
縣内ニ屬スル各停車場
前列記ノ外警察署長若クハ同分署長ニ於テ必要ト認ムル場所

●陸海軍召集及徵發ノ通知ニ接シタルトキ當直取扱規程

（明治三十年七月達甲第二七號）

第一條　本廳當直員（知事官房内務部警察部ヲ含有ス）ニ於テ陸海軍臨時兵員召集又ハ徵發ノ通知ニ接シタルトキハ直ニ申合セヲナシ一名ハ書類ヲ携帶シ知事若クハ代理官ノ閲覽ヲ受ケ直ニ内務部長ニ通知シ他ノ二名ハ同時ニ内務部第三課兵事主任警察部保安課常務主任知事官房往復主任内